

文部科学省「多様な新ニーズに対応する「がん専門医療人材(がんプロフェッショナル)」養成プラン」採択事業
新ニーズに対応する九州がんプロ養成プラン

令和4年度 内部評価報告書

九州大学・福岡大学・久留米大学・佐賀大学・長崎大学
熊本大学・大分大学・宮崎大学・鹿児島大学・琉球大学



新ニーズに対応する九州がんプロ養成プラン

令和4年度 内部評価報告書

目次

タイトル	ページ
はじめに	2
自己評価一覧	3
九州がんプロ全体の内部評価	4
各大学の内部評価	9
九州大学	9
福岡大学	19
久留米大学	22
佐賀大学	26
長崎大学	30
熊本大学	36
大分大学	40
宮崎大学	45
鹿児島大学	49
琉球大学	53
数値実績一覧	55
セミナー・シンポジウム等	55
満足度調査／指導技術向上等のためのFD／ホームページ・SNS更新	57
教育プログラム・インテンシブコースの受入実績	58
受験・合格・資格取得者	60

はじめに

『新ニーズに対応する九州がんプロ養成プラン』は、九州内の 10 大学（九州大学・福岡大学・久留米大学・佐賀大学・長崎大学・熊本大学・大分大学・宮崎大学・鹿児島大学・琉球大学）が参画する事業であり、文部科学省が行う『多様な新ニーズに対応する「がん専門医療人材（がんプロフェッショナル）」養成プラン』事業（平成 29 年度～令和 3 年度）の採択を受け、補助事業終了後も継続して活動しています。

本報告書は、令和 4 年度（令和 4（2022）年 4 月 1 日～令和 5（2023）年 3 月 31 日（見込み））の実績を取りまとめ、各大学・プラン全体での自己評価（内部評価）を行ったものです。

なお、本報告書をもとに外部評価委員の先生方による第三者評価をいただくことで、次年度以降、客観的視点も踏まえた事業改善を行い、新ニーズに対応できる人材を養成して参ります。

※内部評価は、平成 29 年度から毎年継続して実施しています。

「新ニーズに対応する九州がんプロ養成プラン」
令和4年度内部評価

[選択肢] a:十分に目標を達成できている / b:目標を達成できている / c:あと少しで目標を達成できる / d:目標を達成できていない

○「新ニーズに対応する九州がんプロ養成プラン」全体としての自己評価

九州がんプロ	b:目標を達成できている
--------	--------------

○各大学の自己評価

九州大学	b:目標を達成できている
福岡大学	C:あと少しで目標を達成できる
久留米大学	b:目標を達成できている
佐賀大学	C:あと少しで目標を達成できる
長崎大学	b:目標を達成できている
熊本大学	b:目標を達成できている
大分大学	b:目標を達成できている
宮崎大学	C:あと少しで目標を達成できる
鹿児島大学	C:あと少しで目標を達成できる
琉球大学	C:あと少しで目標を達成できる

「新ニーズに対応する九州がんプロ養成プラン」内部評価・外部評価シート

作成担当コーディネーター	九州大学 馬場 英司（幹事コーディネーター・北部エリア部会長）
	長崎大学 芦澤 和人（西部エリア部会長）
	鹿児島大学 上野 真一（南部エリア部会長）
事務担当者	九州大学医系学部等事務部 学務課 田中 紀代美

1. 概要

活動の目的・必要性 総論 ※前期から継続した内容

本プランでは、これまでの15年余に及ぶ九州内の医療系大学との継続的ながん教育連携を基盤として、九州大学の九州連携臨床腫瘍学講座を中心に10の大学院および関連医療機関等が密接に連携し、九州内の多様な新ニーズに対応できるがん専門医療人を養成している。また、長崎大学の臨床腫瘍学分野、鹿児島大学の臨床腫瘍学講座にも専任の教員を配置し、両大学が九州の西部エリア、南部エリアの連携の要となり、特にライフステージに応じたがん対策を推進できる多職種人材の養成を進めている。

本プラン参加大学では、各大学病院内のゲノム医療関連部門、小児・AYA世代がん医療部門、希少がん診療部門等と密接な連携に基づく実地教育を行う。対面講義・研修等に加え、遠隔通信等も利用し広域にわたる大学連携を機能的に実現させ、新ニーズに対応した大学間連携、多職種連携体制の構築と情報発信を行う。また、ゲノム医療や小児・希少がんに対する海外の先進事例を積極的に収集し発信することで、本プランのみならず我が国におけるがん専門医療人の養成に寄与する。

達成目標 ※前期から継続した目標

- 達成目標1：九州内の多様な新ニーズに対応するがん専門医療人を養成する。
- 達成目標2：ライフステージに応じたがん対策を推進する多職種人材養成を行う。
- 達成目標3：ゲノム医療や小児・希少がんに対する海外の先進事例を積極的に収集し発信することで本プランのみならず我が国におけるがん専門医療人の養成に寄与する。

目的・達成目標に対する今年度の実績 ※達成目標1～3に触れながら記載。必要に応じて、図や写真等を追加することも可能。

- ・10大学において、計35コース（大学院24コース、インテンシブ11コース）が設置。日々教育が行われており、本年度は計63名（大学院コース42名、インテンシブコース21名）の新規受入があり、現在、大学院コースには計約390名の学生が在籍している。
- ・2020年4月に設置した「新ニーズに対応するがん専門医療人養成インテンシブコース」では、本年度は合計4名の新規受入があった。全国eラーニングクラウドを利用し多職種のがん専門医療人を対象とした、「ゲノム医療」「小児・AYA・希少がん」「ライフステージに応じたがん対策」といった、がんの新ニーズに求められる専門領域の知識や最新情報を提供している。九州大学に設置の「eラーニング支援室」を中心として『全国eラーニングクラウド』へ提供する講義の収録・編集・公開も進んでおり今年度は合計21講義収録完了し19講義を公開した。がんプロ履修生はeラーニングシステムを活用し、九州がんプロ内だけでなく他拠点の講義も視聴することで、がんゲノム医療をはじめとした最新情報を得ながら、がん専門医療人となるべく研鑽を積んでいる。
- ・例年実施している「九州がんプロ全体研修会」をオンライン形式で開催し、九州がんプロ全10大学が参加し、職種・学生・教員の枠を超えて交流、講演、症例検討を行い、58名の参加があった。九州大学が主体となった運営のもと「がんゲノム医療の現状」に関する特別講演や、地域医療、キャリアパス、男女参画に係る講演など多様なテーマを取り上げることができ、参加者アンケートでも回答いただいた全員より次回も参加したいとの高評価を得た。
- ・九州がんプロ履修生による「教育研究成果発表会」をハイブリッド形式で開催し、多職種のがんプロ教員・学生が参加し九州全10大学から65名の参加があった。九州がんプロ5大学より学生各1名ずつが発表を行い、優秀な発表を行った上位3名には新ニーズに対応する九州がんプロ養成プラン研究奨励賞を授与した。
- ・長崎大学では、大学院生に対し在宅医療実習または離島・僻地実習を継続して行い、フステージに応じた専門医療人の養成を行った。
- ・北部エリア（九州大学・福岡大学・久留米大学・大分大学）では、合同による「市民公開講座」を本年度中にYouTubeにて配信予定である。希少がんについて、がん相談支援センターの役割について情報発信する。各大学においても市民公開講座を開催しており、さらに広い市民層へがん医療、九州がんプロの取組について発信することが期待できる。



実績を踏まえた成果（学生教育の観点での成果について記載すること）

※適宜、学生のキャリア教育、キャリア形成の点にも触れながら記載すること。必要に応じて、図や写真等を追加することも可能。

がんプロコースにおいて、今年度は**77名の修了者（大学院38名、インテンシブ39名）を輩出**した。各コース学生のうち**17名が、各種専門医**（がん治療認定医、小児血液がん学会専門医、医学物理士、がん看護専門看護師など）に合格しており、今後、がん専門医療人として九州における即戦力となることが期待できる。また、今年度も「**在学生へのアンケート**」を実施。ウェブアンケートを採用し、在学生の負担軽減とともに回収率を高めることができた。また、「新ニーズに対応するがん専門医療人材インテンシブコース」の履修生に対してもアンケートを実施し、回答者の77%から「全体的な満足度」の項目4もしくは5の高評価を得た。

九州がんプロホームページでは「**修了者の声**」と題したコーナーに、継続して各大学のがんプロコース修了者（第2期含む）の記事の掲載を行った。**計11名の記事を新たに掲載**することで、在学生・市民 に対して広くがんプロの情報を発信した。今後、本記事を活用してがんプロコース履修者のリクルートに努めるとともに、記事掲載した修了者と在学生の実際の交流を設ける等して、より具体的なネットワークの構築を行う。

長崎大学では、在宅医療実習または離島・僻地実習を行うことで、地域医療を理解し、ライフステージに応じたがん対策を推進する多職種人材養成を継続して行った。

九州がんプロでは、国内外の様々な医療人との交流機会も活用しながら、幅広い視野と豊富な経験を持つ、今後の日本がん医療を率いるプロフェッショナルを引き続き育成する。

2. 各事業の取り組み状況

（1）事業計画に基づいた内容への対応

No	具体的な事業内容	実施計画
①	教育コース（大学院コース、インテンシブコース）による教育を継続して実施する。	4月～3月 教育コース（大学院コース、インテンシブコース）を実施。
②	本プランを有効かつ効率的に運営するため、「新ニーズに対応する九州がんプロ養成プラン事務局」により事業の事務管理を行う。	4月～3月 「新ニーズに対応する九州がんプロ養成プラン事務局」により事業の事務管理を実施。
③	「e-ラーニング支援室」を中心とし、各大学にて e-ラーニング教育コンテンツの作成、提供、維持管理を行う。	4月～3月 「e-ラーニング支援室」を中心として、各大学にて e-ラーニング用コンテンツを継続して作成・公開。
④	本プランにおける取組、成果を開示して広く国民の理解をいただくため、また継続的な履修生確保のため、各大学や本プランのホームページを継続して運用し、情報発信を行う。	4月～3月 各大学、本プランのホームページにより情報発信を行う。
⑤	事業運営の意思統一、円滑な運営のため、「事業運営推進協議会」を開催する。	5月、2月 「事業運営推進協議会」を開催。
⑥	各大学において、また各エリア内の大学等が協働し、新ニーズに関するシンポジウム、セミナー、講習会、市民公開講座等を実施する。	4月～3月 各大学にてシンポジウム、セミナー、講習会、市民公開講座等を実施。複数大学の協働による市民公開講座を実施。離島・僻地等におけるがん医療についての研修を実施。履修生による「教育研究成果発表会」開催による本プランの効果の発信。
⑦	本プランの参加大学共同による研修会を実施する。	9月～11月 九州がんプロ全体研修会を開催。
⑧	小児・AYA 世代がんと医療に関する講習会を、各大学や大学間の連携のもとで実施する。	6月～3月 小児・AYA 世代のがん医療に関する講習会、小児緩和医療講習会を実施。
⑨	事業の進捗状況を評価するため、外部評価委員による評価を実施する。	2月～3月 外部評価委員による評価を実施。
⑩	履修生の今後のキャリア形成支援等を目的として「先輩医療人による講演会」、「男女共同参画に係る講演会」を実施する。	9月～11月 がんプロ修了生の活動や男女共同参画に係る講演会を開催。
⑪	がんプロ履修生・修了生の専門医資格等の取得について個別の支援を行う。	6月～7月 「専門資格取得アドバイザー」による個別相談、日本臨床腫瘍学会「がん薬物療法専門医」症例実績報告書の添削支援を行う。

No	実績 ※1～2行程度で簡潔に記述	成果（学生教育の観点での成果について記載）※同左
①	大学院 24 コース、インテンシブ 11 コースにて学生を受入。	約390名が在籍。受入数63名、修了者77名を輩出。
②	九州大学の事務局スタッフが各大学の情報収集および進捗管理を行った。	事務局スタッフが各大学と密接に連携し、各種研修・講習会等に多くのがんプロ履修生を動員することができた。
③	eラーニング支援室専任スタッフおよび各大学担当教職員のもと、eクラウド用の講義収録等を実施した。	合計 21 の講義を収録完了し、19講義を公開した。現在随時、編集・公開作業を進めている。
④	九州大学の事務局スタッフが各大学の情報収集・発信を行った。	計 24 回の記事掲載・更新を実施。SNS (Facebook、Twitter) も活用し 38 回の投稿発信を行った。
⑤	今年度は合計 4 回の会議（予定含む）を実施し、事業運営について協議した。	Web 会議・メール会議を活用し、多大学による運営を効率的に進めることができた。
⑥	各大学でのべ 55 回シンポジウム、セミナー、講習会、市民公開講座を実施し、約 2,800 人の参加を得た。	新ニーズに関するテーマで、学内外に対して情報提供、啓蒙活動を行った。
⑦	11 月にオンラインにて九州がんプロ全体研修会を実施した。	がんプロ教員・履修生など 58 名の参加を得た。症例検討等を通して多職種での情報共有・交流を図った。
⑧	各大学において小児・AYA 世代がんの緩和医療に関する講習会等を実施した。	各大学病院との連携により教育を継続。拠点内（大学間）での共有・波及を次年度具体的に検討する。
⑨	3月に外部評価委員による書面評価を実施予定。	外部評価委員からのフィードバックにより、各事業の自己点検・進捗管理を行う。
⑩	全体研修会において、がんプロ卒業生による先輩医療人による講演を行った。	がんプロコース卒業後のキャリアパス形成について、学ぶことができた。
⑪	日本臨床腫瘍学会「がん薬物療法専門医」症例実績報告書の作成支援として、1 名に対して 30 症例の添削・アドバイスを実施した。	合否は3月発表の為、現時点では未定である。

(2) 各事業の実績・成果（詳細）※各大学の取り組みも踏まえ、特色ある内容等に触れながら記述すること。

①教育コース（大学院コース、インテンシブコース）※別表「数値実績一覧」も参照して記述
<ul style="list-style-type: none"> ・10大学・計35コース（大学院24コース、インテンシブ11コース）において教育を実施。今年度は合計約390名の学生が在籍し、77名の修了者を輩出した。 ・2020年4月に新たに設置した、「新ニーズに対応するがん専門医療人養成インテンシブコース」において、今年度は合計4名の新規受入があった。 ・各コース学生のうち17名が、各種専門医に合格。がんプロ卒業生にも継続して指導を実施している。 ・一部、目標に届かなかったコースもあることから、単一大学内での検討に留まらず、九州がんプロ全体として改善策を検討・対応していく。 ・九州がんプロ学生及び修了生に対して、「日本臨床腫瘍学会がん薬物療法専門医症例実績報告書」の作成支援を実施しており、今年度は1名より30症例分について各癌種の専門医が査読および指導を実施した。
②シンポジウム、セミナー、講習会等 ※別表「数値実績一覧」も参照して記述
<p>今年度は、合計55回のシンポジウム・セミナー等を開催。約2,800名もの参加が得られ、当初目標を大きく上回る事ができた。各大学において他施設との連携・共同によるセミナー等も活発化しており、地域の医療従事者をはじめとした学外者も多く参加している。今後がんプロの輪を更に各地域の中へ広げるべく、積極的な開催を進める。また、前述のとおり、新たな視点での企画実施により、幅広い層へがん医療・がんプロを周知することができた。次年度も継続して同様の企画を実施し、がん医療の裾野を広げていくとともに、こういった事業にがんプロ履修生も巻き込み、教育にも展開・波及させていく。</p>
③地域や社会への情報発信の取り組み（ホームページ、SNS等の実績含む）※別表「数値実績一覧」も参照して記述
<p>九州大学に置く「九州がんプロ事務局」が各大学の情報を収集し、積極的にホームページで発信するように努めた。今年度は合計24回の記事掲載・更新を行った。また、ホームページと連動した SNS (Facebook, Twitter) も活用し、合計38回の投稿を行い、広く社会へ広報した。</p>

④大学関連病院との連携（特に「がん診療連携拠点病院」「小児がん拠点病院」との連携に関して）

各大学において、がん診療連携拠点病院・小児がん拠点病院との連携により、カンファレンス、研修会・セミナー、市民公開講座等を積極的に実施している。これらに、がんプロ教員・履修生をはじめ各医療機関の医師・医療スタッフが参加し、知識向上・意見交換を行っている。

⑤離島・僻地対策 ※一部地域のみでの取り組みではなく、九州全体での取り組みが分かるように記述すること。

長崎大学において、ライフステージに応じたがん専門医療人の育成のため、大学院生に対し、在宅医療実習または離島・僻地実習を継続して行った。
また、「九州がんプロ全体研修会」をオンラインで開催し、「ライフステージに応じた造血器腫瘍の治療」に関する特別講演、地域におけるがん医療やがん専門医療人材のキャリアパスにも焦点をあてた講演を行い、九州内での情報共有を行った。次年度以降、更に拠点全体に波及できるような事業を計画する。

⑥自己評価体制（拠点間リトリート含む）

内部評価を実施し、この結果を外部評価委員に依頼し第三者評価を行うことで、客観的な視点も加えた事業の見直しを実施する。

3. 拠点（九州がんプロ）内の連携体制

①各エリアでの活動

	活動内容 ※5行程度で記述
北部エリア	○構成：九州大学（エリア拠点）、福岡大学、久留米大学、大分大学 ・大分大学と九州大学では、今年度も合同カンファレンスを実施し互いの最新情報を共有した。 ・今年度中に、希少がんについて、がん相談支援センターの役割をテーマにした市民公開講座をオンライン配信予定にしている。がんに関する情報を提供するとともに、九州がんプロの取り組みについても市民への情報発信を行う。
西部エリア	○構成：長崎大学（エリア拠点）、熊本大学、佐賀大学 ・長崎大学がんプロ記念講演会において、国立がん研究センター東病院 呼吸器内科 医長 松本慎吾 先生に、「大規模肺癌ゲノムスクリーニングに基づく肺癌最適医療の確立」のテーマでご講演頂き、情報を共有した。
南部エリア	○構成：鹿児島大学（エリア拠点）、宮崎大学、琉球大学 ・鹿児島大学、宮崎大学、琉球大学それぞれが独自に策定したプランにしたがってがん医療専門家の養成を行った。南部エリアとしてのがんプロ事業はなかったものの、九州がんプロ全体で行われる全体研修会や教育研究成果発表会に積極的に参加し、がん医療推進に向けた九州内拠点との連携を深めた。

②その他：上記エリアに限らず、大学間の連携や役割分担について特記すべき取り組みがあれば記載（5行程度）。

特になし

4. 事業の補助期間終了時における「がんプロフェッショナル養成推進委員会」の事後評価への対応

(1) 推進委員会所見（令和4年7月1日発表）への対応状況

	所見の内容 ※編集不可	推進委員会所見に対する今年度の対応状況
①	補助期間終了後においても、引き続き、本事業により構築された教育プログラムや他機関との協力関係を活かした医療人材の養成の一層の推進に努めること	補助期間終了後も、各大学において教育プログラムを継続して実施した。オンラインシステムを利用した大学間の会議や研修会を開催し、がん専門医療人の育成に寄与した。また、がん診療連携拠点病院、小児がん拠点病院等の他施設と連携し、研修やセミナー等を多数開催した。
②	ゲノム医療、小児がん・希少がん、ライフステージに応じたがん対策の3つの分野ごとの養成人数や取組成果などを適切に把握するとともに、がん診療連携拠点病院等と連携するなど、社会のニーズにより応えられるよう改善していくこと	各大学にて、がんゲノム医療セミナーや小児緩和ケアチーム勉強会といったセミナーを開催した。全体研修会では、がんゲノム医療に関する講演を実施した。

③	引き続き、全国の拠点が一体となったフォーラム等の開催や、がん患者からの声を吸い上げ、本事業の取組の成果とともに社会や地域に広く情報発信していくこと	各大学において、セミナーや市民公開講座を開催し、がん医療について情報提供すると共に、九州がんプロの公式ホームページおよびSNSを継続運用し、積極的な情報発信を実施した。
---	---	--

(2) 本プラン（九州がんプロ）に対する推進委員会からのコメントへの対応状況

	推進委員会のコメント（改善を要する点等） ※事後評価結果の内容を転記（編集不可）	推進委員会からのコメントに対する今年度の対応状況
①	活発な大学とそうでない大学間に未だ格差が見られる。e-learning, クラウド教材の視聴が 0 であった連携校が 2 校あり、特に南九州との連携が不十分である。	「新ニーズに対応するがん専門医療人養成インテンシブコース」を今年度も引き続き受入を行った。事業運営推進協議会を開催し、意見交換、情報共有を行い拠点内での連携を図った。
②	希少がん、ライフステージに関する養成が十分とは言えないことから、改善が必要である。	希少がん、ライフステージに関する教育プログラムコースにおいて受入を行った。長崎大学において、今年度も引き続き在宅医療または離島・僻地実習を実施し、ライフステージに応じたがん対策を推進する多職種人材養成を行った。
③	僻地を意識した九州地区ならではの活動については、重要な活動と思われるので情報発信及び共有も含めて引き続き注力して取り組んでいただきたい。	長崎大学では、在宅医療実習または離島・僻地実習を継続して実施し、地域医療や離島・僻地医療を理解すべく、多職種人材養成を継続して行った。

5. 自己評価

[選択肢] a:十分に目標を達成できている / b:目標を達成できている / c:あと少しで目標を達成できる / d:目標を達成できていない
b : 目標を達成できている
理由・分析等
<ul style="list-style-type: none"> ・補助期間終了後も、学生を受け入れ教育プログラムを継続して実施した。また、修了者・資格合格者も輩出が進んでいる。 ・各大学、各エリアにおいて当初目標を大きく上回る数の大小様々な規模のシンポジウム・セミナー等を開催し、がん専門医療人の育成に寄与した。各大学においてがん診療連携拠点病院・小児がん拠点病院等の他施設との連携・共同も活発化している。また、一般人を対象とした市民公開講座を開催予定にしており、啓蒙活動やがんプロ事業の周知を行った。 ・各大学、各エリアにおいて特徴的な活動実績が出ている。 ・各大学のがんプロ活動情報を収集し、積極的にホームページ、SNSで発信し、広く社会へ広報できた。
自己評価を踏まえた、来年度に向けての改善点等
<ul style="list-style-type: none"> ・一部、学生の受入がなかった教育コースもあることから、単一大学内での検討に留まらず、九州がんプロ全体として改善策を検討し、引き続き積極的な学生受入を行う。地域差により学生確保に課題を持つ大学については、他大学からも積極的にアドバイスや協力を行う等して、拠点としての目標達成を目指す。 ・がんプロ内だけでなく、各大学附属病院の機能を活かし、他診療科とも更に積極的に具体的な事業・教育を行うことで、連携体制の可視化を行う。また、がんプロ教員・履修生が各施設の事業・教育活動に積極的に関与することで、大学院入学前の研修医や学部学生のがん医療への興味を高めていく。 ・人工知能技術の急速な発展と実用化など、医学以外の成果や技術がめざましく、今後がん医療においてもその重要度を増していくと想定される。医療系学部以外との連携を強め、学際的研究を推進していく。 ・がん治療の進歩とともにがん罹患後も長期生存する患者も増えており、それに伴いがんサバイバーのケアの重要度を増している。またゲノム医療の発展とともに患者及びその家族のがんのプレディスポジションが明らかとなることも少なくなく、がんを予防・早期発見することがさらに求められている。これらの長期にわたる診療・ケアを遂行できる人材の養成も目指す。

「新ニーズに対応する九州がんプロ養成プラン」内部評価・外部評価シート

大学名	九州大学
コーディネーター	大学院医学研究院 社会環境医学講座 連携社会医学分野 教授 馬場 英司
事務担当者	医系学部等学務課 課長補佐 田中 紀代美

1. 概要

達成目標 ※前期から継続した目標（編集不可）

- 達成目標1：九州内の多様な新ニーズに対応するがん専門医療人を養成する。
- 達成目標2：ライフステージに応じたがん対策を推進する多職種人材養成を行う。
- 達成目標3：ゲノム医療や小児・希少がんに対する海外の先進事例を積極的に収集し発信することで本プランのみならず我が国におけるがん専門医療人の養成に寄与する。

達成目標に対する今年度の実績 ※達成目標1～3に触れながら記載。必要に応じて、図や写真等を追加することも可能。

- ・本年度は「ゲノム基盤臨床腫瘍学コース」10名、「小児がん・希少がん臨床腫瘍学コース」1名、「先端医用量子線技術科学コース」13名、「がん専門細胞検査士コース修士課程」1名、「がん研究薬剤師コース博士課程」2名の合計27名の新規受入があった（「希少がん・放射線治療学コース」の今年度受入はなし）。これにより現時点での本学におけるがんプロコースへの在籍者は合計92名となった。
- ・全国eラーニングクラウドを利用し多職種のがん専門医療人を対象にした、「がんゲノム医療」「小児・AYA・希少がん」「ライフステージに応じたがん医療」といった、がんの新ニーズに求められる専門領域の知識や最新情報を提供するインテンシブコースでは、本年度は3名の新規受入があった。
- ・がんプロ履修生に対して新ニーズ「がんゲノム医療」「小児・AYA・希少がん」「ライフステージに応じたがん医療」を主題とするがん教育プログラムを作成、講義を行った。その大部分となる21回分の講義については、収録も同時に実施しeラーニング教材を作製した。全国eラーニングクラウドへのアップロードも進めており現在19講義のアップロードを完了している。
- ・がんプロ履修生が複数のがん種の臨床研修を臓器横断的に行えるよう診療科間のコーディネートをを行った。本年度は、がんプロ学生1名に対して「日本臨床腫瘍学会がん薬物療法専門医」の資格取得支援を実施した。また、小児血液がん学会専門医や消化器がん外科治療認定医、医学物理士といった専門医資格を8名が取得した。
- ・がんプロ履修生と教員に加え、九州大学病院や診療連携拠点病院からの多職種の出席者を加えた「がんゲノム医療セミナー」を九州大学病院ARO次世代医療センターとの共催で開催した（本年度計3回、合計518名参加）。
- ・九州大学病院がんセンターとの共催にて、「九州大学病院がんセミナー」を開催した（本年度計3回、合計261名参加）。九州大学病院やがん診療連携拠点病院からの多職種の出席者があり、がん診療について幅広い知識を習得するために、各臓器の専門医によるガイドラインや最新のエビデンスに基づいた講習を行った。また、「九州大学病院がんセンター 市民公開講座」も共催にて開催し、YouTubeによるライブ配信を行った。
- ・例年、大分大学と合同で開催している「九州大学・大分大学合同カンファレンス」をオンライン形式で開催した。両大学のがんプロ教員・履修生に加えて、福岡・大分両県のがん診療連携拠点病院等から計41名の医療関係者が参加し、学生・教員の枠を超えて交流、講演、ディスカッションを行った。
- ・例年開催している「九州がんプロ全体研修会」を九州大学が幹事校となりオンラインで開催した。九州がんプロ全10大学が参加し、職種・学生・教員の枠を超えて交流、講演、症例検討を行い、58名の参加があった。
- ・九州がんプロ履修生による「教育研究成果発表会」を九州大学が主体となりハイブリッド形式で開催した。九州全10大学が参加し、そのうち九州がんプロ5大学の学生各1名ずつが発表を行った（計65名参加）。
- ・小児緩和ケアチームの定期的な活動（ラウンド週1回、勉強会2ヵ月に1回、カンファレンス年に2回）へ、がんプロ教員・履修生が積極的に参加している。
- ・例年、「先端医用量子線技術科学コース講演会」を開催しており、臨床現場で物理的かつ技術的な面で指導的役割を果たし、様々ながん治療を対象とした臨床研究を推進する先端医用量子線技術科学の医療人を養成している。今年度もZoomによる遠隔講習会を開催し、全国各地から多職種の参加者があった（計82名参加）。



九州がんプロ全体研修会



教育研究成果発表会

実績を踏まえた成果（学生教育の観点での成果について記載すること）

※適宜、学生のキャリア教育、キャリア形成の点にも触れながら記載すること。必要に応じて、図や写真等を追加することも可能。

- ・本プラン履修生を対象とし「九州大学・大分大学合同カンファレンス」、「九州がんプロ全体研修会」、「教育研究成果発表会」、「がんゲノム医療セミナー」、「九州大学病院がんセミナー」を実施した。また、小児科領域を学ぶ履修生については「小児緩和ケアチームによる定期的な活動」（ラウンド、勉強会、カンファレンス）への参加、レポート提出を求めた。これらにより新ニーズに対応するための知識と、実臨床における理解が深まった。
- ・インテンシブコースでは、既存のeラーニングシステムを活用し、「ゲノム医療」、「小児・AYA・希少がん」、「ライフステージに応じたがん対策」などの、がんの新ニーズに求められる専門領域の知識や最新情報を提供した。
- ・「九州大学・大分大学合同カンファレンス」では、がんプロ履修生・教員が参加し、症例検討や研究発表を通じてがん医療への理解を深めた。
- ・「小児緩和ケアチーム勉強会・講演会」は年5回開催し、がんプロ履修生・教員は「小児救急・集中治療における緩和ケア」や「小児医療の倫理」をテーマにした講演を聴講し、小児緩和ケアについての理解を深めた。
- ・「先端医用量子線技術科学コース講演会」を開催し、がんの診断・治療分野における放射線検出に関する講演を通じて、臨床現場で物理的かつ技術的な面で様々ながん治療を対象とした臨床研究を推進する先端医用量子線技術科学への理解が深まった。
- ・「がんゲノム医療セミナー」は年3回開催し、「膵・胆道がん診療の現況とゲノム医療への期待」について等の講演を聴講し、がんゲノム医療についての理解を深めた。
- ・「九州大学病院がんセミナー」では、「肝癌治療の最前線」や「悪性脳腫瘍の治療戦略」や「抗がん剤曝露と小児がん」など各臓器の専門医による講演を聴講し、がん診療について幅広い知識を習得する事ができた。また、市民公開講座をYouTubeにてライブ配信し、「がんゲノム医療」やがんサバイバーによる「無菌室からの発信」をテーマにした講演を行い、がん医療について情報発信を行った。
- ・九州がんプロ履修生による「教育研究成果発表会」では、九州がんプロ5大学の学生各1名ずつによる発表を行い、多職種の教員・学生が参加し、他大学との情報共有をするとともに、がん医療への理解を深めた。
- ・「九州がんプロ全体研修会」では、本プランが目指す「多様な新ニーズに対応するがん専門医療人材（がんプロフェッショナル）養成を行う」ため、多職種のがんプロ履修生・教員が参加し、キャリアパスに関する講演や地域医療について、「がんゲノム医療」をテーマにした特別講演、「胆管がん」に関する症例検討を通じてより良いがん医療への理解を深めた。

2. 各事業の取り組み状況

①教育コース（大学院コース、インテンシブコース）※別表「数値実績一覧」も参照して記述

- ・前述のとおり、本年度は「ゲノム基盤臨床腫瘍学コース」10名、「小児がん・希少がん臨床腫瘍学コース」1名、「先端医用量子線技術科学コース」14名、「がん専門細胞検査士コース修士課程」1名、「がん研究薬剤師コース博士課程」2名の合計27名の新規受入を行った。
- ・前述のとおり、2020年4月に開設したインテンシブコースでは、3名の新規受入を行った。
- ・本学がんプロ履修生1名に対して、「日本臨床腫瘍学会がん薬物療法専門医症例実績報告書」の30症例分について各癌種の専門医が査読および指導を実施した。
- ・医学専攻博士課程がん専門医師養成コースにおいて、本年度新規11名のがんプロ学生に対してオンラインによる個人面談を実施し、がんプロの取り組みについて説明を行うとともに、学生から直接意見を聴取し現状を把握する事で、今後のがんプロにおける教育の改善に繋がる良い機会となった。

1. ゲノム基盤先端臨床腫瘍学コース

<概要>

がんゲノムについての基礎医学的、臨床医学的知識を十分に習得し、実臨床でもがんゲノムパネル検査に基づく診療を積極的に推進し、かつ研究や教育に貢献できる人材を育成するため、参加大学合同の講習会や講演会を行うとともに、参加大学全体で多職種に対する教育を可能とするよう努めた。

がんゲノムに関する基礎医学的な知識、実臨床におけるがん遺伝子パネル検査の適応判断と検査の実施、病理検体の評価、パネル検査結果に関するデータベースを用いた検索と解釈（キュレーション・アノテーション）、エキスパートパネルの運営、患者・家族への説明、二次的所見の解釈と遺伝カウンセリングの適応判断などを身につけている。

大学院生の入学数の増加が必要であるため、がんプロ教員が積極的に学部生に対してがんゲノムに関する講義、実習を行う機会を増す。

<研究成果、講演会の実施、大学間交流、研修等>

「がんゲノム医療セミナー」として1年間に3回に分けて、多職種を対象に院内講習会を実施している。テーマは（1）がんゲノムレポートの読み方とデータベースの調べ方、（2）がん遺伝子パネル検査における二次的所見の対応、（3）膵・胆道がん診療の現況とゲノム医療への期待、などについての講義を実施した。

<今後の予定>

今後、特に履修生が課程終了後に、各地域の医療機関でリーダーとしてがんゲノム医療を牽引できるよう、さらに大学間連携に基づく教育を深めていく。

2. 希少がん・放射線治療学コース

<概要>

放射線治療に関する基礎知識、臨床知識、最新の知見だけでなく、化学療法は外科治療、ゲノム治療などの総合的ながん治療に関する知識を習得している。加えて、放射線治療とゲノム医療との関連についての知識を身につけつつある。

<研究成果、講演会の実施、大学間交流、研修等>

毎週開催されるキャンサーボードや放射線治療カンファレンスにおいて、質疑応答や意見交換を行っている。また定期的な研究ミーティングで研究成果について把握・評価している。

<今後の予定>

若手放射線治療医に対して本コースの教育効果を積極的にアピールする。また、放射線治療医を志望する医師の総数を増やすため、医学生・研修医・レジデントに年に1回開催している九州放射線治療セミナーに参加してもらい、放射線治療の魅力について啓蒙する。

3. 小児がん・希少がん臨床腫瘍学コース

<概要>

小児がんについての基礎的・臨床的知識、診療上の技術、最先端の研究について、当院小児科医師の講義を通して見識を深め、小児がん拠点病院としての役割を果たす当院の使命を、履修者が理解できるよう努めた。また、小児がんの中でも稀な希少がんについても、症例が集まる当院の経験を基に、希少がん診療の必要性や問題点を共有した。小児、思春期から青年期を経て成人するまでの過渡期であるAYA世代がんの特有の問題を知り、実臨床への応用ができるようになることを目指した。

<研究成果、講演会の実施、大学間交流、研修等>

小児緩和ケアチーム勉強会（本年度5回）を開催し、多職種を対象に院内国集会を実施している。

<今後の予定>

小児がん拠点病院と共同しての活動（小児緩和ケアチーム勉強会、小児AYAフォローアップ外来活動および勉強会など）を検討していく。教育の経験や情報の大学間共有もさらに密接な連携に向けてさらに事業を展開する。

4. がん専門細胞検査士コース博士課程

<概要>

臨床現場の病理学分野において、希少がん及び小児がんを含む広範な癌種の細胞診断能力を身につけ、細胞検査士としての確かな細胞診断業務を行える人材の養成を目指す。細胞検査士は、患者から採取された検体を染色し顕微鏡でがんの有無を正確に判定するスクリーニングを担う人材である。検査材料は婦人科・泌尿器科領域をはじめ身体全体から採取されるものを対象とする。従来の形態学的検査技術に加えて、遺伝子解析をはじめとした分子生物学的検査技術も求められるようになってきており、臨床現場における役割の重要性は高まっている。

本プロジェクトでは、大学病院病理診断科・病理部での2年間の臨床研修を行い細胞診断能力の習得を目指すとともに、形態学・分子生物学に関する研究を行い、臨床現場におけるニーズに対応できる人材育成を目指す。

<研究成果、講演会の実施、大学間交流、研修等>

今年度は、大学院の講義において、専門の先生方に「小児腫瘍の病理組織学や希症例を含めた細胞診」の講義を大学院の講義の中で開催し、院生たちの理解を深める様に工夫した。

また、週1回の研究室ミーティングにおいて、ゲノム医療や小児・希少がんに関する最新の論文の抄読会を行った。また、本コース所属学生の基本的知識の整理のために「Molecular Biology of THE CELL」や「The Biology of Cancer」などの分子生物学や形態学を理解するための本を活用して、がん細胞の形態を遺伝子変異等のレベルから理解できるように工夫した。また、本プログラム修了者で社会人として活躍している卒業生に、最新の状況を交えて講義を行ってもらった。

<今後の予定>

今後は、従来の大学病院病理診断科・病理部での2年間の臨床研修および形態学・分子生物学に関する研究に加え、以下のように卒業後教育も視野に、本コースの充実を図る。

1) 講習会等の企画：病理形態学的研究のみならず、ゲノム医療にも対応する最新研究に関してオンラインを活用した講習会を企画し、在籍生だけでなく既卒者の卒業後教育も含め、本コース所属学生および教員の細胞診研究の充実を図っていく。

5. 先端医用量子線技術科学コース

<概要>

本コースでは、臨床現場で物理的かつ技術的な面で指導的役割を果たし、小児からAYA世代さらに高齢者及び緩和治療までを対象とした臨床研究を推進する先端医用量子線技術科学の医療人（例：高度な診療放射線技師、医学物理士）の養成を目指している。

医学物理士とは、放射線を用いた医療が適切に実施されるよう、医学物理学の専門家としての観点から貢献する。世界的には、医学物理士は、がんの放射線治療のためにはなくてはならない人材とされている。診断分野では、CT、MRI、PET、超音波、マンモグラフィなどの診断装置および診断画像の品質管理・保証を実施する。治療分野においては、医師と連携を取り、治療計画の最適化を行い、診療放射線技師および放射線治療品質管理士と協力し、治療装置の品質管理・保証を行う。

本プロジェクトでは、医用画像、ゲノム情報などを含む臨床ビッグデータを適切に管理、解析でき、ゲノム医療にも対応できる医療データサイエンティストとしての役割を果たす人材を目指す。さらに、臨床の現場で必要とされるニーズと基礎理工学を繋ぐ先端医用量子線技術科学を教育し、関連する研究を指導する。

<情報発信>

「先端医用量子線技術科学コース 医学物理士・放射線治療品質管理士養成コース」について国内外へ広く情報を発信するため、英文和文併用ホームページ (<http://web.shs.kyushu-u.ac.jp/~mp/>) を2018年3月に開設した。教員紹介、カリキュラム、活動実績、講演会の案内を発信し、さらに海外からの留学生リクルートにも活用している。

<今後の予定>

本学の保健学専攻修士課程医用量子線科学分野は、医学物理士認定機構により「医学物理士・放射線治療品質管理士養成コース」（すべての領域）として平成25年度(2013年)に認定され、医学物理教育コースの認定を毎年更新し、今後も維持できるようコースの充実を図る。

アジアだけでなく世界を視野に入れ留学生を受け入れ、留学生の出身大学との国際共同研究を推進する教育研究プログラムを開発し、国際的な先端医用量子線技術科学を教育する。したがって、アジア諸国で活躍できる医学物理人材育成のために、保健学専攻修士課程アジア保健学コース（国際コース）にがんプロの育成を拡充する。アジア諸国の医学物理教育と研究の向上に貢献することで、がんプロの国際化を目指す。さらにアジア諸国の医学物理研究者と国際共同研究を推し進め、国際ジョイントシンポジウムや海外研修を行うことで、国際的に活躍できる研究者を育成指導する指導者の能力向上にも取り組み、本コースの一層の充実を目指す。

今後は、博士後期課程における画像診断、核医学、放射線治療の医学物理士養成のための大学院教育の向上に取り組む。例年開催しているがんプロ講演会も土曜日開催とし、またR2年度よりオンライン開催にすることで、在籍生だけでなく既卒者の参加が期待され、卒後教育の支援の充実を図る。さらに、来年度からハイブリッド開催とし、がんプロに関する教育及び研究に関して活発な議論を促進したいと考えている。

6. がん研究薬剤師コース博士課程

<概要>

本コースは、九州大学大学院薬学府臨床薬学専攻博士課程に設置し、履修対象者を薬学府臨床薬学専攻博士課程大学院生とし、大学院博士課程において、ゲノム医療従事者の養成、希少がん及び小児がんに対応できる医療人材の養成、ライフステージに応じたがん対策を推進する人材の養成について、新たな教育プログラム・コースを構築する。本プログラムでは、薬理遺伝学・時間薬理学、希少がん、痛みなど緩和医療における創薬から育薬までを担う薬剤師、研究者及び指導者を養成する。医療現場・企業のがん領域で即戦力となる人材を養成することにより、がん領域における医療の質の向上や産業・経済の発展に貢献する。

<今後の予定>

現状の課題としては、がん領域における創薬科学と臨床薬学の研究指向が分離（基礎・応用）していることが挙げられます。今後、がん領域における創薬から育薬までを見渡せる教育・研究環境を一層強化していくことが重要と考え、その対応策の一つとして、新研究棟「グリーンファルマ研究所」を平成27年に竣工した。これを基盤に、がん領域における創薬から育薬までを担う研究者および指導者を養成し、長年薬学を牽引してきた「システム創薬リサーチ構想」（独自に進められてきた創薬・育薬に関する研究単位を束ね、基礎から臨床まで見渡せる研究環境の構築）の実現を目指す。もう一つの対応策として、創薬育薬を加速化するための即戦力となる企業人材や知財強化のための弁理士を配置し、組織体制を整備する。これにより九大独自のグリーンファルマの中核をなすエコファーマの視点から、既存薬の新たな作用点を発掘し、その誘導体を合成して特許化を加速化する。また薬理遺伝学・時間薬理学、希少がん、痛みなど緩和医療における創薬から育薬までを担う薬剤師、研究者及び指導者を養成する。さらに九大病院キャンパスの地の利を生かした橋渡し研究を実践し、九州全域のみならず、全国へと連携を広げる予定である。

薬学研究院では、創薬科学と臨床薬学の両輪で、産学官連携創薬育薬共同研究を加速化するため、世界最先端のクライオ電子顕微鏡による構造解析学（構造と機能解析）を推進し、その研究成果を広く社会に還元するとともに、薬学に関する最先端の学術情報を提供する目的を遂行するための研究施設として、グリーンファルマ構造解析センターが令和4年1月に竣工した。これを契機として、原子レベルの分解能でタンパク質複合体の立体構造解析を迅速に行える環境を整備することで、九州大学のクライオ電子顕微鏡共用施設として九州・中国・四国地域に測定機会を提供することができ、地域偏在解消に大きく貢献できる。また、並行して、学生・女性・若手研究者を「くすりのプロ」として育成し次代を担う人材の育成を進める予定である。

7. 新ニーズに対応するがん専門医療人養成インテンシブコース

<概要>

本コースは、がん医療に携わる近隣の多職種の医療従事者が、①がんゲノム医療、②小児・AYA・希少がん、③ライフステージに応じたがん対策、といった新ニーズに求められているがん専門領域の知識を持つことを目的とする。大学院教育水準で作成されたeラーニング教育コンテンツを用いて学習することで、個々の専門領域に加えて、新たに求められる課題に広く配慮できる人材の育成を目指す。

<研究成果、講演会の実施、大学間交流、研修等>

本コース修了要件に認定する勉強会として、今年度開催した小児緩和ケアチーム勉強会、がんゲノム医療セミナー、九州大学病院がんセミナー、先端医用量子線技術科学コース講習会といったシンポジウム・セミナー等への2回以上の参加を必要としている。

<eラーニング講義>

本年度は、21回分の講義を収録し、19回分の講義をアップロードが完了しており、最新の専門領域の講義が視聴可能となっている。

<今後の予定>

引き続き、講義の録画と順次アップロードを進めていく。

②シンポジウム、セミナー、講習会等

※別表「数値実績一覧」も参照して記述。他大学のモデルとなるような内容があれば特に触れること。

- 九州大学病院ARO次世代医療センターと共催し、「がんゲノム医療セミナー」を本年度3回開催。九州大学病院やがん診療連携拠点病院等も含めて合計約518名が参加した。「膵・胆道がん診療の現況とゲノム医療への期待」などに関する講義を行い、参加者と活発な質疑応答が行われた。
- 九州大学病院がんセンターと共催し「九州大学病院がんセミナー」を本年度3回開催。九州大学病院やがん診療連携拠点病院から多職種の出席者があり、合計261名が参加した。がん診療について幅広い知識を習得するために、各臓器の専門医によるガイドラインや最新のエビデンスに基づいた講習を行った。
- 「先端医用量子線技術科学コース講演会」を開催し82名が参加した。がんの診断・治療分野における放射線検出に関する講演を通して最新の知見について理解を深めた。また、今年度中に1回開催予定である。

③地域や社会への情報発信の取り組み（ホームページ、SNS等の実績含む） ※別表「数値実績一覧」も参照して記述

- 本学に置く「九州がんプロ事務局」にて、本学をはじめ拠点内大学の情報を収集し、積極的にホームページにより発信した。また、ホームページと連携したSNS（Facebook, Twitter）も併せて活用し合計56回の投稿発信を行った。
- 本年度中に北部エリア（九州大学、福岡大学、久留米大学、大分大学）と連携し、「希少がん」と「がん相談支援」をテーマに市民公開講座のYouTube配信を実施する。がんに関する情報を提供するとともに、九州がんプロの取り組みについても市民への情報発信を行う。

④大学関連病院との連携（特に「がん診療連携拠点病院」「小児がん拠点病院」との連携に関して）

- 「九州大学・大分大学合同カンファレンス」や「九州がんプロ全体研修会」をはじめとした交流に加え、eラーニング支援・Zoom meetingのツールも効果的に利用することで、九州全域における教員・学生のネットワークの拡大・深化を進めるとともに、九州全域一律の教育の提供を実施している。
- 「九州大学・大分大学合同カンファレンス」では、両大学がんプロ履修生・教員に加え、大分県、福岡県等のがん診療拠点病院の医師・医療スタッフが参加し、主にがん腫瘍内科領域のがん医療、教育、研究について症例検討や研究発表を行った（計41名参加）。
- 「九州がんプロ全体研修会」では、九州・沖縄の全10大学より、九州がんプロ履修生・教員、多職種の専門家が参加し、講演やグループワークを通じて大学、職種、専門領域の異なるメンバーとの交流を深め、がん医療に関して情報共有を行った（計58名参加）。
- 当院がんセンターと共催して定期的に開催している「九州大学病院がんセミナー」では、本学のがんプロ履修生・教員だけでなくがん診療連携拠点病院、小児がん拠点病院からも多くの医師、医療スタッフが参加して、積極的な情報、意見の交換を行った（本年度計3回、合計261名参加）。
- 小児がん拠点病院である九州大学病院において「小児緩和ケアチーム勉強会・特別講演」を定期的に開催。がんプロ教員・履修生を含む病院内の医療スタッフに加え、がん診療連携拠点病院や地域医療機関の医師・医療スタッフが参加し、小児を対象とした緩和ケアの知識向上を図るとともに、施設毎に異なる状況等を踏まえた意見交換を行った。本年度は小児救急・集中治療における緩和ケア、小児医療の倫理などをテーマに取り扱った（本年度計5回、合計290名参加）。

⑤ライフステージ領域における取り組み

小児・AYA～高齢者の各世代に対するがん治療の特徴を把握した上で治療計画を立て、かつ、個々のライフステージにおける身体的・心理的・社会的な面を含む包括的な問題への対策・支援について考察できる医療人の育成を目標として、本プランの大学院コースに「小児・AYA世代を含むライフステージに応じたがん医療」という授業科目を設置しており、聴講形式の講義に加えて小児緩和ケアカンファレンスへの参加を行った。

3. 自己評価

[選択肢] a:十分に目標を達成できている / b:目標を達成できている / c:あと少しで目標を達成できる / d:目標を達成できていない

b : 目標を達成できている

理由・分析等

- ・本年度6つの教育コースにおいて、例年履修者の受入目標としていた22名に対し27名の受入があった。
- ・がんゲノム医療セミナー、小児緩和ケアチーム勉強会、教育研究成果発表会、がんセミナーなど本学にて計画された教育プログラムを実施。九州内の多様な新ニーズに対応するがん専門医療人の養成に大きく寄与した。
- ・九州拠点内の大学とともに、合同研修会、大学間合同カンファレンスを開催し、がん専門医療人の養成に大きく寄与した。
- ・また、地域や社会に対してより分かりやすい情報発信をするために、北部エリア合同の市民公開講座を本年度中に開催予定である。

自己評価を踏まえた、来年度に向けての改善点等

- ・履修生数は当初の目標に概ね達しているが、6つの教育コースにおいて受入目標の人数を今後も達成できるよう、学内・大学病院内の各部局に働きかけて履修者数の増加を図る。本がんプロ教育コース以外の大学院コース（臨床医学研究コース）の臨床研究専門教育科目において、がんプロ履修生対象の「がんゲノム治療」科目を選択可能とすることで、特にがんゲノム医療の情報を幅広く発信し、がん医療への注目を高める。
- ・都道府県がん拠点病院、小児がん拠点病院、がんゲノム医療中核拠点病院としての大学病院の活動を利用し、がんプロ教員・履修生が積極的に関与することで、大学院入学前の研修医や学部学生のがん医療への興味を高める。
- ・がんプロ事業の開催情報や成果をホームページやSNSを用いて更に積極的に発信し、履修者の増員に努めるとともに、広く市民の理解を求めていく。
- ・事業運営推進協議会やオンラインシステムを通じた大学間の定期的な情報交換、がんプロ全体研修会や大学合同カンファレンスを通じたがんプロ履修生・教員の直接交流をより積極的に実施する。
- ・北部エリアとしての事業、個別の大学間交流、拠点間交流、海外医療機関との連携を更に推進することで、がん医療専門人材の育成につなげていく。
- ・セミナーやシンポジウムも積極的に開催し他大学との連携も深めており、東北次世代がんプロ養成プランとは継続的な拠点間リトリートによる相互交流を行う予定である。

「新ニーズに対応する九州がんプロ養成プラン」内部評価・外部評価シート

■ 英文誌・和文誌・国際学会・国内学会等での発表一覧

大学名	九州大学
-----	------

○ 英文誌

学生所属コース名	内容 ※がんプロ学生の氏名には下線を引くこと
1 ゲノム基盤先端臨床腫瘍学コース	Teramatsu K, Oono T, <u>Oyama K</u> . et al. Circulating CD8+CD122+ T cells as a prognostic indicator of pancreatic cancer. BMC Cancer 22, 1134 (2022).
2 ゲノム基盤先端臨床腫瘍学コース	Tsutsumi H, Iwama E, Ibusuki R, <u>Shimauchi A</u> et al. Mutant forms of EGFR promote HER2 trafficking through efficient formation of HER2-EGFR heterodimers. Lung Cancer, 175, 101-111, 2023
3 ゲノム基盤先端臨床腫瘍学コース	Kogo R, <u>Manako I</u> , Iwaya T, Nishizuka S, Hiraki H, Sasaki Y, Idogawa M, Tokino T, Koide A, Komune N, Yasumatsu R, Nakagawa T. Individualized circulating tumor DNA monitoring in head and neck squamous cell carcinoma. Cancer Med. 2022 Nov;11(21):3960-3968
4 ゲノム基盤先端臨床腫瘍学コース	Wakasaki T, <u>Manako I</u> , Yasumatsu R, Hara H, Toh S, Masuda M, Yamauchi M, Kuratomi Y, Nishimura E, Takeuchi T, Matsuo M, Jiromaru R, Hashimoto K, Komune N, Nakagawa T. Effectiveness and safety of weekly paclitaxel and cetuximab as a salvage chemotherapy following immune checkpoint inhibitors for recurrent or metastatic head and neck squamous cell carcinoma: A multicenter clinical study. PLoS One. 2022 Jul 28;17(7):e0271907
5 ゲノム基盤先端臨床腫瘍学コース	Yuki Katayama, Tadaaki Yamada, Keiko Tanimura, Shinsaku Tokuda, Kenji Morimoto, Soichi Hirai, Yohei Matsui, Ryota Nakamura, Masaki Ishida, Hayato Kawachi, Kazue Yoneda, Kazutaka Hosoya, Takahiro Tsuji, Hiroaki Ozasa, Akihiro Yoshimura, Masahiro Iwasaku, Young Hak Kim, Mano Horinaka, Toshiyuki Sakai, <u>Takahiro Utsumi</u> , Shinsuke Shiotsu, Takayuki Takeda, Ryohei Katayama & Koichi Takayama Adaptive resistance to lorlatinib via EGFR signaling in ALKrearranged lung cancer, npj Precis. Onc. 7, 12, 2023
6 小児がん・希少がん臨床腫瘍学コース	<u>Goto H</u> , Koga Y, Kohashi K, Ono H, Takemoto J, Matsuura T, Tajiri T, Ihara K, Oda Y, Ohga S. Pancreatoblastoma with a novel fusion gene of IQSEC1-RAF1. Pediatr Blood Cancer, 15:e30155, 2022.
7 先端医用量子線技術科学コース	<u>Kumamoto K</u> , <u>Sato H</u> , Tsutsui Y, Awamoto S, Yamashita Y, Baba S, Sasaki M. Continuous bed motion in a silicon photomultiplier-based scanner provides equivalent spatial resolution and image quality in whole body PET images at similar acquisition times using the step-and-shoot method. J Nucl Med Technol. 2022 Apr 19:jnmt.121.263240. doi: 10.2967/jnmt.121.263240. Online ahead of print.
8 先端医用量子線技術科学コース	<u>Kodama T</u> , Arimura H, Shirakawa Y, Ninomiya K, Yoshitake T, Shioyama Y, Relapse predictability of topological signature on pretreatment planning CT images of stage I non-small cell lung cancer patients before treatment with stereotactic ablative radiotherapy. Thoracic Cancer 13(15) 2117-2126, 2022.08.
9 先端医用量子線技術科学コース	Cuong Le Q, Arimura H, Ninomiya K, <u>Kodama T</u> , <u>Moriyama T</u> . Can persistent homology features capture more intrinsic information about tumors from 18F-fluorodeoxyglucose positron emission tomography/computed tomography images of head and neck cancer patients?. Metabolites 12(972) 1-12, 2022.10.
10 先端医用量子線技術科学コース	Nohtomi A, <u>Maeda H</u> , <u>Sakamoto N</u> , Wakabayashi G, Takata T, Sakurai First optical observation of 10B-neutron capture reactions using a boron-added liquid scintillator for quantity assurance in boron neutron capture therapy. Radiological Physics Technology, 15(1), 37-34, 2022
11 がん専門細胞検査士コース修士課程	<u>UEHARA I</u> , <u>WATANABE S</u> , <u>YAMAGUCHI S</u> , <u>EGUCHI N</u> , <u>SAKAMOTO N</u> , <u>ODA Y</u> , <u>ARIMURA H</u> , <u>KAKU T</u> , <u>OHISHI Y</u> , <u>MIZUNO S</u> . Translocation of nuclear chromatin distribution to the periphery reflects dephosphorylated threonine - 821/826 of the retinoblastoma protein (pRb) in T24 cells treated with Bacillus Calmette -Guérin. 10 November 2022. Cytotechnology . https://doi.org/10.1007/s10616-022-00559-7 Article in Press
12 がん研究薬剤師コース博士課程	Koyanagi S, Kusunose N, <u>Yasukochi S</u> , Ohdo S. Basis for diurnal exacerbation of neuropathic pain hypersensitivity and its application for drug development. J Biochem, 171:487-492, 2022.
13 がん研究薬剤師コース博士課程	<u>Mine K</u> , Kawashiri T, Inoue M, Kobayashi D, Mori K, Hiromoto S, Kudamatsu H, Uchida M, Egashira N, Koyanagi S, Ohdo S, Shimazoe T. Omeprazole Suppresses Oxaliplatin-Induced Peripheral Neuropathy in a Rodent Model and Clinical Database. Int J Mol Sci, 23(16),8859, 2022
14 がん研究薬剤師コース博士課程	Mori K, Kawashiri T, <u>Mine K</u> , Inoue M, Kudamatsu H, Uchida M, Egashira N, Kobayashi D, Shimazoe T. Inhibitory effect of $\alpha 1$ receptor antagonists on paclitaxel-induced peripheral neuropathy in a rodent model and clinical database, 10(11), 669, 2022
15 がん研究薬剤師コース博士課程	<u>Mori K</u> , Kawashiri T, Mine K, Inoue M, Kudamatsu H, Uchida M, Egashira N, Kobayashi D, Shimazoe T Inhibitory effect of $\alpha 1$ receptor antagonists on paclitaxel-induced peripheral neuropathy in a rodent model and clinical database. Toxics, 2022, 10(11), 669.
16 がん研究薬剤師コース博士課程	Mine K, Kawashiri T, Inoue M, Kobayashi D, <u>Mori K</u> , Hiromoto S, Kudamatsu H, Uchida M, Egashira N, Koyanagi S, Ohdo S, Shimazoe T Omeprazole suppresses oxaliplatin-induced peripheral neuropathy in a rodent model and clinical database. Int J Mol Sci, 2022, 23(16), 8859.

○ 和文誌

学生所属コース名	内容 ※がんプロ学生の氏名には下線を引くこと
1 先端医用量子線技術科学コース	森山和俊, 有村秀孝, 小林和馬, <u>Quoc Cuong Le</u> , 浦上暉允, 二宮健太, 兒玉拓巳, 岡本裕之, 井垣浩, ヘッセ指数画像に基づく脳転移腫瘍の原発巣推定の可能性, 医用画像情報学会雑誌, 2022年 39 巻 3 号 p. 57-67, 2022年9月

「新ニーズに対応する九州がんプロ養成プラン」内部評価・外部評価シート

○ 国際学会

学生所属コース名	内容 ※がんプロ学生の氏名には下線を引くこと
1 ゲノム基盤先端臨床腫瘍学コース	岩本直也, 樹状細胞におけるprotein tyrosine phosphatase non-receptor type 3 (PTPN3)抑制により生じる抗腫瘍免疫への効果とその機序の考察 第35回日本バイオセラピー学会学術集会(福島)シンポジウム 2022年11月30日
2 ゲノム基盤先端臨床腫瘍学コース	Takashi Imajima, Tsuyoshi Shirakawa, Mototsugu Shimokawa, et al. Multicenter observational study of nanoliposomal irinotecan and fluorouracil/leucovorin in patients with unresectable or recurrent pancreatic cancer (NAPOLEON-2): Final retrospective results. ASCO-GI in 2023, 20 Jan 2023.
3 ゲノム基盤先端臨床腫瘍学コース	Manako T, Kubo K, Yoshida T, Nakagawa T, A retrospective analysis of treatment and outcomes of Ramsay Hunt syndrome, 14th International Facial Nerve Symposium, (Seoul, Korea) 2022. 04. 28-30
4 先端医用量子線技術科学コース	Yamanaka Y, Inoue K, Suetsugu Y, Tateishi M, Hirose T, Fukunaga J, Yoshitake T, Sasaki T, Atsumi K Differences between AcurosXB and AAA on collimator angle in VMAT-SBRT for lung lesions, AAPM (The American Association of Physicists in Medicine) 64th Annual Meeting (Washington) 2022. 6. 10-14
5 先端医用量子線技術科学コース	Uchino K, Arimura H, Tanaka K, Yabuuchi H, Temporal Prediction of Tumor Growth Trajectory in Non-small Cell Lung Cancer Patients Treated with Immune Checkpoint Inhibitors, 22nd Asia-Oceania Congress on Medical Physics (AOCMP 2022, Hybrid Congress in Taipei), December 10-12, 2022.
6 先端医用量子線技術科学コース	Cui Y, Arimura H, Yoshitake T, Shioyama Y, Yabuuchi H, Exploration of Generalization of Dense V-Networks On A Small Training Dataset In Segmenting Gross Tumor Volumes On 3D Planning CT Images for Lung Cancer Stereotactic Body Radiotherapy (Oral, Online, June13) , WC2022 (Hybrid Congress in Singapore)
7 先端医用量子線技術科学コース	Kodama T, Arimura H, Shirakawa Y, Ninomiya K, Yoshitake T, Shioyama Y, Progression Predictability Based on Planning Computed Tomography Images for Early Stage Non-Small Cell Lung Cancer Patients with Stereotactic Ablative Radiotherapy (Oral, Online, June13) , WC2022 (Hybrid Congress in Singapore)
8 先端医用量子線技術科学コース	Shinagawa H, Morishita J, Kim Y, Ikeda N, Detection of implanted metals in scout images of postmortem computed tomography imaging, 2022 Korean Society of Radiological Sciences Conference (On-line Conference), 2022. 05. 28
9 先端医用量子線技術科学コース	Kamekawa H, Morishita J, Ikeda N, Reconstruction of pseudo-panoramic dental images from postmortem X-ray CT imaging, 2022 Korean Society of Radiological Sciences Conference (On-line Conference), 2022. 05. 28
10 先端医用量子線技術科学コース	Kim Y, Yoon Y, Morishita J, Shinagawa H, Matsunobu Y, Ikeda N, Segmentation of bone Structures in post-mortem computed tomography imaging by U-Net for personal identification, 2022 Korean Society of Radiological Sciences Conference (On-line Conference), 2022. 05. 28

○ 国内学会

学生所属コース名	内容 ※がんプロ学生の氏名には下線を引くこと
1 ゲノム基盤先端臨床腫瘍学コース	田口綾祐, DNMT3B contributes to the stemness of left-sided colorectal cancer derived from patients 第81回日本癌学会(横浜)2022年9月30日
2 ゲノム基盤先端臨床腫瘍学コース	真子知美, 上咽頭癌に対する免疫チェックポイント阻害薬の効果について, 第123回日本耳鼻咽喉科頭頸部外科学会総会・学術講演会(神戸)2022年5月26日
3 先端医用量子線技術科学コース	Cui Y, Arimura H, Shirakawa Y, Yoshitake T, Shioyama Y, Yabuuchi H, Deep learning-based measurement of volume-based consolidation-to-tumor ratios on planning CT images of lung cancer SBRT patients (Poster, Sep. 17) , 第124回日本医学物理学学会学術大会(長崎)2022年9月17日
4 先端医用量子線技術科学コース	平川勇也, 有村秀孝, Yunhao Cui, 高山幸久, 西江昭弘, 石神康生, CycleGANを用いた前立腺癌患者における仮想造影MR画像合成, 第41回日本医用画像工学会大会JAMIT(名古屋)2022年7月30日
5 先端医用量子線技術科学コース	内野恭美, 有村秀孝, 田中謙太郎, 藪内英剛, ICI治療のNSCLC患者における肺腫瘍細胞数の経時変化曲線の推定, 第41回日本医用画像工学会大会JAMIT(名古屋)2022年7月31日
6 先端医用量子線技術科学コース	兒玉拓巳, 有村秀孝, 二宮健太, 白川友子, 吉武忠正, 塩山善之, トポロジー画像解析による体幹部位放射線治療を受けたステージI非小細胞肺癌患者の進行予測, 第41回日本医用画像工学会大会JAMIT(名古屋)2022年7月31日
7 先端医用量子線技術科学コース	Jin Y, Arimura H, Kodama T, A Radiogenomic Signature for Prediction of Lung Cancer Prognosis: Association Between HOPX Gene Expression and CT Image Features (Online) , The 123rd Scientific Meeting of the Japan Society of Medical Physics (Yokohama)2022年4月15日
8 先端医用量子線技術科学コース	Furuta R, Arimura H, Tanaka K, Egashira M, Prediction of Time Variant Trajectory of Lung Tumor Growth During TKI Targeted Therapy, The 123rd Scientific Meeting of the Japan Society of Medical Physics (Yokohama)2022年4月15日
9 先端医用量子線技術科学コース	江口範士朗, 高橋昭彦, 馬場眞吾, 佐々木雅之, Th-227画像の病変検出能評価:モンテカルロシミュレーション研究, 第42回日本核医学技術学会総会学術大会(京都)
10 先端医用量子線技術科学コース	赤坂玲河, 高橋昭彦, 関川裕矢, 馬場眞吾, 佐々木雅之, Lu-177・β線の吸収線量分布の計算機シミュレーション, 第42回日本核医学技術学会総会学術大会(京都)
11 先端医用量子線技術科学コース	Hideya Maeda, Akihiro Nohtomi, Genichiro Wakabayashi, Yoshinori Sakurai, Takushi Takata Optical imaging of dose distribution $^{10}\text{B}(n, \alpha)^7\text{Li}$ reaction using boron-added liquid scintillator for boron neutron capture therapy, 第123回日本医学物理学学会学術大会(横浜)2022年4月17日
12 先端医用量子線技術科学コース	納富昭弘, 前田英哉, 若林源一郎, 高田卓志, 櫻井良憲 液体シンチレータを用いたホウ素線量分布可視化の試み(1)熱中性子場での測定, 第18回日本中性子捕捉療法学会学術大会2022年10月30日
13 先端医用量子線技術科学コース	前田英哉, 納富昭弘, 呼尚徳, 柿野諒, 秋田和彦, 小野公二 液体シンチレータを用いたホウ素線量分布可視化の試み(2)熱外中性子場での測定, 第18回日本中性子捕捉療法学会学術大会2022年10月30日
14 先端医用量子線技術科学コース	山中宥檉, 肺癌のVMAT-SBRTにおいて計算アルゴリズムがコリメータ角度に及ぼす影響, 第78回日本放射線技術学会総会学術大会(横浜)2022年4月15日
15 先端医用量子線技術科学コース	岸田大典, 藤淵俊王, 吉谷悠, ピンホールカメラによる距離補正を考慮した表面線量分布評価の検討, 第78回日本放射線技術学会総会学術大会(横浜)2022年4月14日
16 先端医用量子線技術科学コース	中島美咲希, 藤淵俊王, 西和紀, Webブラウザ上での血管造影検査室内の3次元散乱線分布表示の検討について, 第78回日本放射線技術学会総会学術大会(横浜)2022年4月14日

「新ニーズに対応する九州がんプロ養成プラン」内部評価・外部評価シート

○ 国内学会(つづき)

学生の所属コース名	内容 ※がんプロ学生の氏名には下線を引くこと
17 先端医用量子線技術科学コース	本井傳健太、藤淵俊王、深度カメラを利用した術者位置モニタリングによるX線透視時の被ばく警告システムの開発、第78回日本放射線技術学会総会学術大会(横浜)2022年4月14日
18 先端医用量子線技術科学コース	清水美里、藤淵俊王、人体メッシュファントムを用いた心臓カテーテル検査における臓器線量の評価法の検討、第78回日本放射線技術学会総会学術大会(横浜)2022年4月14日
19 先端医用量子線技術科学コース	中島美咲希、藤淵俊王、荒川弘之、宮崎仁志、Webブラウザ上で動作する血管造影検査室内の散乱線分布表示による防護教材の構築について、第4回日本保健物理学会・日本放射線安全管理学会合同大会(福岡)2022年11月24日
20 先端医用量子線技術科学コース	岸田大典、藤淵俊王、荒川弘之、宮崎仁志、マルチピンホールカメラを用いたリアルタイムでの散乱線の可視化に関する検討、第4回日本保健物理学会・日本放射線安全管理学会合同大会(福岡)2022年11月24日
21 先端医用量子線技術科学コース	清水美里、藤淵俊王、PHITSを用いたPCIにおける臓器線量評価法の検討、第4回日本保健物理学会・日本放射線安全管理学会合同大会(福岡)2022年11月24日
22 先端医用量子線技術科学コース	本井傳健太、藤淵俊王、荒川弘之、深度カメラを利用した術者位置モニタリングによるX線透視時の職業被ばく推定システムの開発、第4回日本保健物理学会・日本放射線安全管理学会合同大会(福岡)2022年11月24日
23 先端医用量子線技術科学コース	Yuki Nagatomo, Akihiro Nohtomi, Tomoyuki Seo, Yoshikazu Tsunashima, Takeshi Himukai, Hiroshi Sato, Yoshiyuki Shioyama Examination on dose-rate dependence of water luminescence for irradiation of therapeutic carbon-ion at lower energy than Cerenkov-light threshold,第123回日本医学物理学学会学術大会(横浜)2022年4月17日
24 先端医用量子線技術科学コース	松下友基、藪内英剛、徳永千晶、塩津弘倫、浅野波慧、扇浦拓也、4D Free Breathingを用いたMR肺活量測定法の有用性の検討、第13回呼吸機能イメージング研究会学術集会(福岡市)2022年1月21-22日
25 先端医用量子線技術科学コース	松下友基、藪内英剛、神谷武志、白坂崇、近藤雅敏、藤原光希、寶珠山桃子、浅野波慧、扇浦拓也 肺気腫患者の残気率予測における吸気・呼気CTを用いた定量パラメータの有用性の検討 第13回呼吸機能イメージング研究会学術集会(福岡市)2022年1月21-22日
26 先端医用量子線技術科学コース	松下友基、藪内英剛、徳永千晶、塩津弘倫、浅野波慧、扇浦拓也、追立和久、Golden Angle Radial Stack of Stars MRI with KWIC and soft gatingを用いたMR肺活量測定法の有用性の検討、第78回日本放射線技術学会総会学術大会(横浜市)2022年4月14-17日
27 先端医用量子線技術科学コース	松下友基、藪内英剛、和田達弘、徳永千晶、塩津弘倫、小林幸次、浅野波慧、扇浦拓也、追立和久、稲富輝、4D FreeBreathingを用いたMRスパイロメトリーの有用性の検討、第50回日本磁気共鳴医学会大会(名古屋市)2022年9月9-11日
28 先端医用量子線技術科学コース	追立和久、藪内英剛、村崎裕生、和田達弘、小林幸次、松下友基、稲富輝、前十字韌帯の二重線維束の描出におけるCompressed SENSE MRIを用いた準静態撮影の有用性の検討、第50回日本磁気共鳴医学会大会(名古屋市)2022年9月9-11日
29 先端医用量子線技術科学コース	稲富輝、藪内英剛、船津亮平、齊藤裕也、浅野波慧、扇浦拓也、松下友基、追立和久、小林幸次、和田達弘、Compressed SENSEを用いた高速撮像REACT肺MR Angiographyの至適撮像法の検討、第50回日本磁気共鳴医学会大会(名古屋市)2022年9月9-11日
30 先端医用量子線技術科学コース	品川晴哉、杜下淳次、金禮志、池田典昭、死後に撮影したX線CTの位置決め画像からの体内埋め込み金属の検出、第78回日本放射線技術学会総会学術大会(横浜市)2022年4月14-17日
31 先端医用量子線技術科学コース	金禮志、Yongsu Yoon、杜下淳次、品川晴哉、松延佑将、池田典昭、深層学習を用いた個人識別のための死後CT画像からの骨の抽出、第78回日本放射線技術学会総会学術大会(横浜市)2022年4月14-17日
32 先端医用量子線技術科学コース	品川晴哉、Yeji Kim、Yongsu Yoon、松延佑将、衛藤希、臼元洋介、池田典昭、杜下淳次、Harris関数を用いたPMCTのスカウト画像からの体内埋め込み金属の検出、第72回日本法医学会学術九州地方集会(長崎市)、2022年10月21-22日
33 先端医用量子線技術科学コース	Yeji Kim、Yongsu Yoon、松延佑将、品川晴哉、衛藤希、臼元洋介、池田典昭、杜下淳次、PMCTから再構築した2次元投影画像と深層学習を用いた骨抽出に関する研究、第72回日本法医学会学術九州地方集会(長崎市)、2022年10月21-22日
34 先端医用量子線技術科学コース	瀧尾友之、Yongsu Yoon、Yeji Kim、池田典昭、衛藤希、臼元洋介、杜下淳次、頭蓋骨の形態情報の活用による性別推定：深層学習の利用、第72回日本法医学会学術九州地方集会(長崎市)、2022年10月21-22日
35 先端医用量子線技術科学コース	松下友基、藪内英剛、徳永千晶、塩津弘倫、浅野波慧、扇浦拓也、4D Free Breathingを用いたMR肺活量測定法の有用性の検討、第13回呼吸機能イメージング研究会学術集会(福岡市)2022年1月21-22日
36 先端医用量子線技術科学コース	松下友基、藪内英剛、神谷武志、白坂崇、近藤雅敏、藤原光希、寶珠山桃子、浅野波慧、扇浦拓也 肺気腫患者の残気率予測における吸気・呼気CTを用いた定量パラメータの有用性の検討 第13回呼吸機能イメージング研究会学術集会(福岡市)2022年1月21-22日
37 先端医用量子線技術科学コース	松下友基、藪内英剛、徳永千晶、塩津弘倫、浅野波慧、扇浦拓也、追立和久、Golden Angle Radial Stack of Stars MRI with KWIC and soft gatingを用いたMR肺活量測定法の有用性の検討、第78回日本放射線技術学会総会学術大会(横浜市)2022年4月14-17日
38 先端医用量子線技術科学コース	松下友基、藪内英剛、和田達弘、徳永千晶、塩津弘倫、小林幸次、浅野波慧、扇浦拓也、追立和久、稲富輝、4D FreeBreathingを用いたMRスパイロメトリーの有用性の検討、第50回日本磁気共鳴医学会大会(名古屋市)2022年9月9-11日
39 先端医用量子線技術科学コース	追立和久、藪内英剛、村崎裕生、和田達弘、小林幸次、松下友基、稲富輝、前十字韌帯の二重線維束の描出におけるCompressed SENSE MRIを用いた準静態撮影の有用性の検討、第50回日本磁気共鳴医学会大会(名古屋市)2022年9月9-11日
40 先端医用量子線技術科学コース	稲富輝、藪内英剛、船津亮平、齊藤裕也、浅野波慧、扇浦拓也、松下友基、追立和久、小林幸次、和田達弘、Compressed SENSEを用いた高速撮像REACT肺MR Angiographyの至適撮像法の検討、第50回日本磁気共鳴医学会大会(名古屋市)2022年9月9-11日
41 がん専門細胞検査士コース修士課程	上原俊貴、山口将太、江口奈津希、大石善丈、加来恒壽、小田義直、岩坂剛、渡邊壽美子、T24細胞ではBCG曝露2回目以降で核クロマチンは辺縁化しpRB-T821の脱リン酸化が起こる。第61回日本臨床細胞学会秋期大会(仙台)、2022.11.05
42 がん専門細胞検査士コース修士課程	高藤将平、上原俊貴、安田洋子、加来恒壽、渡邊壽美子、HeLa細胞における培養液交換の有無と核小体の形態変化、第61回日本臨床細胞学会秋期大会(仙台)、2022.11.05
43 がん専門細胞検査士コース修士課程	上原俊貴、渡邊壽美子、岩崎遥菜、中島海、近藤守、西村和徳、大石善丈、加来恒壽、HeLa二核細胞の性質について、第37回福岡県臨床細胞学会総会・学術集会(web)、2022.12.04
44 がん研究薬剤師コース博士課程	安河内冴、山川稚葉、鶴田朗人、橋本優希、山内智咲、中村理紗子、松永直哉、小柳悟、大戸茂弘、がん疼痛の概日変動を制御するグリア細胞由来タンパク質の同定、第29回日本時間生物学学会学術大会(栃木)2022年12月3-4日

「新ニーズに対応する九州がんプロ養成プラン」内部評価・外部評価シート

○ 国内学会(つづき)

	学生の所属コース名	内容 ※がんプロ学生の氏名には下線を引くこと
45	がん研究薬剤師コース博士課程	安河内 ¹ 、山川 ² 、鶴田 ³ 、橋本 ⁴ 、山内 ⁵ 、中村 ⁶ 、松永 ⁷ 、小柳 ⁸ 、大戸 ⁹ 、概日変動メカニズムに基づいたがん疼痛の病態解析、第143回日本薬学会年会（北海道）2023年3月25-28日
46	がん研究薬剤師コース博士課程	谷原 ¹ ：ヒト難治性乳がん細胞を対象としたマイクロ電流刺激の抗腫瘍効果に関する研究、第43回日本臨床薬理学会（横浜）、2022年12月2日
47	がん研究薬剤師コース博士課程	谷原 ¹ ：ヒト難治性乳がん細胞を対象としたマイクロ電流刺激の抗腫瘍効果に関する研究、日本薬学会第143回年会（札幌）、2023年3月26日
48	がん研究薬剤師コース博士課程	峯 ¹ ：オキサリプラチン誘発末梢神経障害に対するオメプラゾールの抑制効果、第15回日本緩和医療薬学会年会 2022年5月14日

○ その他(受賞等)

	学生の所属コース名	内容 ※がんプロ学生の氏名には下線を引くこと
1	先端医用量子線技術科学コース	清水 ¹ ：第4回日本保健物理学会・日本放射線安全管理学会合同大会 優秀プレゼンテーション賞、2022年11月26日
2	先端医用量子線技術科学コース	本井 ¹ ：第4回日本保健物理学会・日本放射線安全管理学会合同大会優秀プレゼンテーション賞、2022年11月24日
3	先端医用量子線技術科学コース	金 ¹ 、Yongsu Yoon、杜下 ² 、品川 ³ 、松延 ⁴ 、池田 ⁵ ：第78回日本放射線技術学会総会学術大会 学生賞優秀賞、2022年4月14-17日
4	がん研究薬剤師コース博士課程	安河内 ¹ ：がん疼痛の概日リズム形成メカニズムの解明、新ニーズに対応する九州がんプロ養成プラン履修生による「教育研究成果発表会」研究奨励賞受賞、2022年12月16日
5	がん研究薬剤師コース博士課程	谷原 ¹ ：第43回日本臨床薬理学会 優秀演題賞（ポスター）、2022年12月2日

「新ニーズに対応する九州がんプロ養成プラン」内部評価・外部評価シート

大学名	福岡大学
コーディネーター	医学部腫瘍・血液・感染症内科学 教授 高松 泰
事務担当者	医学部事務課教務・大学院係 岸川 美幸

1. 概要

達成目標 ※前期から継続した目標（編集不可）

- 達成目標1：九州内の多様な新ニーズに対応するがん専門医療人を養成する。
- 達成目標2：ライフステージに応じたがん対策を推進する多職種人材養成を行う。
- 達成目標3：ゲノム医療や小児・希少がんに対する海外の先進事例を積極的に収集し発信することで本プランのみならず我が国におけるがん専門医療人の養成に寄与する。

達成目標に対する今年度の実績 ※達成目標1～3に触れながら記載。必要に応じて、図や写真等を追加することも可能。

ライフステージに応じたがん専門医療人育成コースに一名が入学した。AYA世代のがん患者をサポートする体制を確立・充実させることを目的に、「AYAサポートチーム」を立ち上げた。妊孕性温存を含めて婦人科医の役割が大きく、がんプロ大学院生も参加して活動を行う。

実績を踏まえた成果（学生教育の観点での成果について記載すること）

※適宜、学生のキャリア教育、キャリア形成の点にも触れながら記載すること。必要に応じて、図や写真等を追加することも可能。

「AYAサポートチーム」の活動を開始したことで、がん診療に従事する多くの医療者がライフステージに応じたがん診療について認識し興味をもつことに役立っている。がんプロ大学院生には婦人科に所属する医師が多く、妊孕性の温存をはじめ中心的役割を担って活動している。今年度も九州がんセンターと共同でセミナーを開催し、インテンシブコースの学生の知識を高めることができた。また他病院・他職種の医療者との意見交換に役立った。腫瘍内科、放射線科医師の入学を推進すべく、引き続き大学院生の確保に努める。

2. 各事業の取り組み状況

①教育コース（大学院コース、インテンシブコース） ※別表「数値実績一覧」も参照して記述

ライフステージに応じたがん専門医療人育成コースに婦人科医1名が入学した。

②シンポジウム、セミナー、講習会等

※別表「数値実績一覧」も参照して記述。他大学のモデルとなるような内容があれば特に触れること。

2022年10月27日にHematology Web Seminarを開催し、慢性骨髄性白血病をテーマに遺伝子異常に基づいた治療戦略について講演および議論を行った。インテンシブコースの学生も聴講し、知識を取得した。

③地域や社会への情報発信の取り組み（ホームページ、SNS等の実績含む）※別表「数値実績一覧」も参照して記述

「骨髄腫福岡セミナー2022～患者・家族・医療者のつどい」を福岡大学病院メディカルホールで2022年10月30日に開催した。骨髄腫患者の会のメンバーと協力し、九州がんセンター、原三信病院、聖マリア病院、JCHO九州病院、福岡大学病院の医療者が参加して、対面・webで患者・家族へ講演・質疑応答を行った。



④大学関連病院との連携（特に「がん診療連携拠点病院」「小児がん拠点病院」との連携に関して）

上記のHematology Web Seminarは、福岡県がん診療連携拠点病院の九州がんセンターと共同で実施した。医師、薬剤師が参加した情報交換を行った。

⑤ライフステージ領域における取り組み

AYA世代のがん患者のサポートを充実させることを目的に、多職種が参加して「AYAサポートチーム」を立ち上げた。「妊孕性温存」をテーマに第1回の研修会を2023年1月31日に開催した。



3. 自己評価

[選択肢] a:十分に目標を達成できている / b:目標を達成できている / c:あと少しで目標を達成できる / d:目標を達成できていない

c:あと少しで目標を達成できる

理由・分析等

大学院生の確保は十分にできていないが、高齢がん患者のリハビリに加えて、今年度はAYA世代のサポートを病院全体で実施する活動を開始した。

自己評価を踏まえた、来年度に向けての改善点等

腫瘍内科医、放射線科医の大学院生確保は今後も困難と考えられる。インテンシブコースや多職種を対象とした研修会・勉強会を行い、がん診療の質の向上を目指すことに力を入れる。

「新ニーズに対応する九州がんプロ養成プラン」内部評価・外部評価シート

■ 英文誌・和文誌・国際学会・国内学会等での発表一覧

大学名	福岡大学
-----	------

○ 英文誌

学生所属コース名	内容 ※がんプロ学生の氏名には下線を引くこと
1 ライフステージに応じたがん専門医療人養成コ	<u>Hirakawa T.</u> , Yotsumoto F, Shirasu N, et al. Trophic and Immunomodulatory effects of adipose tissue derived stem cells in a preclinical murine model of endometriosis. Scientific Reports doi.org/10.1038/s41598-022-11891-5

○ 和文誌

学生所属コース名	内容 ※がんプロ学生の氏名には下線を引くこと
1 ライフステージに応じたがん専門医療人養成コ	四元房典、伊東智宏、宮原大輔、吉川賢一、 <u>重川浩一郎</u> 、他 当院における早期子宮体癌に対するロボット支援下子宮全摘術の臨床成績 医学紀要 49(2):85-93, 2022

○ 国内学会

学生所属コース名	内容 ※がんプロ学生の氏名には下線を引くこと
1 ライフステージに応じたがん専門医療人養成コ	<u>重川浩一郎</u> 、吉川賢一、 <u>石田倭子</u> 、他 進行期卵巣癌患者に対する診断的腹腔鏡下手術の有用性 第79回九州連合産科婦人科学会 2022年5月22日、長崎
2 ライフステージに応じたがん専門医療人養成コ	<u>Ishida K.</u> , Kiyoshima C, <u>Kurakazu Mar.</u> , et al. Evaluation of Serum MicroRNA, miR-4535 and miR-191-5p, as Predictive Non-Invasive Biomarkers for Chorioamnionitis 第74回日本産科婦人科学会学術講演会 2022年8月5～7日、福岡
3 ライフステージに応じたがん専門医療人養成コ	<u>Hirakawa T.</u> , Hata K, Tachibana K, Miyamoto S. Ultra-fine bubbles synthesized using carbon monoxide transmit the signals for embryonic differentiation 第74回日本産科婦人科学会学術講演会 2022年8月5～7日、福岡
4 ライフステージに応じたがん専門医療人養成コ	<u>Kurakazu Mar.</u> , Kurakazu Mas, Miyata K, et al. Evaluation of risk factors for massive postpartum hemorrhage due to retained products of conception 第74回日本産科婦人科学会学術講演会 2022年8月5～7日、福岡

○ その他(受賞等)

学生所属コース名	内容 ※がんプロ学生の氏名には下線を引くこと
1 ライフステージに応じたがん専門医療人養成コ	<u>平川豊文</u> : Trophic and Immunomodulatory effects of adipose tissue derived stem cells in a preclinical murine model of endometriosis 福岡大学医学部令和4年度研究奨励賞

「新ニーズに対応する九州がんプロ養成プラン」内部評価・外部評価シート

大学名	久留米大学
コーディネーター	医学部外科学講座 教授 唐 宇飛、医学部看護学科 教授 原 頼子
事務担当者	医学部教務課 課長補佐 猿渡 広

1. 概要

達成目標 ※前期から継続した目標（編集不可）

- 達成目標1：九州内の多様な新ニーズに対応するがん専門医療人を養成する。
 ○達成目標2：ライフステージに応じたがん対策を推進する多職種人材養成を行う。
 ○達成目標3：ゲノム医療や小児・希少がんに対する海外の先進事例を積極的に収集し発信することで本プランのみならず我が国におけるがん専門医療人の養成に寄与する。

達成目標に対する今年度の実績 ※達成目標1～3に触れながら記載。必要に応じて、図や写真等を追加することも可能。

- 達成目標1：九州内の多様な新ニーズに対応するがん専門医療人を養成する。

昨年に続き、抗がん剤感受性低下、耐性化に関与する遺伝子の解明について研究を継続し、特にイリノテカン耐性に関する実験をIn vitroで行ってきた。本年度では関連遺伝子の候補を同定することができ、これらの遺伝子間の相関関係についても一部明らかにするできた。具体的には図1に示すように解析を行った。その結果、薬剤耐性に関連する数多くの遺伝子を同定され、遺伝子間の関連を示唆されるデータも確認できた。GO解析において、イリノテカン耐性獲得にはEMTやRho GTPase signaling pathwayとの関わりが示唆された。また、KEGG pathway解析においてイリノテカン耐性への関与が指摘されたMicroRNAs in cancerに関与するDEGsとしてHMGA2、ZEB2、NOTCH、Let-7などが同定された。同様に、イリノテカン耐性への関与が指摘されたp53 signaling pathwayに関与するDEGsとしてGADD45、CCNE、Noxaなどが同定された。同研究成果は別添資料の英文誌に掲載され、当該学生の医学博士論文となった。（S Ogata他、Anticancer Research, 2022）今後、さらに動物実験などによるin vivoでの検証が必要と考えられた。

(図1)

抗がん剤耐性関連遺伝子の同定、解析：方法、手順



- 達成目標2：ライフステージに応じたがん対策を推進する多職種人材養成を行う。

1) がんを持ちながらも、多様な生活の場で治療が継続できること、あるいは家族と共に暮らせることを目標にする。在宅で療養したい患者には退院支援看護師と連携を行い、治療しながらも仕事をしたい患者には、就労支援を行えるように、患者の希望に添うことができるようがん看護専門看護師が調整役となっている。地域医療とも連携し、包括支援システムの中で、人材が整うよう患者・家族のニーズを素早く予測し寄り添った看護が実践できるような環境作りをしている。そのために専門共通科目であるがん緩和ケア地域連携教育論では、専門看護師教育課程の学生と多領域の学生がディスカッションしながら学んでいる。

2) がん看護専門看護師教育課程の修了生を中心に地域に呼びかけ、高齢者のがんや、AYA世代のがんについて講師を招いて基調講演や事例検討会を開催し、患者や家族のニーズに沿った支援ができるような学び合いを行うことで、地域との連携を深め、人材育成にもつながっている。

- 達成目標3：ゲノム医療や小児・希少がんに対する海外の先進事例を積極的に収集し発信することで本プランのみならず我が国におけるがん専門医療人の養成に寄与する。

当大学病院では、ゲノム医療に対応して遺伝外来を立ち上げ、頻繁に治療抵抗性や難治性の癌に対して関連診療科すべて参加するキャンサーボードとエキスパートパネルが開かれ、診療中のがん患者の家族歴、遺伝背景などから、積極的に遺伝性がんの疑いのある患者に対して遺伝外来で専門的にカウンセリングを進めており、遺伝子変異のあるがん患者とその家族に対してはより緊密な定期検査を行い、また、遺伝性乳癌卵巣癌症候群（HBOC）の患者において希望があれば、予防的に乳房切除術や卵巣卵管摘出術などを行っている。遺伝的背景の強い希少がんについても診療体制を整備してきた。本プログラムに対応する教育環境としても活用していく予定である。

実績を踏まえた成果（学生教育の観点での成果について記載すること）

※適宜、学生のキャリア教育、キャリア形成の点にも触れながら記載すること。必要に応じて、図や写真等を追加することも可能。

がん治療の中でも薬物療法については、新規抗癌剤や分子標的薬、免疫チェックポイント阻害薬治療など多様化が進み、個別化療法に対応した知識を持つ医療人の養成が急務で、特に遺伝子相談などの需要も増えているため、本課程の修了者である、化学治療に携わがん看護専門看護師の講義を受講し知識の習得を目指している。

2. 各事業の取り組み状況

①教育コース（大学院コース、インテンシブコース）※別表「数値実績一覧」も参照して記述

がん看護専門看護師資格試験は、大学院修了と現場での実績をもとに受験する必要があるため、修了生による久留米ネットワークの協力のもとでフォロー体制を作り、エビデンスを基に豊かな実践力を身に着けることができ、認定試験合格者も増えている。がんプロとのコラボレーションセミナーを開き、実践的な知識の習得に励むとともに、成果を学会で発表を行っている。

②シンポジウム、セミナー、講習会等

※別表「数値実績一覧」も参照して記述。他大学のモデルとなるような内容があれば特に触れること。

昨年度でも院内外において様々ながん関連セミナーやがん教室を行われていたが（資料参照）、特に薬物療法に関する講習会などへの参加により、履修大学院生はがん薬物療法の最新臨床試験の情報や臨床応用に関する知見を得ることができ、日常のがん診療に活用し、研究の整合性などの検討材料になることもあった。

③地域や社会への情報発信の取り組み（ホームページ、SNS等の実績含む）※別表「数値実績一覧」も参照して記述

久留米大学大学院がん看護分野CNS養成コースのホームページでは、「地域連携・セミナー」のページに、継続している事例検討会や、セミナーの案内を掲示し、地域にいるがん看護を行う人への参加を促している。開催後には、検討した内容や今後の課題等を掲示し、地域でがん看護を行う医療者への情報発信に努めている。市民公開講座を開催し、久留米大学のがん看護の取り組みや、地域へのがん教育を行い、啓発活動に努めている。関連する学会にて、がん看護の実績を報告している。

④大学関連病院との連携（特に「がん診療連携拠点病院」「小児がん拠点病院」との連携に関して）

久留米大学病院はがん診療拠点病院として、定期的に本学の教育関連病院との間において、治療抵抗性や難治性がんの治療に当たり、Web会議などでゲノム解析やエキスパートパネル及びキャンサーボードの開催を行っている。その結果を薬物開発などの臨床試験へ情報提供し、試験参加を促すことを行っている。院内においては新規免疫チェックポイント阻害薬による薬物療法に対しても総合的に管理する専門委員会が設立され、がん関連診療科同士での意見情報交換を行っており、有害事象の対応などに有効な役割を果たしている。また、遺伝背景の強いがん患者に対して、連携病院と相互的に連携し、患者及びその家族も含め、カウンセリングによりリスク評価を行っており、地域でのハイリスク患者の拾い上げやそれに合わせたスクリーニング検査も行っており、癌の早期発見や治療および予防に貢献している。

⑤ライフステージ領域における取り組み

がん看護専門看護師の役割を学ぶことを目的に、難治性がん、希少がん患者が入院する病棟でがん看護学実習を行い、がんサバイバーの治療に対する思いや、個別性を尊重した多職種および専門看護師の実践を学び、振り返りを行うことで質の高いケアを見出すことに繋がった。3月の久留米ネットワークとのコラボレーションセミナーでは、AYA世代のがん患者を理解するための基調講演を開催し、その講義をもとに事例検討を行いがん看護専門看護師の役割についてディスカッションをし、実践力の向上に繋がるよう開催の準備を進めている。

3. 自己評価

[選択肢] a:十分に目標を達成できている / b:目標を達成できている / c:あと少しで目標を達成できる / d:目標を達成できていない

b:目標を達成できている

理由・分析等

今年、新しい若手医師大学院生から参加希望は未だないが、昨年度では限られた人員と時間のなかで当プログラム履修大学院生が臨床及び基礎研究を一段落することができ、英文論文を作成し、学位取得もできた。また、大学病院内において免疫チェックポイント阻害薬などの新規薬物療法を総合的に管理する専門委員会やがん遺伝子関連の委員会が設立され、がんプロの教育プログラムに必要な教育環境は整備できた。

自己評価を踏まえた、来年度に向けての改善点等

当初に比べ、大学院進学者において当プログラムに対する周知や理解が不足しているため、大学に在籍しても、積極的に参加する人数が減少しているのが現状であり、今後、がん診療に携わる若手医師大学院生に当教育プログラムの意義を再認識させ、より魅力のある内容にしていくことを工夫模索する必要があると考える。

また、限られた人員と時間のなかで指導者に対しても当プログラムへの理解を深め、積極的に関与するように促す必要がある。

「新ニーズに対応する九州がんプロ養成プラン」内部評価・外部評価シート

■ 英文誌・和文誌・国際学会・国内学会等での発表一覧

大学名	久留米大学
-----	-------

○ 英文誌

	学生の所属コース名	内容 ※がんプロ学生の氏名には下線を引くこと
1	先端癌治療学悪性腫瘍専門医養成ユニット 「希少がん診療養成コース」	SUGURU OGATA, YOSHITO AKAGI etc. Experimental Exploration for Genes Related to Susceptibility and Resistance to Irinotecan ANTICANCER RESEARCH 2022, 42 (8) 4011-4016;
2	先端癌治療学悪性腫瘍専門医養成ユニット 「希少がん診療養成コース」	Suguru Ogata, Yoshito Akagi etc. Prognostic value of preoperative carcinoembryonic antigen and carbohydrate antigen 19-9 levels for adjuvant chemotherapy in stage II colorectal cancer: A nationwide multicenter retrospective study. Journal of the Anus, Rectum and Colon 2022年6巻4号 p. 249-258

○ 国内学会

	学生の所属コース名	内容 ※がんプロ学生の氏名には下線を引くこと
1	「がん看護専門看護師教育課程」修了生	四井博美、原 頼子、桐明あゆみ がん看護学会 2023年2月25日26日
2	「がん看護専門看護師教育課程」修了生	太郎良純香、原 頼子 がん看護学会 2023年2月25日26日
3	先端癌治療学悪性腫瘍専門医養成ユニット 「希少がん診療養成コース」	緒方 傑、唐 宇飛、赤木由人ほか、小腸イレウスを契機に診断された潜在性男性乳癌の1例 第84回日本臨床外科学会総会（福岡）2022年11月24日

「新ニーズに対応する九州がんプロ養成プラン」内部評価・外部評価シート

大学名	佐賀大学
コーディネーター	医学域医学系内科学講座 准教授 安藤 寿彦
事務担当者	医学部総務課 副課長 山下 順子、医学部学生課大学院担当 白井 由美

1. 概要

達成目標 ※前期から継続した目標（編集不可）

- 達成目標1：九州内の多様な新ニーズに対応するがん専門医療人を養成する。
- 達成目標2：ライフステージに応じたがん対策を推進する多職種人材養成を行う。
- 達成目標3：ゲノム医療や小児・希少がんに対する海外の先進事例を積極的に収集し発信することで本プランのみならず我が国におけるがん専門医療人の養成に寄与する。

達成目標に対する今年度の実績 ※達成目標1～3に触れながら記載。必要に応じて、図や写真等を追加することも可能。

達成目標1

九州内の多様な新ニーズに対するがん専門医療人、およびライフステージに応じたがん対策を推進する多職種人材養成については、2022年度はがんプロ事業がなかったため、病院内の臨床腫瘍班（がん治療に関わる各科医師、看護師、薬剤師、検査技師など多職種の横断的組織）で引き続き行い、全学的な実施体制で継続的に取り組んだ。臨床腫瘍班で定期的に院内でのがん患者診療対策やがん薬物療法専門医育成などへの対応を含め検討する中で、九州がんプロ養成プランで援助可能事項などに対応している。大学院生ではないが、呼吸器内科医師が、がん薬物専門医取得を目指しており、他の診療科と協力し支援した。

達成目標2

ライフステージに応じたがん対策としては、緩和ケア診療班を中心に地域医療機関との連携協力カンファレンス（医師、地域医療機関在宅医療部スタッフ、入所施設スタッフ、薬局薬剤師など参加）や、緩和ケア講習会（22/12/23）「高齢者のオピオイドの使用と評価」、アドバンス・ケア・プランニングセミナー（看護師対象5回シリーズ）、スキルアップ研修会（22/10/7）「どう考える？がん患者に痛いと言われた時」など開催され医療人育成が進んだ。

達成目標3：

ゲノム医療については、中核拠点とするがんゲノム医療連携病院であり、エキスパートパネルに履修中の大学院生を参加させ、実地のゲノム医療を学ばせている。がんゲノム検査に対応した院内体制の構築・人材育成など臨床腫瘍班を中心にすすみ実績を積んでおり、履修生もエキスパートパネル前の事前検討や発表を含め積極的に参加した。また、院内のがんゲノム診療部門の活動も軌道にのってきており（がんプロ卒業生が実務担当）、がんゲノム遺伝子パネル検査実施件数も令和3年度36件施行から令和4年度は12月までの9カ月ですでに43件実施と増加しており、遺伝カウンセリング室との連携も強化できた。小児・希少がん領域については、日本小児血液・がん学会専門研修施設認定を受けた。また、学内限定で毎週木曜日に小児がん多職種カンファレンスを開催し連携を強化できた。

実績を踏まえた成果（学生教育の観点での成果について記載すること）

※適宜、学生のキャリア教育、キャリア形成の点にも触れながら記載すること。必要に応じて、図や写真等を追加することも可能。

がんゲノム医療については、京都大学とのエキスパートパネルに履修中の大学院生などを参加させ、実地のゲノム医療を学ばせている。大学院生（現在1名）は、エピゲノム関連（経口DNA脱メチル化剤）の研究活動・リサーチカンファレンスなどを通じ科学的・論理的思考を身に付けてきている。

2. 各事業の取り組み状況

①教育コース（大学院コース、インテンシブコース）※別表「数値実績一覧」も参照して記述

1、統合的地域がん治療専門医育成コース（2年生 1名） 令和4年度の大学院生は1名のみであるが、“DNAメチル化を標的にしたALK陽性未分化大細胞型リンパ腫の治療戦略”をテーマに研究を継続している。
2、統合的地域がん医療人育成プログラム 入学者実績なし。
eラーニングを用いた九州がんプロ「新ニーズに対応するがん専門医療人養成インテンシブコースの周知を行った。参加者実績なし。

②シンポジウム、セミナー、講習会等

※別表「数値実績一覧」も参照して記述。他大学のモデルとなるような内容があれば特に触れること。

佐賀大学において、がんプロ主催のセミナーなどは令和4年度開催していません。
エリア拠点である、長崎大学で開催されるがんプロセミナーについては、事前にご連絡をいただき大学院生のみでなく、臨床腫瘍班を通じて、がん診療に携わる医師、看護師、薬剤師などに情報提供を行った。
2022年11月25日に新潟大学の猪又先生よりirAE心筋炎についてのご講演など、がんプロ学生のみでなく、多職種で実臨床における情報共有を随時行っている。

③地域や社会への情報発信の取り組み（ホームページ、SNS等の実績含む）※別表「数値実績一覧」も参照して記述

床腫瘍班・緩和ケア診療班のホームページを通じ関連医療施設、地域の医療者、市中薬局など広く広報活動を継続的に行った。併せて、佐賀県内の小中学校で、がん教育の出張授業も行っている。

④大学関連病院との連携（特に「がん診療連携拠点病院」「小児がん拠点病院」との連携に関して）

2022年5月21日 第1回佐賀県がん化学療法チーム研修会を開催。がん診療連携拠点病院である佐賀大学医学部附属病院と、地域がん診療連携拠点病院である佐賀県医療センター好生館、嬉野医療センター、唐津赤十字病院より医師、看護師、薬剤師とMSW、それぞれ1~2名ずつ参加し、県全体のがん医療の課題を整理し、解決するための研修を行った。
内容は、薬物療法専門医、薬剤師、看護師不足 → 大学を中心として若手の育成、薬業連携の不足 → 今後のこの研修会を利用して、門前薬局と共同での研修会開催、高齢者世帯の自宅での副作用の管理 → かかりつけ医、かかりつけ薬局との連携強化などであった。
2022年9月26日九州・沖縄ブロック小児がん拠点病院TV会議Webセミナー参加した。

⑤ライフステージ領域における取り組み

- ・九州大学病院 小児緩和ケアチーム勉強会 2回参加した。
- ・成育医療研究センター 緩和ケア科 小児がん緩和ケアレクチャーに、2回参加した。など
- ・緩和ケア診療班を中心に地域医療機関との連携協力カンファレンス、緩和ケア講習会、アドバンス・ケア・プランニングセミナー、スキルアップ研修会など行われた。

3. 自己評価

[選択肢] a:十分に目標を達成できている / b:目標を達成できている / c:あと少しで目標を達成できる / d:目標を達成できていない

c: あと少しで目標を達成できる。

理由・分析等

2022年度は、がんプロ事業の継続なく再開も確定的なものではなかったため、大学院への入学はない状況であったが（再開が確定すれば再度勧誘努力を行う予定）、eラーニングを用いた九州がんプロ「新ニーズに対応するがん専門医療人養成インテンシブコース」の周知を行ったが、参加実績はなく、周知方法等の検討が必要である。履修者を指導する人材についても、診療科によっては診療体制としては厳しい現実があるが、実際の臨床・他職種/他施設との連携、セミナーなどを通じ能力向上が図れている。

自己評価を踏まえた、来年度に向けての改善点等

- ・統合的地域がん治療専門医育成コースについては、がん診療に関わる多くの科からの履修を今後も促していきたいと考えているが、現状厳しい状況が続いている。大学院への入学は厳しい状況であるが、eラーニングを用いた九州がんプロ「新ニーズに対応するがん専門医療人養成インテンシブコース」については今後も積極的に参加を促す方針である。
- ・統合的地域がん医療人育成プログラムについては、医師以外の医療人を対象としたプログラムであるが、医師以上に大学院進学者の確保は現実的には厳しい状況である。有効的と考えられる具体策は残念ながら困難である。

「新ニーズに対応する九州がんプロ養成プラン」内部評価・外部評価シート

■ 英文誌・和文誌・国際学会・国内学会等での発表一覧

大学名	佐賀大学
-----	------

○ 英文誌

	学生の所属コース名	内容 ※がんプロ学生の氏名には下線を引くこと
1	統合的地域がん治療専門医育成コース	Kazuharu Kamachi, Hiroshi Ureshino, <u>Kazunori Kawasoe</u> . Combination of a new oral demethylating agent, OR-2100, and Venetoclax for treatment of acute myeloid leukemia, Cancer Research Communications, in press

「新ニーズに対応する九州がんプロ養成プラン」内部評価・外部評価シート

大学名	長崎大学
コーディネーター	大学院医歯薬学総合研究科 臨床腫瘍学分野 教授 芦澤 和人
事務担当者	生命医科学域・研究所事務部 学務課 主査（大学院） 多田 拓朗

1. 概要

達成目標 ※前期から継続した目標（編集不可）

- 達成目標1：九州内の多様な新ニーズに対応するがん専門医療人を養成する。
- 達成目標2：ライフステージに応じたがん対策を推進する多職種人材養成を行う。
- 達成目標3：ゲノム医療や小児・希少がんに対する海外の先進事例を積極的に収集し発信することで本プランのみならず我が国におけるがん専門医療人の養成に寄与する。

達成目標に対する今年度の実績 ※達成目標1～3に触れながら記載。必要に応じて、図や写真等を追加することも可能。

○達成目標1

- ・多様な新ニーズに対応する専門医療人の養成のため、がんプロ大学院生に対し、e-learningの聴講、薬物療法・緩和医療を必須とした臨床実習を行った。
- ・ゲノム医療の臨床実装に向けて、がんプロ教員及び大学院生は、各学会等で開催されたがんゲノム医療に関する講演会へ参加した。また、がんプロ教員及び医療スタッフを中心に、がんゲノム医療中核拠点病院のエキスパートパネルや連携会議に参加した。がんゲノム医療拠点病院である当院のエキスパートパネル（genomic cancer board：GCB）、事前のMolecular tumor board（MTB）及びclinical tumor board（CTB）へ大学院生が積極的に参加した。

○達成目標2

- ・ライフステージに応じたがん専門医療人の育成のために、大学院生に対し、在宅医療実習または離島・僻地実習を継続して行った。



離島・僻地実習（歯科医師 2022年12月）

- ・大学院生は、外来化学療法室及び緩和ケア外来での実習並びにカンファレンスに参加し、チーム医療、多職種連携の重要性を学んだ。
- ・大学病院のがん診療センターが主催する多職種を対象としたがん診療連携拠点病院研修会を4回共催し（4回目は3月6日開催予定）、がんプロ教員や大学院生だけでなく、看護師、薬剤師、検査技師等の多職種が参加した。

○達成目標 3

- ・ がんプロ教員、医療スタッフ及び大学院生が、各学会等で開催されたがんゲノム医療や希少がん（第1回がん診療連携拠点病院研修会のテーマ）に関する講演会へ積極的に参加することで、先進的な取り組みを学び、学内での会議や説明会で情報を発信した。

実績を踏まえた成果（学生教育の観点での成果について記載すること）

※適宜、学生のキャリア教育、キャリア形成の点にも触れながら記載すること。必要に応じて、図や写真等を追加することも可能。

- ・ 大学院生は、全国がんプロのe-learningクラウドシステムを用いて必須科目を聴講することで、基本的ながん医療やがんゲノム医療に関する知識を習得した。
- ・ ゲノム医療や希少がんに関する講演会、大学病院がん診療センターとの共催の研修会への参加並びに薬物療法及び緩和ケアに関する実習を通して、多様な新ニーズに対応するがん専門医療人の養成を行ってきた。さらに、在宅医療実習または離島・僻地実習を行うことで、地域医療や離島・僻地医療を理解し、ライフステージに応じたがん対策を推進する多職種人材養成を継続して行った。がんゲノム医療では、院内のがんゲノム診療部門が運用する遺伝子パネル検査症例のエキスパートパネル（genomic cancer board:GCB）、事前のMolecular tumor board (MTB)、clinical tumor board (CTB) 及びがん診療センター主催の院内がんボードへがんプロ学生を参加することで、学生のキャリア教育を進めた。



Cancer Board (2022年11月7日)

2. 各事業の取り組み状況

①教育コース（大学院コース、インテンシブコース）※別表「数値実績一覧」も参照して記述

- ・ 今年度、本大学院コースへ6名（歯科医師2名を含む）の学生を受け入れ、がんゲノム医療やライフステージに応じたがん医療に関して、e-learningの聴講や実習を通して、専門医療人の育成を行なった。また、3名の学生が各専門領域の専門医を取得した（1名2種類の資格を取得）。なお、薬剤師の受け入れは、学部内の方針で第3期は行われていない。
- ・ 在学中の大学院生が、これまでの研究成果に関する学会発表及び論文作成を行った。

②シンポジウム、セミナー、講習会等

※別表「数値実績一覧」も参照して記述。他大学のモデルとなるような内容があれば特に触れること。

- ・ 大学院生が、がんゲノム医療やライフステージに応じたがん医療に関する講演会及び研修会に参加することで、がん診療に関する重要な知識を習得した。また、エキスパートパネル (genomic cancer board : GCB)、事前の Molecular tumor board (MTB)、clinical tumor board (CTB) 及び院内がんセンターボードに参加し、専門スタッフの討論に関する理解を深めることができた。
- ・ 長崎大学がんプロ記念講演会（2月20日開催予定）では、テレビ会議システムを用いて、他大学による同時聴講を行う予定である。

③地域や社会への情報発信の取り組み（ホームページ、SNS等の実績含む） ※別表「数値実績一覧」も参照して記述

- ・ 今年度は、がん患者の就労支援・両立支援及び「膵臓がんの治療」をテーマにして、大学病院のがん診療センターが主催する県民公開講座「がんについてよく知ろう」を共催し、専門スタッフが講演を行い、県民への情報発信を行った。
- ・ これまで大学院生の在宅医療実習及び離島・僻地実習の報告書をHPに掲載し、ライフステージに応じた地域がん医療に貢献する学生の活動に関する情報を発信している。

④大学関連病院との連携（特に「がん診療連携拠点病院」「小児がん拠点病院」との連携に関して）

- ・ 大学病院（県がん診療連携拠点病院）と連携し、大学病院がん診療センターが主催する多職種を対象とした研修会や県民公開講座「がんについてよく知ろう」を共催した。



県民公開講座2022年10月15日（出島メッセ長崎）

- ・ 大学院生に対して、大学病院内での薬物療法及び緩和ケアに関する臨床実習を行い、チーム医療や多職種連携の重要性を学んでもらった。
- ・ 院内で定期開催される緩和ケアカンファレンス、エキスパートパネル (genomic cancer board : GCB)、事前の Molecular tumor board (MTB)、clinical tumor board (CTB) 及び院内がんセンターボードに大学院生が積極的に参加し、さらに在宅医療実習及び離島・僻地実習等を含めて、病病連携及び病診連携を強化するように努力した。

⑤ライフステージ領域における取り組み

- ・ ライフステージに応じたがん診療の充実を図るため、第2期がんプロで開始した在宅医療実習及び離島・僻地実習を継続して行っている。コロナ感染の影響で、これまで院内で定期開催されていた在宅医との緩和ケアカンファレンスは今年度も中止しているが、テレビ会議等で適宜、疼痛管理や人生会議（advance care planning: ACP）に関して連携を継続している。

3. 自己評価

[選択肢] a:十分に目標を達成できている / b:目標を達成できている / c:あと少しで目標を達成できる / d:目標を達成できていない

b:目標を達成できている

理由・分析等

- ・ 今年度6名の学生を受け入れ、多様な新ニーズに対応するがん専門医療人の養成を目的として、種々の研修会、講演会の開催、薬物療法及び緩和ケアに関する実習、在宅医療実習などを行った。また、がんゲノム医療に関する講演会の開催並びに大学病院がんゲノム診療部門が運営する遺伝子パネル検査症例のエキスパートパネル（genomic cancer board: GCB）、事前のMolecular tumor board (MTB)、clinical tumor board (CTB) 及びがん診療センター主催の院内がんセンターボードに大学院生を積極的に参加させることで、がんゲノム医療等に関する知識の習得に繋がっていると考える。

自己評価を踏まえた、来年度に向けての改善点等

- ・ 来年度は次期（第4期）がんプロ事業が開始される可能性があると聞いており、新しい取り組みに対する準備を行っていく予定である。第3期入学の在学中の大学院生に対しては、引き続き、多様な新ニーズに対応するがん専門医療人育成の教育を実施していきたい。
- ・ 遺伝子パネル検査症例のエキスパートパネル（genomic cancer board: GCB）、事前のMolecular tumor board (MTB) 及びclinical tumor board (CTB) の参加をこれまで以上に促し、これらの準備にもより関与するように指導する。

「新ニーズに対応する九州がんプロ養成プラン」内部評価・外部評価シート

■ 英文誌・和文誌・国際学会・国内学会等での発表一覧

大学名	長崎大学
-----	------

○ 英文誌

	学生の所属コース名	内容 ※がんプロ学生の氏名には下線を引くこと
1	がんゲノム医療専門医師・歯科医師養成コース	<u>Araki I.</u> , Hamada K, Myat AB, Ogino H, <u>Hayashi K.</u> , Maeda M, Tong Y, Murakami Y, Nakao K, Masutani M. Enhanced Cytotoxicity on Cancer Cells by Combinational Treatment of PARP Inhibitor and 5-Azadeoxycytidine Accompanying Distinct Transcriptional Profiles. <i>Cancers (Basel)</i> . 2022 Aug 28;14(17):4171.
2	がんゲノム医療専門医師・歯科医師養成コース	Taniguchi H, <u>Akagi K.</u> , Dotsu Y, Yamada T, Ono S, Imamura E, Gyotoku H, Takemoto S, Yamaguchi H, Sen T, Yano S, Mukae H. Pan-HER inhibitors overcome lorlatinib resistance caused by NRG1/HER3 activation in ALK-rearranged lung cancer. <i>Cancer Sci</i> . 2023 Jan;114(1):164-173.
3	がんゲノム医療専門医師・歯科医師養成コース	Ohuchi M, Yagishita S, Jo H, <u>Akagi K.</u> , Inaba Higashiyama R, Masuda K, Shinno Y, Okuma Y, Yoshida T, Goto Y, Horinouchi H, Makino Y, Yamamoto N, Ohe Y, Hamada A. Early change in the clearance of pembrolizumab reflects the survival and therapeutic response: A population pharmacokinetic analysis in real-world non-small cell lung cancer patients. <i>Lung Cancer</i> . 2022 Nov;173:35-42.
4	がんゲノム医療専門医師・歯科医師養成コース	<u>Akagi K.</u> , Taniguchi H, Fukuda M, Yamazaki T, Ono S, Tomono H, Suyama T, Shimada M, Gyotoku H, Takemoto S, Yamaguchi H, Dotsu Y, Senju H, Soda H, Mizowaki T, Monzen Y, Ikeda T, Nagashima S, Tasaki Y, Nakamura D, Komiya K, Nakatomi K, Sasaki E, Hirakawa K, Mukae H. Phase I study of amrubicin plus cisplatin and concurrent accelerated hyperfractionated thoracic radiotherapy for limited-disease small cell lung cancer: protocol of ACIST study. <i>Thorac Cancer</i> . 2022 Aug;13(16):2404-2409.
5	包括的がん専門医師・歯科医師養成コース	<u>Nishimura I.</u> , Sueyoshi E, Koike H, Uetani M. Initial experience with intensity distribution analysis of hemodynamic parameters in the thoracic aorta using four-dimensional magnetic resonance imaging: A comparison between groups with different ejection fractions. <i>Medicine</i> . 101(2), 2022

○ 和文誌

	学生の所属コース名	内容 ※がんプロ学生の氏名には下線を引くこと
1	がんゲノム医療専門医師・歯科医師養成コース	赤城和優, 福島喜代康, 宮下律子, 近藤晃, 吉田伸太郎, 迎寛, 慢性好酸球性肺炎の軽快後に片側性好酸球性胸水で再発した好酸球増多症, 日呼吸誌, 11(3): 165-169, 2022
2	包括的がん専門医師・歯科医師養成コース	岩野佑介, 筒井伸, 土谷智史, 永安武, 小笹睦, 福岡順也, 上谷雅孝, 芦澤和人, ブラ壁近傍に発生した末梢型粘表皮癌の1例, 臨床放射線67: 605-609, 2022

○ 国際学会

	学生の所属コース名	内容 ※がんプロ学生の氏名には下線を引くこと
1	がんゲノム医療専門医師・歯科医師養成コース	<u>Akagi K.</u> , et al. Phase I study of amrubicin plus cisplatin with concurrent accelerated hyperfractionated thoracic radiotherapy for limited-stage small cell lung cancer, APSR 2022 (Seoul), 2022. 11. 19
2	がんゲノム医療専門医師・歯科医師養成コース	<u>Hiromi Tomono.</u> , Minoru Fukuda, et al. Phase II study of IRInotecan after COmbined immunotherapy for extensive-disease small cell lung cancer (IRICO study). APSR in 2022 Seoul, Korea, 2022. 11. 19

「新ニーズに対応する九州がんプロ養成プラン」内部評価・外部評価シート

○ 国内学会

	学生の所属コース名	内容 ※がんプロ学生の氏名には下線を引くこと
1	がんゲノム医療専門医師・歯科医師養成コース	本田徳鷹, 肺がんにおけるtalazoparibのPARP阻害剤としての作用機序の検討, 第81回日本癌学会学術総会(東京)2022年10月1日
2	がんゲノム医療専門医師・歯科医師養成コース	赤城和優, ALK陽性肺がんのNRG1/HER3活性化によるLorlatinibへの獲得耐性とPan-HER阻害薬による耐性克服, 第26回日本がん分子標的治療学会学術学会(石川)2022年6月30日
3	包括的がん専門医師・歯科医師養成コース	澤瀬寛典, 小澤栄介, 中尾一彦, 静脈麻酔中のERCP症例を対象としたNasal High Flowを用いた呼吸管理 前向き無作為化単施設研究, 第103回日本消化器内視鏡学会総会 2022年5月14日
4	包括的がん専門医師・歯科医師養成コース	島村拓弥, 澤瀬寛典, 平井哲, 井手康史, 内橋和芳, 十二指腸隆起性病変に対しUnder gel endoscopic mucosal resection (UGEMR) を施行した2例, 第119回日本消化器病学会九州支部例会・第113回日本消化器内視鏡学会九州支部例会 2022年6月24日
5	包括的がん専門医師・歯科医師養成コース	宮本和樹, 島村拓弥, 平井哲, 澤瀬寛典, 井手康史, 短腸症候群に対するGLP-2アナログ製剤の使用経験, 第119回日本消化器病学会九州支部例会・第113回日本消化器内視鏡学会九州支部例会 2022年6月24日
6	包括的がん専門医師・歯科医師養成コース	浦知佳子, 井手康史, 平井哲, 松永拓也, 澤瀬寛典, 阿比留正剛, 胃壁膿瘍に対して超音波内視鏡下ドレナージを施行した1例, 日本内科学会第339回九州地方会 2022年11月27日
7	包括的がん専門医師・歯科医師養成コース	松雪紀子, 平井哲, 松永拓也, 澤瀬寛典, 井手康史, 阿比留正剛, 川原大輔, 内橋和芳, 診断に苦慮した進行大腸癌の1例, 第120回日本消化器病学会九州支部例会・第114回日本消化器内視鏡学会九州支部例会 2022年12月2日
8	包括的がん専門医師・歯科医師養成コース	浦知佳子, 澤瀬寛典, 平井哲, 松永拓也, 井手康史, 阿比留正剛, 内橋和芳, 十二指腸乳頭部腫瘍に対して内視鏡的乳頭切除術を行った2症例, 第120回日本消化器病学会九州支部例会・第114回日本消化器内視鏡学会九州支部例会 2022年12月2日
9	包括的がん専門医師・歯科医師養成コース	西村考真, 大坪まゆみ, 松山直弘, 森雅一, 木下郁夫, 当院で経験した可逆性脳血管攣縮症候群の4例, 第194回九州地方会 (Web開催) 2022年2月13日
10	包括的がん専門医師・歯科医師養成コース	西村考真, 森雅一, 大坪まゆみ, 松山直弘, DIC-CTが治療戦略に有用だった離断型難治性胆汁漏の1例, 第44回九州IVR研究会 (福岡) 2022年12月17日
11	包括的がん専門医師・歯科医師養成コース	岩野佑介, 荻原幸宏, 筒井伸, 安東恒史, 土谷智史, 岡野慎士, 芦澤和人, 傍椎体病変の1例, 第57回福岡胸部放射線研究会(福岡)2022年5月14日

○ その他(受賞等)

	学生の所属コース名	内容 ※がんプロ学生の氏名には下線を引くこと
1	がんゲノム医療専門医師・歯科医師養成コース	赤城和優, ALK陽性肺がんのNRG1/HER3活性化によるLorlatinibへの獲得耐性とPan-HER阻害薬による耐性克服, 第26回日本がん分子標的治療学会学術学会(石川)2022年6月30日, ポスター賞

「新ニーズに対応する九州がんプロ養成プラン」内部評価・外部評価シート

大学名	熊本大学
コーディネーター	熊本大学病院 次世代外科治療開発学寄附講座 特任准教授 馬場 祥史
事務担当者	医薬保健学系事務課 医学事務チーム 教務担当 岩下 由起子

1. 概要

達成目標 ※前期から継続した目標（編集不可）

- 達成目標1：九州内の多様な新ニーズに対応するがん専門医療人を養成する。
- 達成目標2：ライフステージに応じたがん対策を推進する多職種人材養成を行う。
- 達成目標3：ゲノム医療や小児・希少がんに対する海外の先進事例を積極的に収集し発信することで本プランのみならず我が国におけるがん専門医療人の養成に寄与する。

達成目標に対する今年度の実績 ※達成目標1～3に触れながら記載。必要に応じて、図や写真等を追加することも可能。

- 達成目標1：
 - ・令和4年度は「研修医・大学院一体型がん専門博士養成コース」の在籍者は合計で15名となり、消化器における希少がんの臨床データを用いた研究によるがん専門医療人の養成を図った。
 - ・「肝臓専門医」1名、「消化器外科専門医」1名、「がん治療認定医（日本がん治療認定医機構）」1名が専門医資格を取得した。
- 達成目標2・3：
 - ・国際外科学会、International Congress of Asian Oncology Society等の国際学会及び日本外科学会学術集会、日本肝癌研究会、日本癌学会総会等の国内学会でコース生の多くが参加し、研究成果を発信するとともに、最先端のがん研究について学ぶ機会を得ることができた。

実績を踏まえた成果（学生教育の観点での成果について記載すること）

※適宜、学生のキャリア教育、キャリア形成の点にも触れながら記載すること。必要に応じて、図や写真等を追加することも可能。

- ・初期研修医として研修に従事しながら大学院生として研究を行うことで、臨床と研究のバランスの取れたがん専門医の育成を行うことができ、また、専門医資格取得のサポートにも務め、専門医資格を3名取得することができた。
- ・国際学会で2件、国内学会で16件の研究発表をコース生が行い、希少がんに対する研究成果を広く情報発信することができた。

2. 各事業の取り組み状況

①教育コース（大学院コース、インテンシブコース） ※別表「数値実績一覧」も参照して記述

- ・研修医・大学院一体型がん専門博士養成コースでは1名がコースを修了した。
- ・「肝臓専門医」1名、「消化器外科専門医」1名、「がん治療認定医（日本がん治療認定医機構）」1名が専門医資格を取得することができ、即戦力となる人材を養成することができた。
- ・臨床と研究のバランスのとれた育成を行うことで、コース生の論文が英文誌に9編掲載された。
- ・国内外の学会で発表を行い、第60回日本癌治療学会においてYoung oncologist Awardを、第30回JDDWにおいて優秀演題賞、若手奨励賞をコース生が受賞した。

②シンポジウム、セミナー、講習会等

※別表「数値実績一覧」も参照して記述。他大学のモデルとなるような内容があれば特に触れること。

開催なし

③地域や社会への情報発信の取り組み（ホームページ、SNS等の実績含む）※別表「数値実績一覧」も参照して記述
<ul style="list-style-type: none"> ・本学のがんプロWebサイトを通して、「研修医・大学院一体型がん専門博士養成コース」、「ライフステージに応じたがん対策を推進するがん専門薬剤師コース」それぞれのコースの特色等についての紹介を行っている。
④大学関連病院との連携（特に「がん診療連携拠点病院」「小児がん拠点病院」との連携に関して）
<ul style="list-style-type: none"> ・「研修医・大学院一体型がん専門博士養成コース」ではコース生が初期臨床研修医として本学病院で診療やカンファレンスに参加し、がん治療と緩和ケア等の実際を学ぶ機会を得ることができた。
⑤ライフステージ領域における取り組み
特になし

3. 自己評価

[選択肢] a:十分に目標を達成できている / b:目標を達成できている / c:あと少しで目標を達成できる / d:目標を達成できていない
b:目標を達成できている
理由・分析等
<ul style="list-style-type: none"> ・「研修医・大学院一体型がん専門博士養成コース」では15名の在籍者が英文雑誌への論文の投稿や国際学会及び国内学会で発表を行う等、がん治療に関する研究成果を広く発信するとともに、先進事例を積極的に収集することができた。 ・専門医資格取得に向けたサポートを強化し、コース生ががん治療認定医、外科専門医の資格を取得することができ、がん専門人材養成に寄与することができた。
自己評価を踏まえた、来年度に向けての改善点等
<ul style="list-style-type: none"> ・「研修医・大学院一体型がん専門博士養成コース」では今年度の新規入学者が目標に届かなかったため、来年度は目標を達成できるよう大学院生の確保に努める。 ・「インテンシブコース」では、資格取得者の輩出が出来ない状況が続いており、コース受講者確保のための情報発信を積極的に行っていく。

「新ニーズに対応する九州がんプロ養成プラン」内部評価・外部評価シート

■ 英文誌・和文誌・国際学会・国内学会等での発表一覧

大学名	熊本大学
-----	------

○ 英文誌

	学生の所属コース名	内容 ※がんプロ学生の氏名には下線を引くこと
1	研修医・大学院一体型がん専門博士養成コース	Yamane T, Kanamori Y, Sawayama H, Yano H, Nita A, Ohta Y, Hinokuma H, Maeda A, Iwai A, <u>Matsumoto T</u> , Shimoda M, Niimura M, Usuki S, Yasuda-Yoshihara N, Niwa M, Baba Y, Ishimoto T, Komohara Y, Sawa T, Hirayama T, Baba H, Moroishi T. Iron accelerates Fusobacterium nucleatum-induced CCL8 expression in macrophages and is associated with colorectal cancer progression JCI Insight. 2022 Sep 22:e156802. doi: 10.1172/jci.insight.156802. Online ahead of print. PMID: 36136589
2	研修医・大学院一体型がん専門博士養成コース	Miyata T, <u>Matsumoto T</u> , Nakao Y, Higashi T, Imai K, Hayashi H, Nitta H, Chikamoto A, Beppu T, Yamashita YI, Baba H. Major postoperative complications are associated with early recurrence of hepatocellular carcinoma following hepatectomy Langenbecks Arch Surg. 2022 Sep;407(6):2373-2380. doi: 10.1007/s00423-022-02513-9. Epub 2022 Apr 20. PMID: 35441947
3	研修医・大学院一体型がん専門博士養成コース	Kitano Y, Hayashi H, <u>Matsumoto T</u> , Nakao Y, Kaida T, Mima K, Imai K, Yamashita YI, Baba H. The efficacy of anatomic resection for hepatocellular carcinoma within Milan criteria: A retrospective single-institution case-matched study Eur J Surg Oncol. 2022 Sep;48(9):2008-2013. doi: 10.1016/j.ejso.2022.05.004. Epub 2022 May 13. PMID: 35599139
4	研修医・大学院一体型がん専門博士養成コース	Mima K, Imai K, Kaida T, <u>Matsumoto T</u> , Nakagawa S, Sawayama H, Hayashi H, Yamashita YI, Baba H. Impairment of perioperative activities of daily living is associated with poor prognosis following hepatectomy for hepatocellular carcinoma J Surg Oncol. 2022 Jul 7. doi: 10.1002/jso.26996. Online ahead of print. PMID: 35796726
5	研修医・大学院一体型がん専門博士養成コース	Lan C, Yamashita YI, Hayashi H, Nakagawa S, Imai K, Mima K, Kaida T, <u>Matsumoto T</u> , Maruno M, Liu Z, Wu X, Wei F, Baba H. High Expression of Bloom Syndrome Helicase is a Key Factor for Poor Prognosis and Advanced Malignancy in Patients with Pancreatic Cancer: A Retrospective Study Ann Surg Oncol. 2022 Jun;29(6):3551-3564. doi: 10.1245/s10434-022-11500-9. Epub 2022 Apr 13. PMID: 35419757
6	研修医・大学院一体型がん専門博士養成コース	Yumoto S, Nakagawa S, Hayashi H, Ogawa D, Shiraishi Y, Sato H, <u>Matsumoto T</u> , Imai K, Yamashita YI, Baba H. Multimodal therapy with aggressive hepatectomy, everolimus, and octreotide for metastatic pancreatic neuroendocrine neoplasm enables 10-year survival Clin J Gastroenterol. 2022 Aug 29. doi: 10.1007/s12328-022-01689-3. Online ahead of print. PMID: 36038805
7	研修医・大学院一体型がん専門博士養成コース	Harada K, <u>Matsumoto C</u> , Baba H. C-Reactive Protein Levels After Esophagectomy are Associated with Increased Surgical Complications and Poor Prognosis in Esophageal Squamous Cell Carcinoma Patients. Ann Surg Oncol. 2022 Dec 29.
8	研修医・大学院一体型がん専門博士養成コース	Morinaga T, Iwatsuki M, Yamashita K, <u>Matsumoto C</u> , Baba H. Evaluation of HLA-E Expression Combined with Natural Killer Cell Status as a Prognostic Factor for Advanced Gastric Cancer. Ann Surg Oncol. 2022 Aug;29(8):4951-4960.
9	研修医・大学院一体型がん専門博士養成コース	Morinaga T, Iwatsuki M, Yamashita K, Yasuda-Yoshihara N, Yamane T, <u>Matsumoto C</u> , Baba H. Dynamic Alteration in HLA-E Expression and Soluble HLA-E via Interaction with Natural Killer Cells in Gastric Cancer. Ann Surg Oncol. 2023 Feb;30(2):1240-1252.

○ 和文誌

	学生の所属コース名	内容 ※がんプロ学生の氏名には下線を引くこと
1	研修医・大学院一体型がん専門博士養成コース	<u>C Matsumoto</u> , Clinicopathological feature of Gastric adenocarcinoma and proximal polyposis, 2nd International Congress of Asian Oncology Society (Seoul)2022.6.1

○ 国際学会

	学生の所属コース名	内容 ※がんプロ学生の氏名には下線を引くこと
1	研修医・大学院一体型がん専門博士養成コース	<u>Matsumoto T</u> The examination of usefulness for anatomic resection of hepatocellular carcinoma within Milan criteria 第67回国際外科学会 in Chiba
2	研修医・大学院一体型がん専門博士養成コース	<u>Matsumoto T</u> The prognostic role of serine racemase in patients with pancreatic cancer: a new marker in cancer metabolism The 2nd International Congress of Asian Oncology Society in Seoul

「新ニーズに対応する九州がんプロ養成プラン」内部評価・外部評価シート

○ 国内学会

	学生の所属コース名	内容 ※がんプロ学生の氏名には下線を引くこと
1	研修医・大学院一体型がん専門博士養成コース	<u>松本嵩史</u> 異時性重複癌として肝切除を施行した肝細胞癌症例における病理組織学的特徴と予後の検討 第122回日本外科学会学術集会
2	研修医・大学院一体型がん専門博士養成コース	<u>松本嵩史</u> 肝切除を施行した肝細胞癌患者に対するアスピリンの再発予防効果と再発後予後に与える影響に関する検討 第58回 日本肝癌研究会
3	研修医・大学院一体型がん専門博士養成コース	<u>松本嵩史</u> MSI-high大腸癌肝転移再発に対して2剤併用免疫チェックポイント阻害剤を使用後に再肝切除を施行し得た1例 第43回癌免疫外科研究会
4	研修医・大学院一体型がん専門博士養成コース	<u>松本嵩史</u> 外科的切除を施行した肝細胞癌における再発予防効果とアスピリン内服に関する検討 第58回日本肝臓学会総会
5	研修医・大学院一体型がん専門博士養成コース	<u>松本嵩史</u> Effect of preoperative β -blocker therapy on the perioperative outcomes in hepatocellular carcinoma that underwent initial hepatectomy 第34回日本肝胆膵外科学会
6	研修医・大学院一体型がん専門博士養成コース	<u>松本嵩史</u> MSI-high大腸癌肝転移切除後早期再発に対する2剤併用免疫チェックポイント阻害剤使用後再肝切除の経験 第26回日本肝がん分子標的治療研究会
7	研修医・大学院一体型がん専門博士養成コース	<u>松本嵩史</u> 他臓器癌の異時性重複肝細胞癌症例に関する予後との相関に関する検討 第31回日本癌治療病態研究会
8	研修医・大学院一体型がん専門博士養成コース	<u>松本嵩史</u> ミラノ基準内肝細胞癌患者の予後予測としての術前Naples Prognostic Scoreの有用性 第77回日本消化器外科学会総会
9	研修医・大学院一体型がん専門博士養成コース	<u>松本嵩史</u> 分娩後羊水塞栓による産科的DICが原因の心肺停止に対する心臓圧迫後に肝被膜下出血を認めた1例 第14回Acute Care Surgery学会
10	研修医・大学院一体型がん専門博士養成コース	<u>松本嵩史</u> Examination of the correlation between Cancer-associated fibroblast senescence and tumor-infiltrating lymphocytes and PD-L1 expressions in intrahepatic cholangiocarcinoma 第81回日本癌学会
11	研修医・大学院一体型がん専門博士養成コース	<u>松本嵩史</u> Examination of correlation with the expression of Bloom syndrome helicase as a prognostic factor in pancreatic cancer 第60回日本癌治療学会
12	研修医・大学院一体型がん専門博士養成コース	<u>松本嵩史</u> 肝細胞癌におけるアスピリン内服と外科的切除後の短期成績および長期予後に関する検討 第30回JDDW
13	研修医・大学院一体型がん専門博士養成コース	<u>松本嵩史</u> 進行肝細胞癌に対する分子標的治療薬使用後のconversion therapyの成績 第35回肝臓外科研究会
14	研修医・大学院一体型がん専門博士養成コース	<u>松本千尋</u> 遺伝性胃癌臨床検体を用いたNew generation sequencingによる分子生物学的発癌メカニズムの解明 JDDW2022（福岡） 2022年10月29日
15	研修医・大学院一体型がん専門博士養成コース	<u>松本千尋</u> Comprehensive genomic analysis for Gastric adenocarcinoma and proximal polyposis 第81回日本癌学会総会（横浜） 2022年9月30日
16	研修医・大学院一体型がん専門博士養成コース	<u>松本千尋</u> Stage IV食道胃接合部腺癌に対する集学的治療の検討 第122回日本外科学会定期学術集会（熊本） 2022年4月16日

○ その他(受賞等)

	学生の所属コース名	内容 ※がんプロ学生の氏名には下線を引くこと
1	研修医・大学院一体型がん専門博士養成コース	<u>松本嵩史</u> ：第60回日本癌治療学会 Young oncologist Award 2022年10月20日
2	研修医・大学院一体型がん専門博士養成コース	<u>松本嵩史</u> ：第30回JDDW 優秀演題賞 2022年10月27日
3	研修医・大学院一体型がん専門博士養成コース	<u>松本嵩史</u> ：第30回JDDW 若手奨励賞 2022年10月27日

「新ニーズに対応する九州がんプロ養成プラン」内部評価・外部評価シート

大学名	大分大学
コーディネーター	医学部呼吸器・乳腺外科学講座 教授 杉尾 賢二
事務担当者	医学・病院事務部学務課教務グループ 田城 典明

1. 概要

達成目標 ※前期から継続した目標（編集不可）

- 達成目標1：九州内の多様な新ニーズに対応するがん専門医療人を養成する。
- 達成目標2：ライフステージに応じたがん対策を推進する多職種人材養成を行う。
- 達成目標3：ゲノム医療や小児・希少がんに対する海外の先進事例を積極的に収集し発信することで本プランのみならず我が国におけるがん専門医療人の養成に寄与する。

達成目標に対する今年度の実績 ※達成目標1～3に触れながら記載。必要に応じて、図や写真等を追加することも可能。

【多様なニーズに貢献するがん看護専門看護師コース】

- ・ 修了生1名が本年度がん看護専門看護師の資格を取得した。（達成目標1）

【ゲノム医療研究者養成コース（博士課程）】

- ・ 本コースにおいて令和4年度に10名（医師9名，薬剤師1名）修了予定である。（達成目標1）

【ライフステージに応じたチーム医療人養成コース（インテンシブ）】 【ゲノム医療研究者養成コース（博士課程）】

- ・ 大分県下の医療職を対象とした教育セミナー「がんゲノム医療：肺癌の最新研究と治療」を3月に実施予定（現地開催＋Web配信）である。（達成目標2、3）

実績を踏まえた成果（学生教育の観点での成果について記載すること）

※適宜、学生のキャリア教育、キャリア形成の点にも触れながら記載すること。必要に応じて、図や写真等を追加することも可能。

【ゲノム医療研究者養成コース（博士課程）】

- ・ 本コースにおいて令和4年度に10名（医師9名，薬剤師1名）修了予定である。

【ライフステージに応じたチーム医療人養成コース（インテンシブ）】 【ゲノム医療研究者養成コース（博士課程）】

- ・ 博士課程においては、大学院セミナーや本がんプロが行ってきた講習会などにより、がんゲノム医療、COVID-19パンデミック下におけるがん診療への影響、研究のあり方や研究不正、などの知識を習得し、理解を深めた。
- ・ インテンシブ、博士課程いずれも患者支援に関する知識が得られた。
- ・ 事例検討により、新型コロナウイルスの感染予防や感染拡大による緩和ケアや終末期ケアへの影響を考察することで、コンサルテーション力や倫理調整力を高めている。

2. 各事業の取り組み状況

①教育コース（大学院コース、インテンシブコース） ※別表「数値実績一覧」も参照して記述

【多様なニーズに貢献するがん看護専門看護師コース（修士課程）】

- ・ がん看護について指導できる教員の採用が未だできていないため、令和3年度より引き続きコースの募集は中断している。

【ゲノム医療研究者養成コース（博士課程）】

- ・ ゲノム医療の基礎研究、臨床研究および橋渡し研究を理解し、新規治療開発を企画・推進することができる人材、ゲノム医療の臨床・研究におけるリーダーを育成するため、大学院セミナーにおいて教育活動を行った。一部の教育セミナーはCOVID-19パンデミックにより中止となった。

【ライフステージに応じたチーム医療人養成コース（インテンシブ）】

- ・ 令和4年度に、コース終了後の放射線医学講座独自の取り組みにより、放射線治療専門医2名を新規に養成できた。

②シンポジウム、セミナー、講習会等

※別表「数値実績一覧」も参照して記述。他大学のモデルとなるような内容があれば特に触れること。

【ゲノム医療研究者養成コース（博士課程）】

- ・ 博士課程の大学院セミナーにおいて、ゲノム医療の基礎研究、臨床研究および橋渡し研究の臓器別の現状を概説し、ゲノム医療の臨床・研究におけるリーダーを育成に努めた。また、研究のあり方や研究不正の意味を概説する時間を設けた。

令和4年度実践セミナー・大学院セミナー

5月25日「胃癌治療の最新トピックス」

6月13日「ゲノムとがんゲノム医療」

7月6日「肺癌の標的分子の解明と治療戦略」

7月11日「Patient derived tumor organoid as a preclinical cancer model」

8月24日「Gastric cancer and H. pylori infection」

8月23日「Lung cancer therapy based on genetic profiling on the tumor」

- ・ 令和5年3月11日「大分肺がんセミナー」開催予定

③地域や社会への情報発信の取り組み（ホームページ、SNS等の実績含む）※別表「数値実績一覧」も参照して記述

- ・ 大分県内の連携病院・医療施設向けに、「地域連携webセミナー」を定期的に開催し。その案内を病院ホームページ上で公開している。
- ・ 例年、がんプロ教育セミナーを計画し、そのチラシを、県内の病院・訪問看護ステーション・保健所・市役所・地域包括ケアセンター、等に配付していたが、コロナ禍のため、今年度は、実施していない。

④大学関連病院との連携（特に「がん診療連携拠点病院」「小児がん拠点病院」との連携に関して）

- ・ がん看護専門看護師教育課程での講義を、「がん診療連携拠点病院」に勤務する第1期・第2期のがんプロ修了生が担当している。
- ・ がん看護専門看護師教育課程での実習を「がん診療連携拠点病院」で行い、実習指導を第1期・第2期のがんプロ修了生が担当している。

⑤ ライフステージ領域における取り組み

- ・ 腫瘍センターを中心としてAYA世代の患者に対する「AYA世代がん対策チーム」を令和3年7月に結成した。勉強会などを企画し、がんプロ生に対しても理解を深める活動を行っている。
- ・ がん看護専門看護師に対する教育において、難治性のがん性疼痛へのスペシャリストによる治療としての神経ブロックに関連した痛みのアセスメントの視点、ブロックについての知識や技術、専門医との施設内、地域全体での連携について講義・実習を継続して行っている。

3. 自己評価

[選択肢] a:十分に目標を達成できている / b:目標を達成できている / c:あと少しで目標を達成できる / d:目標を達成できていない

b:目標を達成できている

理由・分析等

- ・ 令和2年当初からのCOVID-19パンデミックのため、学内の講義や学外でのセミナーはweb開催やオンデマンド配信となっていたが、令和4年度には、学内においては対面式の講義を原則的に行うようにした。学外においては、現地開催とweb配信により、ある程度の教育活動ができるようになった。
- ・ がん専門医療人の育成のうち、がん看護専門看護師の育成（資格取得）は達成できた。また、ゲノム医療研究者の育成（博士課程）に関して、大学院の4年次は予定通りに修了予定である。
- ・ がん関連の専門医については、放射線治療専門医を2名輩出することができた。

自己評価を踏まえた、来年度に向けての改善点等

ゲノム医療、がん薬物療法専門医、がん専門看護師の育成をさらに推進してゆく。そのための指導医などの人材を大分大学に求める努力を今後行ない、ゲノム医療研究者養成コース（博士課程）、がん看護専門看護師コース（修士課程）、ライフステージに応じたチーム医療人養成コース（インテンシブ）による人材育成に努める。

「新ニーズに対応する九州がんプロ養成プラン」内部評価・外部評価シート

■ 英文誌・和文誌・国際学会・国内学会等での発表一覧

大学名	大分大学
-----	------

○ 英文誌

学生の所属コース名	内容 ※がんプロ学生の氏名には下線を引くこと
1 ゲノム医療研究者養成コース（博士課程）	<u>Ozaka S.</u> , Kobayashi T, Murakami K. Comment on “A case of acute necrotising pancreatitis following the second dose of Pfizer-BioNTech COVID-19 mRNA vaccine”. Br J Clin Pharmacol. 2022 May;88(5):2449
2 ゲノム医療研究者養成コース（博士課程）	Ozaki T, Kamiyama N, Saechue B, Soga Y, Gotoh R, Nakayama T, Fukuda C, Dewayani A, Chalalal T, <u>Ariki S.</u> , <u>Ozaka S.</u> , Sonoda A, Hirose H, Gendo Y, Noguchi K, Sachi N, Hidano S, Maeshima K, Gotoh K, Masaki T, Ishii K, Osada Y, Shibata H, Kobayashi T. Comprehensive lipidomics of lupus-prone mice using LC-MS/MS identifies the reduction of palmitoylethanolamide that suppresses TLR9-mediated inflammation. Genes Cells. 2022 Jul;27(7):493-504.
3 ゲノム医療研究者養成コース（博士課程）	Dewayani A, Kamiyama N, Sachi N, <u>Ozaka S.</u> , Saechue B, <u>Ariki S.</u> , Goto M, Chalalal T, Soga Y, Fukuda C, Kagoshima Y, Maekawa Y, Kobayashi T. TRAF6 signaling pathway in T cells regulates anti-tumor immunity through the activation of tumor specific Th9 cells and CTLs. Biochem Biophys Res Commun. 2022 Jul 12;613:26-33.
4 ゲノム医療研究者養成コース（博士課程）	<u>Ozaka S.</u> , Sonoda A, <u>Ariki S.</u> , Minata M, Kamiyama N, Hidano S, Sachi N, Ito K, Kudo Y, Dewayani A, Chalalal T, Ozaki T, Soga Y, Fukuda C, <u>Mizukami K.</u> Ishizawa S, Nishiyama M, Fujitsuka N, Mogami S, Kubota K, Murakami K, Kobayashi T. Saireito, a Japanese herbal medicine, alleviates leaky gut associated with antibiotic-induced dysbiosis in mice. PLoS One. 2022 Jun 15;17(6):e0269698.
5 ゲノム医療研究者養成コース（博士課程）	<u>Ozaka S.</u> , Koder T, Tsutsumi K, Fukuda M, Iwao M, Hirashita Y, Takahashi H, Fukuda K, Okamoto K, Arakawa M, <u>Ogawa R.</u> Endo M, Mizukami K, Okimoto T, Kamiyama N, Kodama M, Kobayashi T, Murakami K. Acute Cholecystitis Associated with Eosinophilic Granulomatosis with Polyangiitis that Responded to Glucocorticoid Therapy. Intern Med. 2022 Sep 28.
6 ゲノム医療研究者養成コース（博士課程）	Hirashita Y, Fukuda M, Kodama M, Tsukamoto Y, Okimoto T, <u>Mizukami K.</u> Kawahara Y, Wada Y, <u>Ozaka S.</u> Togo K, <u>Kinoshita K.</u> Fuchino T, Fukuda K, Okamoto K, <u>Ogawa R.</u> <u>Matsunari O.</u> Honda K, Murakami K. Potential association of eEF1A dimethylation at lysine 55 in the basal area of Helicobacter pylori-eradicated gastric mucosa with the risk of gastric cancer: a retrospective observational study. BMC Gastroenterol. 2022 Nov 28;22(1):490.
7 ゲノム医療研究者養成コース（博士課程）	Sachi N, Kamiyama N, Saechue B, <u>Ozaka S.</u> Dewayani A, <u>Ariki S.</u> Chalalal T, Soga Y, Fukuda C, Kagoshima Y, Ekronarongchai S, Kobayashi T. CCL20/CCR6 chemokine signaling is not essential for pathogenesis in an experimental autoimmune encephalomyelitis mouse model of multiple sclerosis. Biochem Biophys Res Commun. 2022 Nov 30;641:123-131.
8 ゲノム医療研究者養成コース（博士課程）	<u>Ozaka S.</u> , Kobayashi T, Mizukami K, Murakami K. COVID-19 vaccination and liver disease. World J Gastroenterol 28(48):6791-6810. Published online Dec 28, 2022.
9 ゲノム医療研究者養成コース（博士課程）	Fukuda K, Kodama M, <u>Mizukami K.</u> Okamoto K, <u>Ogawa R.</u> Hirashita Y, Fukuda M, Togo K, <u>Matsunari O.</u> Okimoto T, Murakami K. Analysis of long-term serological and histological changes after eradication of Helicobacter pylori. J Clin Biochem Nutr. 2022 Sep;71(2):151-157. doi: 10.3164/jcbn.21-164. Epub 2022 Mar 31.
10 ゲノム医療研究者養成コース（博士課程）	<u>Takumi Y.</u> Arai S, Suzuki C, Fukuda K, Nishiyama A, Takeuchi S, Sato H, Matsumoto K, Sugio K, Yano S. MET kinase inhibitor reverses resistance to entrectinib induced by hepatocyte growth factor in tumors with NTRK1 or ROS1 rearrangements. Cancer Med. 2022 Nov 23. doi: 10.1002/cam4.5342. Online ahead of print.
11 ゲノム医療研究者養成コース（博士課程）	Suzuki C, Nishiyama A, Arai S, Tange S, Tajima A, Tanimoto A, Fukuda K, <u>Takumi Y.</u> Kotani H, Takeuchi S, Yanagimura N, Ohtsubo K, Yamamoto N, Omori K, Yano S. Inhibition of EGFR and MEK surmounts entrectinib resistance in a brain metastasis model of NTRK1-rearranged tumor cells. Cancer Sci. 2022 Jul;113(7):2323-2335. doi: 10.1111/cas.15354. Epub 2022 May 11. PMID: 35363931; PMCID: PMC9277414.
12 ゲノム医療研究者養成コース（博士課程）	Okamoto T, <u>Miyawaki M.</u> Toyokawa G, Karashima T, Abe M, <u>Takumi Y.</u> <u>Hashimoto I.</u> Osoegawa A, Tagawa T, Takeuchi H, Shimokawa M, Sugio K. Clinical significance of part-solid lung cancer in the eighth edition TNM staging system. Interact Cardiovasc Thorac Surg. 2022 Jan 18;34(2):219-226.
13 ゲノム医療研究者養成コース（博士課程）	Sakaguchi H, Tanimoto A, Sato S, Yanagimura N, Suzuki C, <u>Takumi Y.</u> Nishiyama A, Yamashita K, Takeuchi S, Ohtsubo K, Yano S. Mediastinal Malignant Melanoma Markedly Shrinking in Response to Nivolumab. Intern Med. 2022 Jan 1;61(1):75-79.
14 ゲノム医療研究者養成コース（博士課程）	<u>Sumimoto I.</u> Nakahara R, Suzuki Y, Tanaka R, Yoshida N, Ogata M, Itoh H. Development of a Sensitive and High-throughput Assay for Simultaneous Quantification of Five Tyrosine Kinase Inhibitors and Two Active Metabolites in Human Plasma Using Ultra-performance Liquid Chromatography Coupled to Tandem Mass Spectrometry. Ther Drug Monit. 44(3):419-429, 2022
15 ゲノム医療研究者養成コース（博士課程）	<u>Sumimoto I.</u> Tanaka R, Shiraiwa K, <u>Tatsuta R.</u> Itoh H. Exacerbation of cancer pain after administering immune checkpoint inhibitor in a patient taking opioids: A case report. J Clin Pharm Ther. 47, 552-555, 2022
16 ゲノム医療研究者養成コース（博士課程）	Tanigawa K, Kiriya M, Hayashi Y, Shinden Y, Kijima Y, Natsugoe S, <u>Sumimoto I.</u> Morimoto-Kamata R, Yui S, Hama K, Yokoyama K, Nakamura Y, Suzuki K, Nojiri H, Inoue K, Karasawa K. Cathepsin G-induced malignant progression of MCF-7 cells involves suppression of PAF signaling through induced expression of PAFH1B2. Biochim Biophys Acta Mol Cell Biol Lipids. Aug;1867(8):159164, 2022
17 ライフステージに応じたチーム医療人養成コース	Fukuda H, Sato H, Fujiyoshi Y, Abe H, Okada H, Shiota J, Sato C, Sakae H, Ominami M, Hata Y, <u>Ogawa R.</u> Nakamura J, Tatsuta T, Ikebuchi Y, Yokomichi H, Yamamoto H, Inoue H. Risks of refractory chest pain after peroral endoscopic myotomy in achalasia-related esophageal motility disorders: short-term results from a multicenter study in Japan, Gastrointest Endosc. 2022 Oct;96(4):620-629.
18 ライフステージに応じたチーム医療人養成コース	Hata Y, Sato H, Shimamura Y, Abe H, Shiwaku A, Shiota J, Sato C, Ominami M, Fukuda H, <u>Ogawa R.</u> Nakamura J, Tatsuta T, Ikebuchi Y, Yokomichi H, Ihara E, Inoue H. Impact of peroral endoscopic myotomy on high-resolution manometry findings and their association with the procedure's outcomes. Gastrointest Endosc. 2022 Oct 31:S0016-5107(22)02131-9.
19 ライフステージに応じたチーム医療人養成コース	Nakamura J, Sato H, Onimaru M, Abe H, Shiwaku H, Shiota J, Sato C, Sakae H, Ominami M, Hata Y, Fukuda H, <u>Ogawa R.</u> Tatsuta T, Ikebuchi Y, Yokomichi H, Takuto H, Inoue H. Efficacy of peroral endoscopic myotomy for esophageal motility disorders after gastric surgery: Japan Achalasia Multicenter Study. Dig Endosc. 2022 Nov;34(7):1394-1402.
20 ライフステージに応じたチーム医療人養成コース	Sato H, Fujiyoshi Y, Abe H, Shiwaku H, Shiota J, Sato C, Sakae H, Ominami M, Hata Y, Fukuda H, <u>Ogawa R.</u> Nakamura J, Tatsuta T, Ikebuchi Y, Yokomichi H, Terai S, Inoue H. Development of Dilated Esophagus, Sigmoid Esophagus, and Esophageal Diverticulum in Patients With Achalasia: Japan Achalasia Multicenter Study. J Neurogastroenterol Motil. 2022 Apr 30;28(2):222-230.

「新ニーズに対応する九州がんプロ養成プラン」内部評価・外部評価シート

○ 英文誌(つづき)

学生所属コース名	内容 ※がんプロ学生の氏名には下線を引くこと
21 ライフステージに応じたチーム医療人養成コース	Ominami M, Sato H, Fujiyoshi Y, Abe H, Shiwaku H, Shiota J, Sato C, Sakae H, Hata Y, Fukuda H, <u>Ogawa R</u> , Nakamura J, Tatsuta T, Ikebuchi Y, Yokomichi H, Fujiwara Y, Inoue H. Impact of the COVID-19 pandemic on high-resolution manometry and peroral endoscopic myotomy for esophageal motility disorder in Japan. <i>Dig Endosc.</i> 2022 May;34(4):769-777.
22 ライフステージに応じたチーム医療人養成コース	Abe H, Tanaka S, Sato H, Shimamura Y, Okada H, Shiota J, Sato C, Sakae H, Ominami M, Hata Y, Fukuda H, <u>Ogawa R</u> , Nakamura J, Tatsuta T, Ikebuchi Y, Yokomichi H, Inoue H. Risk scoring system for the preprocedural prediction of the clinical failure of peroral endoscopic myotomy: a multicenter case-control study. <i>Endoscopy.</i> 2022 Aug 24.
23 ライフステージに応じたチーム医療人養成コース	Tatsuta T, Sato H, Fujiyoshi Y, Abe H, Shiwaku A, Shiota J, Sato C, Ominami M, Hata Y, Fukuda H, <u>Ogawa R</u> , Nakamura J, Ikebuchi Y, Yokomichi H, Fukuda S, Inoue H. Subtype of Achalasia and Integrated Relaxation Pressure Measured Using the Starlet High-resolution Manometry System: A Multicenter Study in Japan. <i>J Neurogastroenterol Motil.</i> 2022 Oct 30;28(4):562-571.
24 ライフステージに応じたチーム医療人養成コース	Sato H, Nishikawa Y, Abe H, Shiwaku H, Shiota J, Sato C, Sakae H, Ominami M, Hata Y, Fukuda H, <u>Ogawa R</u> , Nakamura J, Tatsuta T, Ikebuchi Y, Yokomichi H, Terai S, Inoue H. Esophageal carcinoma in achalasia patients managed with endoscopic submucosal dissection and peroral endoscopic myotomy: Japan Achalasia Multicenter Study. <i>Dig Endosc.</i> 2022 Jul;34(5):965-973.
25 ライフステージに応じたチーム医療人養成コース	Ujiie N, Sato H, Fujiyoshi MRA, Tanaka S, Shiwaku H, Shiota J, <u>Ogawa R</u> , Yokomichi H, Kamei T, Inoue H. Geriatric patients with esophageal motility disorders benefit more from minimally invasive peroral endoscopic myotomy: a multicenter study in Japan. <i>Dis Esophagus.</i> 2022 Jun 15;35(6):doab086.
26 ライフステージに応じたチーム医療人養成コース	Shiwaku H, Sato H, Shimamura Y, Abe H, Shiota J, Sato C, Ominami M, Sakae H, Hata Y, Fukuda H, <u>Ogawa R</u> , Nakamura J, Tatsuta T, Ikebuchi Y, Yokomichi H, Hasegawa S, Inoue H. Risk factors and long-term course of gastroesophageal reflux disease after peroral endoscopic myotomy: A large-scale multicenter cohort study in Japan. <i>Endoscopy.</i> 2022 Sep;54(9):839-847.
27 ライフステージに応じたチーム医療人養成コース	<u>Kinoshita K</u> , Mizukami K, Fukuda K, Okamoto K, <u>Ogawa R</u> , Okimoto T, Kodama M, Murakami K. Pancreatic cancer with pseudoaneurysm after duckbill-shaped anti-reflux metal stent placement: A case report. <i>DEN Open.</i> 2022 Dec 20;3(1):e203.
28 ライフステージに応じたチーム医療人養成コース	Mizukami K, Kodama M, Fukuda M, Hirashita Y, Tsutsumi K, Fukuda K, <u>Ogawa R</u> , Okamoto K, Okimoto T, Murakami K. Comparison of the improvement in gastric mucosal tissue after <i>Helicobacter pylori</i> eradication between young and elderly people. <i>Arab J Gastroenterol.</i> 2023 Jan 29;S1687-1979(23)00007-2.

○ 和文誌

学生所属コース名	内容 ※がんプロ学生の氏名には下線を引くこと
1 ゲノム医療研究者養成コース（博士課程）	山村 亮太, 中原 良介, <u>龍田 涼佑</u> , 上野 希望, 田中 遼大, 北野 敬明, <u>松成 修</u> , 平松 和史, 伊東 弘樹 マニュアルの制定を契機としたカリウム補給注射剤の適正使用推進 日本病院薬剤師会雑誌(1341-8815)58巻4号 Page416-420(2022.04)
2 ゲノム医療研究者養成コース（博士課程）	衛藤大輝, 山村亮太, 中原良介, 白岩健, <u>龍田涼佑</u> , 田中遼大, 平野隆, 伊東弘樹, 血清Mg濃度のトラフおよびピーク値の測定が有用であったセツキシマブによる低Mg血症の1例 日病薬誌, 58(12), 1445-1449, 2022年12月

○ 国際学会

学生所属コース名	内容 ※がんプロ学生の氏名には下線を引くこと
1 ゲノム医療研究者養成コース（博士課程）	<u>Takumi Y</u> , Arai S, Suzuki C, Fukuda K, Nishiyama A, Takeuchi S, Sato H, Matsumoto K, Osoegawa A, Sugio K, Yano S. MET kinase inhibitor reverses resistance to entrectinib induced by hepatocyte growth factor in tumors with NTRK1 or ROS1 rearrangements. 12th AACR-JCA joint conference (Hawaii) 2022. 12.10-14

「新ニーズに対応する九州がんプロ養成プラン」内部評価・外部評価シート

○ 国内学会

学生所属コース名	内容 ※がんプロ学生の氏名には下線を引くこと
1 ゲノム医療研究者養成コース（博士課程）	小坂 聡太郎, 小寺 隆元, 有本 晋平, 堤 康志郎, 福田 昌英, 齋藤 衆子, 岩尾 正雄, 福田 健介, 平下 有香, 荒川 光江, 松成 修, 岡本 和久, 小川 童, 遠藤 美月, 水上一弘, 沖本 忠義, 兒玉 雅明, 小林 隆志, 村上 和成. COVID-19 mRNAワクチン接種後早期に発症した急性膵炎の1例. 第119回日本消化器病学会九州支部例会 2022年6月25日
2 ゲノム医療研究者養成コース（博士課程）	小坂 聡太郎, 有本 晋平, 水上一弘, 神山 長慶, 福田 健介, 岡本 和久, 小川 童, 沖本 忠義, 小林 隆志, 村上 和成. Dysbiosisに起因するLeaky gutモデルに対する柴苓湯の有効性. 第30回日本消化器関連学会週間 (JDDW 2022) 2022年10月28日
3 ゲノム医療研究者養成コース（博士課程）	Ozaka S, Arika S, Kamiyama N, Kagoshima Y, Sachi N, Chalalai T, Soga Y, Mizukami K, Murakami K, Kobayashi T. Secretory leukocyte protease inhibitor ameliorates experimental colitis by protecting the intestinal epithelial barrier. 第12回 癌・炎症と抗酸化研究会 2022年11月19日
4 ゲノム医療研究者養成コース（博士課程）	Ozaka S, Arika S, Kamiyama N, Kagoshima Y, Sachi N, Chalalai T, Mizukami K, Murakami K, Takeda K, Kobayashi T. Secretory leukocyte protease inhibitor ameliorates murine experimental colitis by protecting the intestinal epithelial barrier. 第51回日本免疫学会学術集会
5 ゲノム医療研究者養成コース（博士課程）	炭本隆宏, 田中遼大, 龍田遠佑, 伊東弘樹, ニボルマブ投与後にオピオイド製剤による疼痛コントロールが不良となった1症例. 第15回日本緩和医療学会年會(熊本)2022年5月
6 ゲノム医療研究者養成コース（博士課程）	海士野恵理乃, 中原良介, 田中遼大, 龍田遠佑, 伊東弘樹, 婦人科癌に対する化学放射線療法における五苓散の効果の検討. 第24回日本医薬品情報学会総会・学術大会 (WEB) 2022年7月
7 ゲノム医療研究者養成コース（博士課程）	安部博宣, 白岩健, 田中遼大, 龍田遠佑, 伊東弘樹, EGFR-TKI開始前の肝予備能と副作用発現の関連. 第32回日本医療学会年會(群馬) 2022年9月
8 ゲノム医療研究者養成コース（博士課程）	大塚恵理子, 龍田遠佑, 橋本崇史, 小副川敦, 田中遼大, 杉尾賢二, 伊東弘樹, 非小細胞肺癌患者に対するシスプラチン投与におけるショートハイドレーション法の有用性および安全性の検証. 第16回日本腎臓病薬物療法学会学術集会・総会2022(長崎)2022年10月
9 ライフステージに応じたチーム医療人養成コース	大野夏稀, 寺町芳子, 畑中明子, 佐藤千鶴, 井川梨恵, 末弘理恵, 奥田健太郎, 上田貴威, 田中遼大, 伊東弘樹 術後疼痛の症状マネジメントの実際ー術後疼痛のアセスメントと鎮痛の実際ー, 第47回日本外科系連合学会学術集会(岩手 2022年6月17日)
10 ライフステージに応じたチーム医療人養成コース	寺町芳子, 奥田健太郎, 上田貴威, 田中遼大, 伊東弘樹, 畑中明子, 井川梨恵, 佐藤千鶴, 大野夏稀, 末弘理恵, 術後疼痛の評価指標と鎮痛アルゴリズム試案の作成. 第47回日本外科系連合学会学術集会(岩手 2022年6月17日)
11 ライフステージに応じたチーム医療人養成コース	佐藤千鶴, 寺町芳子, 畑中明子, 井川梨恵, 大野夏稀, 末弘理恵, 奥田健太郎, 上田貴威, 田中遼大, 伊東弘樹 術後疼痛の症状マネジメントの実際ー術後疼痛の鎮痛に関する評価と課題ー, 第47回日本外科系連合学会学術集会(岩手 2022年6月17日)
12 ライフステージに応じたチーム医療人養成コース	大野夏稀, 寺町芳子, 畑中明子, 佐藤千鶴, 井川梨恵, 末弘理恵, 奥田健太郎, 上田貴威, 田中遼大, 伊東弘樹 術後疼痛の症状マネジメントの実際ー術後疼痛の鎮痛に関する認識ー, 第47回日本外科系連合学会学術集会(岩手 2022年6月17日)
13 ライフステージに応じたチーム医療人養成コース	村田美雪, 矢幡彌奈, 大野夏稀 A病院外来化学療法室で治療中のがん患者が抱えている苦痛の内容～苦痛のスクリーニングシートを活用して～ 第46回日本死の臨床研究会年次大会 (Web 2022年11月26・27日)
14 ライフステージに応じたチーム医療人養成コース	江藤千晴, 森万純, 大野夏稀 大学教員との共同企画の研修会をとおして臨床指導者に生じた意識や態度の変化, 日本看護研究学会第48回学術集会(愛媛) 2022年8月27日
15 ライフステージに応じたチーム医療人養成コース	小川 童, 水上一弘, 堤康志郎, 首藤充孝, 福田健介, 岡本和久, 沖本忠義, 兒玉雅明, 村上和成 シグモイド型食道アカラシアに対するPOEMの有効性の検討～症状改善のみならず食道が直線化する～ 第104回日本消化器内視鏡学会総会(福岡) 2022年10月29日

○ その他(受賞等)

学生所属コース名	内容 ※がんプロ学生の氏名には下線を引くこと
1 ゲノム医療研究者養成コース（博士課程）	内匠陽平: 教育研究成果発表会 新ニーズに対応する九州がんプロ養成プラン研究奨励賞 2022年12月16日

「新ニーズに対応する九州がんプロ養成プラン」内部評価・外部評価シート

大学名	宮崎大学
コーディネーター	医学部附属病院 臨床腫瘍科・がんセンター 教授 細川 歩
事務担当者	医学部医療人育成課大学院係 係長 野村 あゆみ

1. 概要

達成目標 ※前期から継続した目標（編集不可）

- 達成目標1：九州内の多様な新ニーズに対応するがん専門医療人を養成する。
- 達成目標2：ライフステージに応じたがん対策を推進する多職種人材養成を行う。
- 達成目標3：ゲノム医療や小児・希少がんに対する海外の先進事例を積極的に収集し発信することで本プランのみならず我が国におけるがん専門医療人の養成に寄与する。

達成目標に対する今年度の実績 ※達成目標1～3に触れながら記載。必要に応じて、図や写真等を追加することも可能。

ライフステージに応じた地域がん総合治療医育成コース（インテンシブ）において、宮崎大学がんセミナーを開催した。総論（がん薬物療法、放射線療法、がん病理学など）から各論（肺がん、乳がん、胃がん、大腸がなどの代表的な腫瘍及び小児がん、皮膚がんなどの希少がん）まで、13回（26コマ）の講演会を開催した。多様な新ニーズに対応する専門医療人の養成（達成目標1）やライフステージに応じたがん対策を推進する多職種の人材育成（達成目標2）を目的とし、医師、薬剤師、看護師、放射線技師など延べ162名の多職種の医療人が参加した。

また、成人T細胞白血病専門医療人養成コース（インテンシブ）において、ATLの症例提示及びHTLV-I関連疾患に関する基礎研究についてのカンファレンス（HTLV-Iカンファレンス）について（達成目標3）、新型コロナウイルスの影響により中止となった。

【がん看護】

本学がん看護専門看護師養成コースは、令和3年1月25日付けで38単位の専門看護師教育課程として認定された。宮崎大学の「がんと共に生きることを支えるがん看護専門看護師養成コース」の特色を生かした内容でカリキュラムを組んでおり、積極的に広報活動を行っているところであるが、新型コロナウイルスの影響により実習施設の確保が困難であり、学生からも延期の希望があったため、令和4年度は学生の受け入れは行わなかった。令和5年度から学生1名の受入を予定している。（達成目標1）

また、ライフステージに応じたがん対策を推進する多職種人材養成を行う（達成目標2）ことが求められており、令和4年9月10日には、「小中高生へのがん教育～活動を通しての課題と今後の展望～」という演題で、田中圭先生（長崎医療センター 医療相談支援センター係長 がん看護専門看護師）に講演いただいた。新型コロナウイルスの影響により、Zoomでの開催となったが、看護師、介護士など、多職種の医療人等32名の参加があった。さらに、宮崎県は国内でも高齢化率の高い地域であり、高齢がん患者の意思決定への支援は重要であり、高齢者機能評価や高齢者特有のQOL評価に関する研究を推進している。さらに、宮崎大学の「がんと共に生きることを支えるがん看護専門看護師養成コース」の特色に挙げられている「がん看護研究の推進を図る」ことを目標に、適宜がん看護研究の相談にも応じて学会発表などを行っている。

今後、ゲノム医療や小児・希少がんに対する情報を積極的に収集する（達成目標3）ために、看護学生、大学院生、看護師など日本がん看護学会への参加を促し多職種連携などの視点から看護師の役割を再考することで学びを深化させる予定である。

なお、本看護学研究科では、ゲノム医療や小児・希少がんをテーマとしている教員も複数おり、定期的な講演会なども共有できている。

実績を踏まえた成果（学生教育の観点での成果について記載すること）

※適宜、学生のキャリア教育、キャリア形成の点にも触れながら記載すること。必要に応じて、図や写真等を追加することも可能。

ライフステージに応じた地域がん総合治療医育成コース（インテンシブ）において、宮崎大学がんセミナーを開催した。論（がん薬物療法、放射線療法、がんの病理学など）から各論（肺がん、乳がん、胃がん、大腸がなどの代表的な腫瘍及び小児がん、皮膚がんなどの希少がん）まで、13回（26コマ）の講演会を開催した。がん診療の基本と現在の標準的治療について各領域の第一線で活躍している医師等を講師とするガイドラインや最新のエビデンスに基づいた内容のセミナーであり、医師、薬剤師、看護師、放射線技師など延べ162名の多職種の医療人が参加した。講義の内容について、アンケートの結果が得られた141名の回答では、非常に良かった：88名（62%）、良かった：52名（37%）と良い評価が99%を占め、総じて好評であったと考える。

成人T細胞白血病専門医療人養成コース（インテンシブ）において、ATLの症例提示及びHTLV-I関連疾患に関する基礎研究についてのカンファレンス（HTLV-Iカンファレンス）は、新型コロナウイルスの影響により中止となった。

【がん看護】

宮崎大学の「がんと共に生きることを支えるがん看護専門看護師養成コース」の特色を生かした内容を再検討し、特に、教育の特色に挙げている「医療資源の乏しい地域のがん医療への取り組みを学ぶ」という点では、宮崎県の医療事情を踏まえて目標が達成できる実習場所の新規開拓及びカリキュラムの再編成を行い、令和3年1月25日付けで38単位の専門看護師教育課程として認定された。

また、宮崎大学の「がんと共に生きることを支えるがん看護専門看護師養成コース」の教育の特色に挙げている「がん看護研究の推進を図る」ために、講演会「小中高生へのがん教育～活動を通しての課題と今後の展望～」をZoomにより開催し、32名の参加があった。令和5年度に受け入れる当大学院コースの学生は「がん教育」をテーマに看護研究を進める予定である。

また、宮崎県の高齢化は進んでおり、がん患者の高齢者機能評価や高齢者特有のQOL評価に関する研究を推進している。本コース修了生も看護研究でもこれらを調査しており、学会発表を行った。

がんゲノム医療の推進や小児・希少がんの対象者へのケアにあたり、看護職へのゲノム医療や小児・希少がんに関する知識・実践力の向上が急務である。本看護学研究科では、ゲノム医療や小児・希少がんをテーマとしている教員もおり、定期的な講演会なども共有できている。今後も、看護学生、大学院生やがん医療に携わる一般看護職への教育基盤の構築につなげるための学会参加を進めていく予定である。

2. 各事業の取り組み状況

①教育コース（大学院コース、インテンシブコース）※別表「数値実績一覧」も参照して記述

令和4年度において大学院コースの受け入れはなかったが、インテンシブコースの受講者からがん治療の専門医を目指す医師がみられる。今後もがん治療専門医の育成を推進していく予定である。

がん看護専門看護師養成コースは、令和3年1月25日付けで38単位の専門看護師教育課程として認定を受けた。令和4年度に学生の受け入れはなかったが、令和5年度から受け入れ予定である。

②シンポジウム、セミナー、講習会等

※別表「数値実績一覧」も参照して記述。他大学のモデルとなるような内容があれば特に触れること。

宮崎大学がんセミナー：総論（がん薬物療法、放射線療法、がん病理学など）から各論（肺がん、乳がん、胃がん、大腸がんなどの代表的な腫瘍及び小児がん、皮膚がんなどの希少がん）まで、13回（26コマ）の講演会を開催し、延べ162名の多職種医療人（医師、薬剤師、看護師、学生、放射線技師など）が参加した。がん診療の基本と現在の標準的治療について各領域の第一線で活躍している医師等を講師とするガイドラインや最新のエビデンスに基づいた内容のセミナーであり、がん診療の総論から各論について最新の知識を得るとともに理解を深めることができたと思う。

【がん看護】

講演会「小中高生へのがん教育～活動を通しての課題と今後の展望～」(講師：田中圭氏 長崎医療センター 医療相談支援センター係長 がん看護専門看護師)：Zoomにより32名が参加（看護師、教員、事務、学生、他）。

新型コロナウイルス感染症の影響でzoomでの講演会となったが、宮崎県は地形上移動時間が多くかかるため、オンライン講演会だと遠方から参加しやすくなる利点がある。講演会の開催によりがんプロの存在の周知の機会にも繋がり、ジェネラリストの教育のみならず、地域のがん看護専門看護師や多職種間の情報共有、自己研鑽に努め、地域がん医療の充実・向上に繋がる機会となった。

③地域や社会への情報発信の取り組み（ホームページ、SNS等の実績含む）※別表「数値実績一覧」も参照して記述

がん看護専門看護師養成を機に設立した「がん看護研究会」のホームページ上で、がんプロ講演会の案内を掲載した。また、本学医学部ポータルサイトへの研修案内を掲示し学部学生をはじめ大学病院スタッフへも参加を呼び掛けた。

④大学関連病院との連携（特に「がん診療連携拠点病院」「小児がん拠点病院」との連携に関して）

今年度は、学生が不在であるため学生が直接大学関連病院と関わることはなかったが、附属病院で開催される緩和ケア症例検討会ならびに附属病院遺伝カウンセリング部主催の症例検討会にがんプロ担当教員が継続して参加することにより、教員のFDを図るとともに、学生受入時にこれらの検討会に参加できるよう体制を整えている。

⑤ライフステージ領域における取り組み

令和4年度講演会として、「小中高生へのがん教育～活動を通しての課題と今後の展望～」を開催した。参加者について、看護師、介護士、行政職員、看護学生等、多様な医療・福祉関連職種の方の参加があり、がん教育の活動を通しての課題を共有する機会となり、多職種人材養成に繋がることが期待される。令和5年度に受け入れる当大学院コースの学生は「がん教育」をテーマに看護研究を進める予定である。

宮崎県では、特に高齢化に伴い、高齢がん患者の意思決定支援策の検討が求められている。当大学院コースでは、高齢者機能評価の活用に関する研究も推進している。また、がん看護専門看護師養成コース担当教員が翻訳したEORTC高齢者用QOL尺度を活用したデータ分析は、ライフステージ（高齢者）と踏まえたQOL研究を社会貢献につなげることが期待される。

3. 自己評価

[選択肢] a:十分に目標を達成できている / b:目標を達成できている / c:あと少しで目標を達成できる / d:目標を達成できていない

c:あと少しで目標を達成できる

理由・分析等

ライフステージに応じた全人的統合的がん治療専門医育成コース(大学院コース)の受け入れはなかったが、ライフステージに応じた地域がん総合治療医育成コース(インテンシブコース)の受講者の中からがん治療の専門医を目指す医師がみられた。

宮崎大学がんセミナーでは、多職種の医療人(医師、薬剤師、看護師、放射線技師など)が参加し、がん診療の総論から各論について理解を深めることができた。

がん看護専門看護師養成コースは、令和3年1月25日付けで38単位の専門看護師教育課程として認定を受け、積極的な広報活動を行っている。令和4年度に学生の受け入れはなかったが、令和5年度に1名を受入予定である。加えて、新型コロナウイルスの影響下においてもオンラインによる講演会を行い、多職種の方に参加いただくことで、地域で直に患者と接する方々の知識・意欲の向上を図ることができ、がんプロの存在の周知の機会にも繋がった。今後も講演会を継続して実施していくことで、大学院生の確保にも繋がると考える。

自己評価を踏まえた、来年度に向けての改善点等

インテンシブコースで行った宮崎大学がんセミナーでは、多職種の医療従事者が参加し、アンケート結果より良好な評価が得られたことから、がん診療の教育に有意義であると考えられ今後も継続していきたいと考えている。大学院コースでのがん治療専門医の育成が不十分であったが、インテンシブコースの受講者の中からがん治療の専門医を目指す医師がみられており、今後も地域でのがん診療の充実のためにがん治療専門医の育成を推進していく予定である。

また、国内でも高齢化率の高い宮崎県において、がんと共に生きる高齢者が住み慣れた地域で自分らしい暮らしを人生の最期まで続けることができるよう、“老年期”というライフステージに焦点をあてた多職種人材養成が必要であり、今年度に引き続き、高齢者に焦点をあて、多職種を対象とした講演会の企画運営を行う。

がん看護専門看護師養成コースは38単位の専門看護師教育課程として認定されており、大学院生確保のための活動を継続している。令和5年度から学生1名を受入を予定している。今後は、新型コロナ感染症の影響も低減されると考えられるため、計画をさらに発展的に推進していく必要がある。

「新ニーズに対応する九州がんプロ養成プラン」内部評価・外部評価シート

■ 英文誌・和文誌・国際学会・国内学会等での発表一覧

大学名	宮崎大学
-----	------

○ 英文誌

	学生の所属コース名	内容 ※がんプロ学生の氏名には下線を引くこと
1	ライフステージに応じた地域がん総合治療医育成コース	Extracellular Volume Fraction Calculated Using Contrast-Enhanced Computed Tomography as a Biomarker ofOxaliplatin-Induced Sinusoidal Obstruction Syndrome: A Preliminary Histopathological Analysis. <u>Kai K.</u> , Hamada T, Sato Y, Hiyoshi M, Imamura N, Yano K, Ikeda T, Ichihara A, Ogata S, Chojjookhuu N, Hishikawa Y, Hosokawa A, Nanashima A. J Oncol. 2023 Feb 14;2023:1440257. doi: 10.1155/2023/1440257. eCollection 2023. PMID: 36824665

○ 国際学会

	学生の所属コース名	内容 ※がんプロ学生の氏名には下線を引くこと
1	がんと共に生きることを支えるがん看護専門看護師養成コース	Kanaoka M, <u>Kawasaki M.</u> , <u>Niisaka T.</u> , Nozue A, Kodama M, Uchida R, Takeyama Y, Yanagita T, Kinoshita Y, Gender differences in cancer-related worry among adult patients undergoing chemotherapy: A cross-sectional survey in Miyazaki, Japan, The 25th East Asia Forum of Nursing Scholars (EAFONS) Conference 2022(Taiwan& Web)2022. 4. 21

○ 国内学会

	学生の所属コース名	内容 ※がんプロ学生の氏名には下線を引くこと
1	がんと共に生きることを支えるがん看護専門看護師養成コース	川崎麻美, 新坂ともみ, 高橋裕子, 野末明希, 児玉みゆき, 内田倫子, 竹山ゆみ子, 金岡麻希, 柳田俊彦, 木下由美子, 看護師によるがん薬物療法中患者の心配把握状況 患者の就業状況別の分析, 第48回日本看護研究学会(松山) 2022年8月27日
2	がんと共に生きることを支えるがん看護専門看護師養成コース	児玉みゆき, <u>新坂ともみ.</u> , 野末明希, 内田倫子, 竹山ゆみ子, 金岡麻希, 木下由美子, 薬物療法を受けるがん患者のレジリエンスへの影響要因分析 65歳以上と65歳未満の比較, 第48回日本看護研究学会(松山) 2022年8月27日

「新ニーズに対応する九州がんプロ養成プラン」内部評価・外部評価シート

大学名	鹿児島大学
コーディネーター	鹿児島大学病院 腫瘍センター 特例教授 上野 真一
事務担当者	医歯学総合研究科等事務部学務課医歯学大学院係 係長 原口 澄人

1. 概要

達成目標 ※前期から継続した目標（編集不可）

- 達成目標1：九州内の多様な新ニーズに対応するがん専門医療人を養成する。
- 達成目標2：ライフステージに応じたがん対策を推進する多職種人材養成を行う。
- 達成目標3：ゲノム医療や小児・希少がんに対する海外の先進事例を積極的に収集し発信することで本プランのみならず我が国におけるがん専門医療人の養成に寄与する。

達成目標に対する今年度の実績 ※達成目標1～3に触れながら記載。必要に応じて、図や写真等を追加することも可能。

達成目標1：R4年度は、先端的がん医療コース大学院生4名（医師2名、看護師1名、検査技師1名）と包括的がん医療コース3名（医師2名、看護師1名）を確保した。先端的がん医療コースでは、分子生物学的成果に基づいた個別医療の基礎ならびに臨床応用の学習を図った。手術・放射線療法・薬物療法（殺細胞生抗がん薬、分子標的治療薬、免疫チェックポイント阻害薬、合成致死に関与するPARP阻害薬）について、集学的がん医療を実践するための学習を行った。

達成目標2：包括的がん医療コースでは、下記実習に加えて、遺伝カウンセリングとそれに伴う本人とご家族へのがんサーベイランス、緩和ケアの学習を図った。当センターは毎週1回、化学療法カンファレンス、がんゲノム医療エキスパートパネルを、毎月1回病院規模のキャンサーボードを主催している。これらのカンファレンスには、包括的がん医療コース受講生に加え、病理医、若手医師、看護師、薬剤師が参加し、多職種人材養成に寄与した。がん遺伝子パネル検査結果から患者の社会的背景までを含んだ検討が行われている。AYA世代では、遺伝性がん症候群を念頭におくことは、重要である。遺伝性乳がん卵巣がん症候群とLynch症候群は、頻度から考えても、common disease である。がんゲノム医療時代では、分子標的治療薬の重要性はもちろんであるが、遺伝カウンセリングとサーベイランスの重要性はますます大きくなる。また、がん患者の7割以上が65歳以降で罹患しており、看取り場所として、在宅における死亡割合が増加する傾向である。主治医、緩和ケア医、内科専門医、外科専門医、小児専門医、産婦人科専門医、薬物療法専門医、薬剤師、看護師、医療ソーシャルワーカーが参加し、ライフステージに応じたがん対策を検討している。がんゲノム医療・遺伝カウンセリングに必須である「臨床遺伝専門医」は、来年度に取得予定者がいる。

達成目標3：鹿児島大学病院は、令和元年度にがんゲノム医療拠点病院に指定された。当センターでは、令和4年1月から令和4年12月の1年間に約190例のがん遺伝子パネル検査を施行した。約半数は原発不明がん・希少がん症例であった。これらの症例は、当センターの主催する、がんゲノム医療エキスパートパネル、化学療法カンファレンス、病院規模のキャンサーボードを通して教員と大学院生の情報共有を図った。解析した遺伝子異常に対する生物学的意義付け、ライフステージを考慮した治療薬、日本国内での治験実施状況について定期的に情報収集を行い、遺伝子異常に対応する候補薬を可能な限り探索した。また、生殖細胞系列遺伝子異常を有する症例には、遺伝カウンセリングを施行した。家族の胚細胞変異解析、更に各臓器のがんサーベイランスへの橋渡しに尽力した。当院では、月1回がんに特化した遺伝カウンセリング外来を、国際医療福祉大学の西垣昌和教授にお願いしている。がん遺伝子パネル検査から、遺伝カウンセリング、がんサーベイランスへと、円滑な診療が可能になるよう整備している。

実績を踏まえた成果（学生教育の観点での成果について記載すること）

※適宜、学生のキャリア教育、キャリア形成の点にも触れながら記載すること。必要に応じて、図や写真等を追加することも可能。

がんゲノム医療拠点病院である当院では、当センター主催で、週1回のがんゲノム医療エキスパートパネルを開催し、包括的がん医療コース受講生を参加させた。がんゲノム医療エキスパートパネルは、主治医、内科専門医、外科専門医、小児専門医、がん薬物療法専門医、臨床遺伝専門医、認定遺伝カウンセラー、病理専門医、バイオインフォマティクス、分子生物学の専門家、薬剤師、看護師と多職種で構成している。古い情報を元に誤った意義付けを行うリスクを避けるため、外部のバイオインフォマティクス解析機関とも連携し、定期的に知識ベースの情報が更新されている。大学院生に対するがん遺伝子パネル検査を利用したDruggable遺伝子異常の考え方、遺伝子プロファイルに基づく推奨治療の決定について教育を施した。加えて週1回の化学療法カンファレンスの中で、大学院生に対するさまざまな面からのキャリア教育（集学的治療、がん薬物療法の実際と問題点、緩和ケアの知識など）が行われた。さらに月1回の病院規模のCancer Boardを開催し、診療科横断的な総合的判断に基づく推奨治療の決定について教育を施した。

インテンシブコースでは、全4日間のがんゲノム講習会を開催し、がんゲノムのための病理検体取り扱い方法、DNA抽出とLibrary作成と実技講習、NGS取扱いと解析方法レクチャー、結果の解釈とエキスパートパネル、ゲノム医療と小児・希少がんについて教育を施してきた。

2. 各事業の取り組み状況

①教育コース（大学院コース、インテンシブコース）※別表「数値実績一覧」も参照して記述

（大学院コース）
「先端的がん医療コース」「包括的地域がん医療コース」
必要な単位修得とともに、2つのコースで必要なカンファレンス参加（エキスパートパネル、化学療法カンファレンス、Cancer Board）と病院実習に参加した。

「放射線看護専門コース」
令和4年度の入学生は0名であったが、9月18日の第11回日本放射線看護学会学術集会（Zoom開催）の交流集会「放射線診療における困難事例に関する検討会」に参加し、がん放射線療法認定看護師やがん看護専門看護師と交流することで、がん放射線療法における患者の症状マネージメントへの介入の方法を確認し、意見交換を行った。いずれのスペシャリストからも専門性を活かした助言ももらうことができ、学生は学びを深めていた。
令和4年2月に日本看護協会から看護の専門分野と特定された放射線看護専門看護師が令和4年12月に誕生した。そのため、令和5年度には、1名が放射線看護専門看護師を目指して、入学してくる。これまでの十数年の教育活動が実り、また、このプロジェクトの支援が得られたことから成果につながった。

（インテンシブコース）全4日間の講習会 がんゲノム講習会を開催。
1日目 がんゲノムのための病理検体取り扱い方法とは 2日目 DNA抽出とLibrary作成、実技講習
3日目 NGS取扱いと結果の解釈 4日目 ゲノム医療と小児・希少がん

②シンポジウム、セミナー、講習会等

※別表「数値実績一覧」も参照して記述。他大学のモデルとなるような内容があれば特に触れること。

鹿児島県における、がんゲノム治療のためのエキスパートカンファレンスを、全地域拠点病院・県指定病院（鹿児島大学病院・鹿児島市立病院・鹿児島厚生連病院・南風病院・霧島医師会医療センター）医師・メディカルスタッフ参加で開催した。
報告すべき推定される胚細胞変異を有する、2次的所見開示希望のある胆嚢癌患者のグループディスカッションを行った。大阪大学医学部附属病院、がん研究会有明病院、慶應義塾大学病院、東京大学病院から、がんゲノム治療のエキスパートに、facilitatorとしてご参加いただいた。

症例 Discussion 1【胆のう癌治療】《患者さんの背景・希望》

- 九州のマンションで、夫（60代）と長男（30代）と3人暮らしである。
- 長女（40代）が、東京で家庭を持っている。4歳の孫（女）が1人。毎年夏に里帰りするのを楽しみにしている。コロナ感染拡大で、1年間は帰っていない。
- 現在、がん治療による倦怠感が残っているが、臓器機能などは問題ない。
- がん遺伝子パネル検査について、メディアより情報を得た。まだ治療法があるかもしれないと、希望を持っている。
- 健康には、気を遣っていた。がんの原因を知りたいと思っている。
- 兄弟、従兄等の親族は疎遠である。

（インテンシブ がん専門薬剤師養成コース）
鹿児島県病院薬剤師会と共催して、病院薬剤師だけでなく保険薬局薬剤師にも参加を呼びかけ、がん患者のACP（人生会議）に関して理解を深める研修会（3/1）を開催する予定である。
また宮崎県病院薬剤師会と共催して、地区研修会（3/17）を開催し、大学病院指導者ならびに外部講師が受講者の施設を訪問し、がん化学療法に係る施設の管理・運用状況を確認し、意見交換を行う予定である。

<p>③地域や社会への情報発信の取り組み（ホームページ、SNS等の実績含む）※別表「数値実績一覧」も参照して記述</p> <p>2022年10月22日 市民公開講座 「よくわかる！ 乳癌治療」を開催した。YouTube発信も行い、新型コロナウイルス感染拡大の状況ではあったが、200名を超える参加者となった。</p>
<p>④大学関連病院との連携（特に「がん診療連携拠点病院」「小児がん拠点病院」との連携に関して）</p> <p>鹿児島県ではがん診療の均てん化、向上に資する取り組みとして全地域拠点病院・県指定病院、合計23病院を集めての4部門会（がん診療企画部門・がん登録部門・がん相談連携部門・がん緩和部門）合同研修会を年2回行っている。本年度は、7/22と1/28に開催した。</p>
<p>⑤ライフステージ領域における取り組み</p> <p>鹿児島大学病院産婦人科を中心に、県内全域の医療機関が病院間の垣根を越えて連携する「鹿児島県がん・生殖医療ネットワーク」が令和元年5月に立ち上がり、当センターも参加・協力している。妊よう性の温存に関する情報共有等が行われ、AYA世代のがん患者さんに、希望を持ってがん治療に取り組んでいただくことができるよう、当センターが協力して行っている。</p>

3. 自己評価

<p>[選択肢] a:十分に目標を達成できている / b:目標を達成できている / c:あと少しで目標を達成できる / d:目標を達成できていない</p>
<p>c:あと少しで目標を達成できる</p>
<p>理由・分析等</p> <p>新型コロナウイルス感染拡大下ではあったが、がんゲノム医療を中心に据え、医師以外の職種でも育成が進んでいる。「ライフステージに応じたがん対策を推進する多職種人材養成」「小児・希少がんに対するがん専門医療人の養成」に、貢献できている。「薬物療法専門医」資格の目標が達成困難であったが、がんゲノム医療に必須である「臨床遺伝専門医」は来年度に取得予定者がいる。</p>
<p>自己評価を踏まえた、来年度に向けての改善点等</p> <p>学生の「専門医資格」取得を、より強力にサポートしていく。</p>

「新ニーズに対応する九州がんプロ養成プラン」内部評価・外部評価シート

■ 英文誌・和文誌・国際学会・国内学会等での発表一覧

大学名	鹿児島大学
-----	-------

○ 英文誌

	学生の所属コース名	内容 ※がんプロ学生の氏名には下線を引くこと
1	がんプロ3期 がんゲノム医療コース	<u>Kawahira M.</u> , Kanmura S, Mizuno K, Machida K, Ohtsuka T, Sato M, Enokida H, Yamashita M, Kanekura T, Arima S, Nakamura M, Sugiura T, Yoshimoto K, Kobayashi H, Ishitsuka K, Suzuki S, Ueno S, Ido A Effects of immune checkpoint inhibitor therapy resumption in patients with malignant tumors after moderate-to-severe immune-related adverse events. PloS one 17(4) e0267572, 2022

○ 和文誌

	学生の所属コース名	内容 ※がんプロ学生の氏名には下線を引くこと
1	放射線看護専門コース	小山珠美, 山口祐允, 金丸由美子, <u>松成裕子</u> . がん患者に対する看護職者の治療と就労の両立支援内容と困難感 : 文献レビュー . 鹿児島大学医学部保健学科紀要32 (1) 21-28 2022年3月

○ 国内学会

	学生の所属コース名	内容 ※がんプロ学生の氏名には下線を引くこと
1	がんプロ3期 がんゲノム医療コース	<u>川平真知子</u> , 柿原敦子, 前田英仁, 田中啓仁, 有馬志穂, 田ノ上史郎, 佐々木文郷, 橋元慎一, 上村修司, 東美智子, 井戸章雄, 当院における十二指腸腫瘍に対するD-LECSの現状と問題点、第119回日本消化器病学会九州支部例会（佐賀）2022年06月24日
2	先端がん医療学	<u>堤玉朋子</u> , 岩下祐司, 松窪将平, 上原翔平, 谷山央樹, <u>川平真知子</u> , 坂江貴弘, 中澤潤一, 熊谷公太郎, 船川慶太, 堀 剛, 坪内博仁, 井戸章雄, 外傷性膀胱損傷の治療時に偶然指摘しえた膀胱癒合不全の一例、第119回日本消化器病学会九州支部例会（佐賀）2022年06月24日
3	放射線看護専門コース	大石景子, 佐藤裕美子, 松成裕子, 新川哲子, 浦田秀子: 放射線診療における困難事例に関する検討会 第4回, 日本放射線看護学会第11回学術集会, 交流集会, 立川市, Online 2022年9月18日

「新ニーズに対応する九州がんプロ養成プラン」内部評価・外部評価シート

大学名	琉球大学
コーディネーター	医学部保健学科 血液免疫検査学分野 教授 福島 卓也
事務担当者	上原キャンパス事務部学務課教務係 係長 高山 和則

1. 概要

達成目標 ※前期から継続した目標（編集不可）
<p>○達成目標1：九州内の多様な新ニーズに対応するがん専門医療人を養成する。</p> <p>○達成目標2：ライフステージに応じたがん対策を推進する多職種人材養成を行う。</p> <p>○達成目標3：ゲノム医療や小児・希少がんに対する海外の先進事例を積極的に収集し発信することで本プランのみならず我が国におけるがん専門医療人の養成に寄与する。</p>

達成目標に対する今年度の実績 ※達成目標1～3に触れながら記載。必要に応じて、図や写真等を追加することも可能。
--

達成目標2に関して

【がん薬物療法専門医コース】

令和4（2021）年度新規の入学者はいなかった。令和元（2019）年10月入学者のがん薬物療法専門医取得に向けて支援を続けている。

【がん看護専門看護師コース】

令和3（2021）年度から1名が入学し履修中である。

令和元（2019）年度入学生も旧教育課程（26単位）によるCNS認定受験資格取得に向けて、CNS実習科目（6単位）を科目等履修にて履修し、必要な単位取得を修了した。

【緩和ケアエキスパートナース養成コース】

毎年5名の受入目標に対して、令和4（2022）年は10月より6名を受け入れ、受講中である。

令和3（2021）年のコース履修生8名は2022年9月にプログラムを修了し、8名全員に緩和ケアエキスパートナースの称号を付与した。

実績を踏まえた成果（学生教育の観点での成果について記載すること）

※適宜、学生のキャリア教育、キャリア形成の点にも触れながら記載すること。必要に応じて、図や写真等を追加することも可能。

【がん薬物療法専門医コース】

令和元（2019）年10月入学者を対象としたがんゲノム医療に関する講演会（講師：名古屋大学教授 加留部謙之輔先生）を令和4（2022）年6月17日に開催した。また研究に対する支援も行っている。

【緩和ケアエキスパートナース養成コース（インテンシブコース）】

本プログラムは、がん診療連携拠点病院やがん診療病院等で、将来的にがん看護、緩和ケア領域の認定看護師及び専門看護師となる人材育成を目指し、緩和ケア及びエンド・オブ・ライフ・ケアに必須とされる知識や技術の強化を目指している。

2022年9月、2021年度コース履修生8名の成果発表（本コース履修後の臨床実践や看護研究の成果等）を実施した。

看護管理者、看護スタッフとして、院内スタッフ教育や調査研究、業務改善を行うなど、緩和ケア及びがん看護の質向上の取組みに関する発表があり、現場でのリーダー的役割を果たしていたことが確認できた。

2. 各事業の取り組み状況

①教育コース（大学院コース、インテンシブコース） ※別表「数値実績一覧」も参照して記述
--

【がん薬物療法専門医コース】

がん薬物療法専門医取得に向けて、また学位取得に向けた研究の支援を行っている。

<p>②シンポジウム、セミナー、講習会等</p> <p>※別表「数値実績一覧」も参照して記述。他大学のモデルとなるような内容があれば特に触れること。</p>
<p>令和4（2022）年6月17日に名古屋大学教授 加留部謙之輔先生を講師として、「がんゲノムの情報を病理診断に活かすには-リンパ系腫瘍を中心に」のタイトルで、がんゲノム医療に関する講演会開催した。がん薬物療法専門医コース学生以外に多数の医学研究科、保健学研究科学生が参加した。</p>
<p>③地域や社会への情報発信の取り組み（ホームページ、SNS等の実績含む） ※別表「数値実績一覧」も参照して記述</p>
<p>当研究科HP (https://www.ryudai-igakubu-hokengakka.com/graduate-school/ganpro/#intensive) にて、2021年度に入学したCNSコース大学院生の紹介を掲載しており、問い合わせなどを受けている。</p> <p>緩和ケアエキスパートナース養成コースの紹介も行っており、それを見て、今年度受講を申し込んだ方も見られた。</p>
<p>④大学関連病院との連携（特に「がん診療連携拠点病院」「小児がん拠点病院」との連携に関して）</p>
<p>【がん看護専門看護師コース】</p> <p>CNSコース生（新教育課程1名、旧教育課程1名）は、琉球大学病院との連携体制の中で、緩和ケアセンター医師、専門看護師による講義、CNS実習の履修を継続している。また、2021年度は、静岡県立静岡がんセンター（実習施設）の協力も得て、上記2名の学生のCNS実習を受けていただき、大変有意義な学修ができた。</p>
<p>⑤ライフステージ領域における取り組み</p>
<p>今年度は開催なし</p>

3. 自己評価

<p>[選択肢] a:十分に目標を達成できている / b:目標を達成できている / c:あと少しで目標を達成できる / d:目標を達成できていない</p>
<p>c:あと少しで目標を達成できる</p>
<p>理由・分析等</p>
<p>緩和ケアエキスパートナース養成コース（インテンシブコース）では、2022年度も6名を受け入れ、目標5名を上回っており、達成している。</p> <p>がん看護専門看護師コースは、受入目標1名が達成できていないが、旧教育課程コース生1名が26単位修了することができ、2023年のCNS資格取得に向けた受験準備を行っている。</p> <p>がん薬物療法専門医養成コースは、新型コロナウイルスの影響と運営の資金がなかったこともあり入学者がいなかった。</p>
<p>自己評価を踏まえた、来年度に向けての改善点等</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・次期がんプロでは、医学研究科との連携を密にしてがん薬物療法専門医コース大学院生のリクルートに務める。 ・がん看護専門看護師コース学生募集に関しては、県内に限らず県外も視野に入れ、大学病院や地域のがん診療病院の看護管理者へのアプローチ等も含めて、より積極的な広報活動を行う。 <p>次年度もインテンシブコースは、受入目標5名を継続し、公開授業として開講する。</p>

「新ニーズに対応する九州がんプロ養成プラン」内部評価・外部評価シート
数値実績 一覧

■ セミナー・シンポジウム等の開催実績

	大学名	セミナー・シンポジウム等名称 ※主催以外による実施の場合は、その旨を末尾にカッコ書きで記入。	R4実績					
			開催回数	参加者数			参加大学数	
				※自動	(学内)※ 連携大学含	(学外)		うち拠点外 大学数
1	九州がんプロ	九州がんプロ全体研修会	1	58	57	1	10	1
2	九州がんプロ	教育研究成果発表会	1	65	65	0	10	0
3	九州がんプロ	九州大学・大分大学合同カンファレンス	1	41	20	21	2	0
4	九州がんプロ	北部エリア合同市民公開講座（3月開催予定）	-	-	-	-	-	-
5	九州大学	先端医用量子線技術科学コース講演会（3/11開催予定）	1	82	10	72	9	8
6	九州大学	小児緩和ケアチーム勉強会（共催）（3/28開催予定）	5	290	290	0	1	0
7	九州大学	がんゲノム医療セミナー（共催）	3	518	399	119	6	0
8	九州大学	九州大学病院がんセミナー（共催）（3/7開催予定）	3	261	156	105	2	0
9	九州大学	九州大学病院がんセンター 市民公開講座（共催）	1	102	2	100	1	0
10	福岡大学	Hematology Web Seminar（後援）	1	10	2	8	2	0
11	福岡大学	骨髄腫福岡セミナー2022～患者・家族・医療者のつどい（共催）	1	33	0	33	0	0
12	久留米大学	がん看護に関する事例検討会	1	16	6	10	4	0
13	久留米大学	久留米ネットワークとのコラボレーションセミナー	1	16	6	10	4	0
14	久留米大学	Kyushu Gastric Cancer Forum（大鵬薬品工業株式会社主催）	1	25	25	0	0	0
15	久留米大学	Kurume Breast Cancer Seminar（日本イーライリリー株式会社主催）	1	31	31	0	0	0
16	久留米大学	Taiho Web Lecture on Colorectal Cancer（大鵬薬品工業株式会社主催）	1	48	48	0	0	0
17	久留米大学	KEYTRUDA Biomarker seminar in 筑後（MSD株式会社主催）	1	45	45	0	0	0

18	久留米大学	第46回筑後腫瘍研究会（協和キリン株式会社主催・筑後腫瘍研究会後援）	1	26	26	0	0	0
19	久留米大学	第14回久留米・筑後乳がん診療地域連携研究会（日本イーライリリー株式会社主催）	1	52	52	0	0	0
20	久留米大学	Pfizer Breast Cancer Symposium in Kurume 2022（ファイザー株式会社主催）	1	33	33	0	0	0
21	久留米大学	第51回筑後地区乳腺カンファランス（乳がん検診従事者講習会） （久留米医師会/大鵬薬品工業株式会社共催）	1	28	28	0	0	0
22	久留米大学	肺癌周術期治療セミナー in 筑後（中外製薬株式会社主催）	1	27	27	0	0	0
23	久留米大学	大学院特別講義「次世代のがん治療のための遺伝子工学に基づく生物製剤の創薬研究」	1	21	21	0	0	0
24	久留米大学	久留米大学公開講座 最先端のがん医療「ロボット支援手術」	1	5	1	4	0	0
25	久留米大学	食道癌薬物治療フォーラム（MSD株式会社主催）	1	16	16	0	0	0
26	長崎大学	長崎大学がんプロ記念講演会	1	50	37	13	2	1
27	長崎大学	県民公開講座「がんについてよく知ろう」（後援）	1	76	14	62	1	0
28	長崎大学	長崎県がん診療連携拠点病院研修会（共催）第1回	1	50	24	26	1	0
29	長崎大学	長崎県がん診療連携拠点病院研修会（共催）第2回	1	108	33	75	1	0
30	長崎大学	長崎県がん診療連携拠点病院研修会（共催）第3回	1	52	37	15	1	0
31	長崎大学	長崎県がん診療連携拠点病院研修会（共催）第4回 3月6日開催予定	-	-	-	-	-	-
32	長崎大学	長崎県がん診療連携パス研修会（共催）第1回	1	151	30	121	1	0
33	長崎大学	長崎県がん診療連携パス研修会（共催）第2回 3月10日開催予定	-	-	-	-	-	-
34	大分大学	教育セミナー「がんゲノム：肺癌の最新研究と治療」（3月開催予定）	-	-	-	-	-	-
35	宮崎大学	がんセミナー	13	162	159	3	1	0
36	宮崎大学	がんプロ講演会 「小中高校生へのがん教育」～活動を通しての課題と今後の展望～	1	32	16	14	2	0
37	鹿児島大学	がん薬物療法セミナー（現地およびWEB研修会） ※2023年3月1日および3月17日に開催予定（数値は見込みで記載）	2	275	25	250	2	1
38	琉球大学	がんプロ講演会（がんゲノムの情報を病理診断に活かすには-リンパ系腫瘍を中心に）	1	10	10	0	1	0
合計（自動計算）			55	2,815	1,751	1,062	64	11

**「新ニーズに対応する九州がんプロ養成プラン」内部評価・外部評価シート
数値実績 一覧**

- コース履修者・修了者の満足度調査（アンケート等）
- 指導技術向上等のためのFD
- ホームページ更新／SNS投稿回数

	大学名	コース履修者・修了者の満足度調査（アンケート等）		指導技術向上等のためのFD		ホームページ更新／SNS投稿回数	
		実施数	実施人数	実施回数	参加人数	ホームページ更新回数	SNS投稿回数
1	九州がんプロ	1	44	1	58	24	38
2	九州大学	0	0	37	133	0	0
3	福岡大学	0	0	0	0	0	0
4	久留米大学	0	0	0	0	1	0
5	佐賀大学	0	0	0	0	0	0
6	長崎大学	0	0	0	0	10	0
7	熊本大学	0	0	0	0	0	0
8	大分大学	1	4	0	0	0	0
9	宮崎大学	0	0	0	0	3	0
10	鹿児島大学	0	0	0	0	0	0
11	琉球大学	0	0	0	0	0	0
合計（自動計算）		2	48	38	191	38	38

「新ニーズに対応する九州がんプロ養成プラン」内部評価・外部評価シート
 数値実績 一覧

■ 教育プログラム・コース（インテンシブコース以外）の受入実績

No.	大学名	養成分野	教育プログラム・コース名称	対象職種	R4			
					受入実績	修了者数		
1	九州大学	ゲノム	ゲノム基盤先端臨床腫瘍学コース	医師	10	7		
2		希少がん・小児がん	希少がん・放射線治療学コース	医師	0	0		
3		希少がん・小児がん	小児がん・希少がん臨床腫瘍学コース	医師	1	0		
4		ライフステージ	先端医用量子線技術科学コース	医学物理士	13	13		
5		希少がん・小児がん	がん専門細胞検査士コース修士課程	その他（細胞検査士）	1	0		
6		希少がん・小児がん	がん研究薬剤師コース博士課程	薬剤師	2	0		
7	福岡大学	ライフステージ	ライフステージに応じたがん専門医療人育成コース	医師	1	1		
8	久留米大学	希少がん・小児がん	希少がん診療養成コース	医師	0	1		
9		ライフステージ	専門職養成コース がん看護分野 CNS養成	看護師	1	1		
10	佐賀大学	ライフステージ	統合的地域がん治療専門医育成コース	医師	0	0		
11		ライフステージ	統合的地域がん医療人育成プログラム	医師	0	0		
12	長崎大学	ゲノム	ゲノム医療人材養成コース	医師	3	1		
13				ライフステージ	包括的がん専門医療人養成コース	歯科医師	0	1
						薬剤師	0	0
14		ライフステージ	がん看護専門看護師養成コース	医師	1	0		
15	熊本大学	ゲノム	研修医・大学院一体型がん専門博士養成コース	歯科医師	2	0		
				薬剤師	0	0		
16	大分大学	ゲノム	ゲノム医療研究者養成コース（博士課程）	看護師	0	0		
17		ライフステージ	多様なニーズに貢献するがん看護専門看護師コース（修士課程）	医師	0	1		
18	宮崎大学	ライフステージ	ライフステージに応じた全人的統合的がん治療専門医育成コース	看護師	0	0		
19		ライフステージ	がんと共に生きることを支えるがん看護専門看護師養成コース	医師	0	0		
20	鹿児島大学	ゲノム	先端的がん医療コース	看護師	0	0		
21		ライフステージ	包括的地域がん医療コース	医師	0	0		
22		ライフステージ	放射線看護専門コース	看護師	0	1		
23	琉球大学	ライフステージ	ライフステージに応じたがん対策を推進する人材の養成・がん看護専門看護師養成コース	看護師	0	1		
24		希少がん・小児がん	希少がん及び小児がんに対応できる医療人材の養成・がん薬物療法専門医コース	医師	0	0		
				医師 小計（自動計算）	23	21		
				歯科医師 小計（自動計算）	2	1		
				薬剤師 小計（自動計算）	2	0		
				看護師 小計（自動計算）	1	3		
				その他 小計（自動計算）	14	13		
				合計（自動計算）	42	38		

**「新ニーズに対応する九州がんプロ養成プラン」内部評価・外部評価シート
数値実績 一覧**

■ 教育プログラム・コース（インテンシブコース）の受入実績

	大学名	養成分野	教育プログラム・コース名称	対象職種	R4	
					受入実績	修了者数
1	九州がんプロ	ゲノム/希少がん・小児がん/ライフステージ	新ニーズに対応するがん専門医療人養成インテンシブコース	その他（各大学大学院生・各大学附属病院および九州内関連病院の医師、看護師、薬剤師、臨床心理士、遺伝カウンセラーなど多職種の医療従事者）	4	2
2	福岡大学	ライフステージ	多職種連携がん専門医療人育成コース	医師	3	3
				看護師	0	0
				薬剤師	7	7
				その他（理学療法士等）	0	0
3	久留米大学	ライフステージ	大学院医学研究科修士課程「科目等履修生制度」	その他（地域医療に携わる医療従事者全般）	0	0
4	熊本大学	ライフステージ	ライフステージに応じたがん対策を推進するがん専門薬剤師コース	薬剤師	0	0
5	大分大学	ライフステージ	ライフステージに応じたチーム医療人養成コース	その他（医療従事者全般）	2	16
6	宮崎大学	ライフステージ	ライフステージに応じた地域がん総合治療医育成コース	医師	3	3
		希少がん・小児がん	成人T細胞白血病専門医療人養成コース	医師	0	0
8	鹿児島大学	ライフステージ	それぞれのライフステージに即したがん患者ケアプログラム	その他（医師、歯科医師、薬剤師、看護師、医療ソーシャルワーカー等）	0	0
		希少がん・小児がん	希少がんおよび肉腫の集学的治療プログラム	その他（医師、歯科医師、薬剤師、看護師等）	0	0
		その他	がん専門薬剤師養成コース	薬剤師	0	0
10						
11	琉球大学	ライフステージ	ライフステージに応じたがん対策を推進する人材の養成・緩和ケアエキスパートナース養成コース	看護師	6	8
				医師 小計（自動計算）	6	6
				歯科医師 小計（自動計算）	0	0
				薬剤師 小計（自動計算）	7	7
				看護師 小計（自動計算）	6	8
				その他 小計（自動計算）	6	18
				合計（自動計算）	25	39

「新ニーズに対応する九州がんプロ養成プラン」内部評価・外部評価シート
数値実績 一覧

■ 受験・合格・資格取得者数

	コースを開設している 大学・研究科・専攻名・コース名	養成する専門分野 ※自動	受験・合格・資格取得者数			
			取得が見込まれる各学会等認定資格のうち 受験や合格実績がある資格名	R4		
				受験者	合格者	資格取得者
	計		20	14	17	
1	九州大学 大学院医学系学府 医学専攻 小児がん・希少がん臨床腫瘍学コース	希少がん・小児がん	小児血液・がん専門医（日本小児血液・がん学会）	1	1	1
2	九州大学 大学院医学系学府 医学専攻 ゲノム基盤先端臨床腫瘍学コース	ゲノム	内科専門医（日本内科学会）	2	2	2
3	九州大学 大学院医学系学府 医学専攻 ゲノム基盤先端臨床腫瘍学コース	ゲノム	消化器外科専門医（日本消化器外科学会）	1	1	1
4	九州大学 大学院医学系学府 医学専攻 ゲノム基盤先端臨床腫瘍学コース	ゲノム	消化器がん外科治療認定医（日本消化器外科学会）	1	1	1
5	九州大学大学院医学研究院保健学部門医用量子線科学分野 先端医用量子線技術科学コース	ライフステージ	医学物理士（医学物理士認定機構）	6	0	3
6	久留米大学大学院医学研究科修士課程看護学専攻 専門職養成コース がん看護分野 CNS養成	がん看護分野 CNS養成	がん看護専門看護師（日本看護協会）	1	1	1
7	長崎大学大学院医歯薬学総合研究科医療科学専攻, 新興感染症病態制御学系専攻, 放射線医療科学専攻（博士課程） 包括的がん専門医療人養成コース	ゲノム	日本専門医機構認定・放射線科専門医（日本医学放射線学会）	1	1	1
8	長崎大学大学院医歯薬学総合研究科医療科学専攻, 新興感染症病態制御学系専攻, 放射線医療科学専攻（博士課程） ゲノム医療人材養成コース	ゲノム	気管支鏡専門医（日本呼吸器内視鏡学会）	1	1	1
9	長崎大学大学院医歯薬学総合研究科医療科学専攻, 新興感染症病態制御学系専攻, 放射線医療科学専攻（博士課程） ゲノム医療人材養成コース	ゲノム	消化器病専門医（日本消化器病学会）	1	1	1
10	長崎大学大学院医歯薬学総合研究科医療科学専攻, 新興感染症病態制御学系専攻, 放射線医療科学専攻（博士課程） ゲノム医療人材養成コース	ゲノム	消化器内視鏡専門医（日本消化器内視鏡学会）	1	1	1
11	熊本大学大学院医学教育部医学専攻 研修医・大学院一体型がん専門博士養成コース	ライフステージ	肝臓専門医（日本肝臓学会）	1	1	1
12	熊本大学大学院医学教育部医学専攻 研修医・大学院一体型がん専門博士養成コース	ライフステージ	消化器外科専門医（日本消化器外科学会）	1	1	1
13	熊本大学大学院医学教育部医学専攻 研修医・大学院一体型がん専門博士養成コース	ライフステージ	がん治療認定医（日本がん治療認定医機構）	1	1	1
14	大分大学大学院医学系研究科 多様なニーズに貢献するがん看護専門看護師コース（修士課程）	ゲノム	がん看護専門看護師（日本看護協会）	1	1	1

文部科学省『多様な新ニーズに対応する「がん専門医療人材（がんプロフェッショナル）」養成プラン』
採択事業 新ニーズに対応する九州がんプロ養成プラン

令和4年度 内部評価報告書

発行 令和5（2023）年3月
編集・発行 新ニーズに対応する九州がんプロ養成プラン 事業運営推進協議会
九州がんプロ事務局（九州大学医系学部等事務部）
ijsganpro@jimu.kyushu-u.ac.jp
<http://www.k-ganpro.com/>